

令和3年度 S Y L L A B U S

秋田市医師会立秋田看護学校

目 次

教育課程	1
講師名簿	2
基礎分野	
情報科学	4
生物学	5
論理学	6
英語Ⅰ	7
英語Ⅱ	8
人間関係論	9
文学	10
発達心理学	11
社会学	12
倫理学	13
保健体育	14
家族関係論	15
ボランティア論	16
専門基礎分野	
人体の構造	18
人体の機能	19
生化学	20
栄養学	21
微生物学	22
病態学総論	23
呼吸器の病態論	24
循環器の病態論	25
消化器の病態論	26
腎・泌尿器の病態論	27
内分泌・代謝・造血の病態論	28
感覚器・脳神経の病態論	29
運動器・生殖器の病態論	32
外科的治療論	33
薬理学	35
健康科学	36
公衆衛生学	37
社会福祉	38
関係法規	39
臨床心理学	40
カウンセリング演習	41

目 次

専門分野Ⅰ

基礎看護学	42
看護学概論	44
看護倫理	45
看護学援助論Ⅰ	46
看護学援助論Ⅱ	47
看護学援助論Ⅲ	48
看護学援助論Ⅳ	49
看護学援助論Ⅴ	50
討議法演習	51
看護研究概説Ⅰ	52
看護研究概説Ⅱ	53
基礎看護学実習Ⅰ	54
基礎看護学実習Ⅱ	55

専門分野Ⅱ

成人看護学	56
成人看護学概論	58
成人看護学援助論Ⅰ	59
成人看護学援助論Ⅱ	60
成人看護学対象論Ⅰ	61
成人看護学対象論Ⅱ	62
成人看護学方法論	64
成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	65
老年看護学	67
老年看護学概論Ⅰ	68
老年看護学概論Ⅱ	69
老年看護学対象論	70
老年看護学方法論	71
老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ	72
小児看護学	74
小児看護学概論	75
小児看護学対象論	76
小児看護学方法論Ⅰ	77
小児看護学方法論Ⅱ	78
小児看護学実習	79
母性看護学	80
母性看護学概論	82
母性看護学対象論	83
母性看護学方法論Ⅰ	84
母性看護学方法論Ⅱ	85
母性看護学実習	86

目 次

精神看護学	87
精神看護学概論	88
精神看護学対象論	89
精神看護学方法論Ⅰ	90
精神看護学方法論Ⅱ	91
精神看護学実習	92
統合分野	
在宅看護論	94
在宅看護概論	96
在宅看護環境論	97
在宅看護ケア論Ⅰ	98
在宅看護ケア論Ⅱ	99
在宅看護論実習	100
看護の統合と実践	101
医療安全	102
国際看護	103
災害看護論	104
看護マネジメント	105
臨床看護の実践	106
看護の統合と実践	107

資料

年次別学習行動目標

3年次

1. 看護の質をよりよく発展させるための技術能力を身につける。
2. 臨地実習においては、これまで培ってきた知識・技術・態度を活用し、
理論と実践の統合をはかり、看護観を確立する。
3. 専門職業人として地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる能力を身につける。



2年次

1. 健康障害を持った対象を総合的にとらえ、看護場面に対応できる判断能力、
応用能力・問題解決能力の基礎的能力を身につける。
2. 保健医療チームにおける看護の役割を認識し、チームの一員として、
協力して行動する。



1年次

1. 看護の対象である人や社会を幅広く理解する。
2. さまざまな情報に関心を持ち、整理し活用する能力を学ぶ。
3. 生命の尊厳と人権擁護を理解する。
4. 疑問に思った事を検証する、科学的思考能力を身につける。
5. 人間に対する理解を深め、相手に共感し、受け入れる態度を身につける。
6. ボランティア活動を通し、積極的に社会へ貢献する精神を身につける。

教 育 課 程 (科目別単位・時間数)

	科 目	教科目	単位	時間	1年次						2年次						3年次											
					前期			後期			前期			後期			前期			後期								
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
					単位	時間					単位	時間					単位	時間				単位	時間					
基礎分野	情報科学		1	30							1	30																
	生物学		1	30							1	30																
	論理学		1	30							1	30																
	英語 I		1	30	1	30																						
	英語 II		1	15										1	15													
	人間関係論		1	30	1	30																						
	文学		1	30	1	30																						
	発達心理学		1	30							1	30																
	社会学		1	30	1	30																						
	倫理学		1	30	1	30																						
	保健体育		1	30	1	30																						
	家族関係論		1	30							1	30																
専門基礎分野	ボランティア論		1	15	1	15																						
	小計		13	360	7	195	5	150					1	15														
	人体の構造		1	30	1	30																						
	人体の機能		1	30	1	30																						
	生化学		1	30							1	30																
	栄養学		1	15							1	15																
	微生物学		1	30							1	30																
	病理学総論		1	15	1	15																						
	呼吸器の病理学		1	30							1	30																
	循環器の病理学		1	30							1	30																
	消化器の病理学		1	30	1	30																						
	腎・泌尿器の病理学		1	30							1	30																
専門分野 I	内分泌・代謝・造血器の病理学		1	30													1	30										
	感覚器・脳神経系の病理学		1	30													1	30										
	運動・生殖器の病理学		1	30													1	30										
	外科的治療論		1	15							1	15																
	薬理学		1	30													1	30										
	健康科学		1	15	1	15																						
	公衆衛生学		1	15										1	15													
	社会福祉		1	30										1	30													
	関係法規		1	15										1	15													
	臨床心理学		1	15										1	15													
	カウンセリング演習		1	30													1	30										
	小計		21	525	5	120	7	180	7	165	2	60																
専門分野 II	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	30																						
		看護倫理	1	15	1	15																						
		看護学援助論 I	1	30	1	30																						
		看護学援助論 II	1	30	1	30																						
		看護学援助論 III	1	30							1	30																
		看護学援助論 IV	2	60	1	30					1	30																
		看護学援助論 V	1	30							1	30																
		診療法演習	1	30							1	30																
		看護研究概説 I	1	30													1	30										
		看護研究概説 II	1	15																				1	15			
	臨床実習	基礎看護学 I	1	45							1	45																
		基礎看護学 II	2	90													2	90										
	小計		14	435	5	135	5	165			3	120												1	15			
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	1	15							1	15																
		成人看護学援助論 I	1	30										1	30													
		成人看護学援助論 II	1	15										1	15													
		成人看護学対象論 I	1	30										1	30													
		成人看護学対象論 II	2	60										1	30													
		成人看護学方法論	1	30										1	30													
	臨床実習	成人看護学 I	2	90																			2	90				
		成人看護学 II	2	90																			2	90				
		成人看護学 III	2	90																			2	90				
	老年看護学	老年看護学概論 I	1	30										1	30													
		老年看護学概論 II	1	15													1	15										
		老年看護学方法論	1	30										1	30													
	臨床実習	老年看護学 I	2	90																			2	90				
		老年看護学 II	2	90																			2	90				
		小児看護学概論	1	15										1	15													
	小児看護学	小児看護学対象論	1	30													1	30										
		小児看護学方法論 I	1	30										1	30													
		小児看護学方法論 II	1	30													1	30										
	臨床実習	小児看護学	2	90																			2	90				
		母性看護学概論	1	30										1	30													
		母性看護学対象論	1	15										1	15													
統合分野	在宅看護論	在宅看護学方法論 I	1	30																								
		在宅看護学方法論 II	1	30																								
		医療安全	1	15													1	15										
	看護の統合と実践	国際看護	1	15							1	15																
		災害看護論	1	15										1	15													
		看護マネジメント	1	15													1	15										
		臨床看護の実践	1	15																				1	15			
	臨床実習	在宅看護論	2	90																			2	90				
		看護の統合と実践	2	90																				2	90			
	小計		13	360							1	15	3	60	4	90	2	90	3	105								
	総合計		100	3000	17	450	19	525	22	540																		

令和3年度 講 師 名 簿

	科 目 名	教科目名	単位	時間	講 師 名	専任・兼任	所 属 先	年次	時期	曜日	時間
基礎分野	情報科学		1	30	柳 原 昌 輝	兼任	秋田工業高等専門学校 名誉教授	1	後期	火	9:00～10:30
	生物学		1	30	川野辺 英 昭	兼任	前職 秋田大学教育学部 准教授	1	後期	水	10:40～12:10
	論理学		1	30	田 子 多津子	兼任	前職 日本赤十字秋田看護大学 非常勤講師	1	後期	火	14:50～16:20
	英語Ⅰ		1	30	宮 本 律 子	兼任	秋田大学国際資源学研究所 教授	1	前期	火	10:40～12:10
	英語Ⅱ		1	15	高 階 悟	兼任	秋田県立大学 名誉教授	2	後期	木	14:50～16:20
	人間関係論		1	30	佐々木 久 長	兼任	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 臨床看護学講座 准教授	1	前期	木	9:00～10:30
	文学		1	30	佐 藤 雅 彦	兼任	JET日本語集中講座事務局代表 秋田大学国際交流センター非常勤講師	1	前期	木	10:40～12:10
	発達心理学		1	30	森 和 彦	兼任	秋田大学教育文化学部 教育心理学講座 教授	1	後期	月	9:00～10:30
	社会学		1	30	和 泉 浩	兼任	秋田大学教育文化学部 地域社会講座 教授	1	前期	水	10:40～12:10
	倫理学		1	30	橋 爪 隆 弘	兼任	はしづめクリニック 院長		前期	月	13:10～14:40
					石 川 千 夏	兼任	市立秋田秋田総合病院 副看護部長	1	後期	水	14:50～16:20
					大 山 京 子	兼任	外旭川病院 副院長兼看護部長		後期	火	14:50～16:20
	保健体育		1	30	松 下 翔 一	兼任	秋田大学教育文化学部学校教育課程 教育実践講座 講師	1	前期	水	13:30～15:30
	家族関係論		1	30	佐々木 久 長	兼任	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 臨床看護学講座 准教授	1	後期	木	9:00～10:30
	ボランティア論		1	15	佐 藤 沙 織	兼任	日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科 講師	1	前期	水	9:00～10:30
					稲 岡 一 枝	兼任	日本赤十字社秋田県支部 参事兼事業推進係長	1	前期	火	13:10～14:40
専門基礎分野	人体の構造		1	30	板 東 良 雄	兼任	秋田大学大学院医学系研究科 形態解析学・器官構造学講座教授	1	前期	月	9:00～10:30 10:40～12:10
	人体の機能		1	30	榎 山 日出樹	兼任	学校法人コア学園秋田リハビリテーション学院 副院長 理学療法学科学科	1	前期	金	9:00～10:30
	生化学		1	30	眞 崎 容 子	兼任	前職 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 麻酔学講座 助教	1	後期	金	13:10～14:40
	栄養学		1	15	新 田 智 子	兼任	あきた東内科クリニック 管理栄養士	1	後期	月	13:10～14:40
	微生物学		1	30	原 田 誠三郎	兼任	前職 秋田県総合保健事業団	1	後期	金	9:00～10:30
	病態学総論		1	15	川 村 公 一	兼任	早稲田大学先進理工学部 客員教授	1	前期	月	14:50～16:20
	呼吸器の病態論		1	30	伊多波 未 来	兼任	秋田赤十字病院附属あきた健康管理センター		前期・後期	木	14:50～16:20
					福 井 伸	兼任	秋田厚生医療センター 呼吸器内科科長	1	後期	木	10:40～12:10
					本 間 光 信	兼任	市立秋田総合病院 中央診療部長			水	14:50～16:20
	循環器の病態論		1	30	阿 部 芳 久	兼任	市立秋田総合病院 副院長	1	後期	月	13:10～14:40
	消化器の病態論		1	30	小 松 眞 史	兼任	市立秋田総合病院	1	前期・後期	月	14:50～16:20
					津 田 聡 子	兼任	市立秋田総合病院	1	前期・後期	月	14:50～16:20
					大 野 秀 雄	兼任	市立秋田総合病院	1	後期	月	14:50～16:20
					辻 剛 俊	兼任	市立秋田総合病院	1	後期	月	14:50～16:20
					中 根 邦 夫	兼任	市立秋田総合病院	1	後期	月	14:50～16:20
	腎・泌尿器の病態論		1	30	大 谷 浩	兼任	秋田厚生医療センター 診療部長		後期	金	14:50～16:20
					石 田 俊 哉	兼任	市立秋田総合病院	1	後期	金	14:50～16:20
	内分泌・代謝・造血の病態論		1	30	三 浦 岳 史	兼任	市立秋田総合病院		前期	月	14:50～16:20
					成 田 琢 磨	兼任	あきた東内科クリニック 院長	2	前期	水	14:50～16:20
					山 口 昭 彦	兼任	前職 秋田郵政健康管理センター所長		前期	水	13:10～14:40
	感覚器・脳神経の病態論		1	30	大 川 聡	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	水	14:50～16:20
					近 江 永 豪	兼任	秋田厚生医療センター	2	前期	木	14:50～16:20
					小 関 史 朗	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	月	14:50～16:20
					姜 和 哲	兼任	かん眼科 院長	2	前期	水	13:10～14:40
	運動器・生殖系の病態論		1	30	木 村 善 明	兼任	市立秋田総合病院 副院長	2	前期	火	13:10～14:40
					軽 部 裕 子	兼任	市立秋田総合病院 産婦人科医長	2	前期	月	14:50～16:20
	外科的治療論		1	15	添 野 武 彦	兼任	秋田厚生医療センター 健康センター長		後期	木	14:50～16:20
					円 山 啓 司	兼任	市立秋田総合病院	1	後期	木	14:50～16:20 10:40～12:10
	薬理学		1	30	後 藤 康 晴	兼任	市立秋田総合病院 薬剤部長	2	後期	水	14:50～16:20
	健康科学		1	15	戸 堀 文 雄	兼任	秋田県総合保健事業団 常務理事	1	前期	木	14:50～16:20
	公衆衛生学		1	15	添 野 武 彦	兼任	秋田厚生医療センター 健康センター長	2	前期	火	14:50～16:20
	社会福祉		1	30	米 谷 恭 一	兼任	前職 秋田中央福祉会 事務局次長	2	前期	木	9:00～10:30
	関係法規		1	15	榎 山 日出樹	兼任	学校法人コア学園秋田リハビリテーション学院 副院長 理学療法学科学科	2	前期	木	10:40～12:10
	臨床心理学		1	15	濱 田 拓	兼任	臨床心理士	2	前期	月	9:00～10:30
	カウンセリング演習		1	30	濱 田 拓	兼任	臨床心理士	2	後期	月	9:00～10:30
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	伊 藤 多鶴子	専任	副学校長	1	前期	火	9:00～10:30
		看護倫理	1	15	伊 藤 多鶴子	専任	副学校長	1	前期	金	10:40～12:10
		看護学援助論Ⅰ	1	30	中 村 千 絵	専任	専任教員	1	前期・後期	月	10:40～12:10
					川 口 菜緒美	専任	専任教員	1	前期	金	10:40～12:10 13:10～14:40
		看護学援助論Ⅱ	1	30	中 川 まゆ子	専任	専任教員	1	前期	金	10:40～12:10
		看護学援助論Ⅲ	1	30	川 口 菜緒美	専任	専任教員	1	前期・後期	水	9:00～10:30
		看護学援助論Ⅳ	2	60	中 村 千 絵	専任	専任教員	1	前期・後期	金	13:10～14:40
					川 口 菜緒美	専任	専任教員	1	前期・後期	月・木	10:40～12:10 13:10～14:40
		看護学援助論Ⅴ	1	30	藤 本 具 子	専任	専任教員	1	後期	月	10:40～12:10
		討議法演習	1	30	中 村 千 絵	専任	専任教員	1	前期・後期	水	9:00～10:30
		看護研究概説Ⅰ	1	30	京 野 順 子	専任	教務主任	2	後期	火・金	10:40～12:10
		看護研究概説Ⅱ	1	30	中 村 千 絵	専任	専任教員	3	前期・後期	月・金	9:00～10:30 13:10～14:40
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	中 村 千 絵	専任	専任教員	1	後期		
					川 口 菜緒美	専任	専任教員	1	後期		
					中 川 まゆ子	専任	専任教員	2	後期		
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	中 村 千 絵	専任	専任教員	2	前期		
					川 口 菜緒美	専任	専任教員	2	前期		
					中 川 まゆ子	専任	専任教員	3	前期		

令和3年度 講 師 名 簿

	科 目 名	教科目名	単位	時間	講 師 名	専任・兼任	所 属 先	年次	時期	曜日	時間
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護概論	1	15	高 橋 文 子	専任	専任教員	1	後期	木	13:10～14:40
		成人看護学援助論Ⅰ	1	30	富 野 江里子	兼任	外旭川病院 看護師長	2	前期	水	14:50～16:20
					皆 川 千 年	専任	実習調整者	2	前期	水	10:40～12:10
		成人看護学援助論Ⅱ	1	15	菅 原 慶 勇	兼任	市立秋田総合病院 リハビリテーション科技師長	2	前期	火	13:10～14:40
					藤 本 具 子	専任	専任教員	2	前期	水	9:00～10:30
		成人看護学対象論Ⅰ	1	30	皆 川 千 年	専任	専任教員	2	前期・後期	月	10:40～12:10
					高 橋 文 子	専任	専任教員	2	前期・後期	火	14:50～16:20
		成人看護学対象論Ⅱ	2	60	高 橋 文 子	専任	専任教員	2	後期	月	10:40～12:10
					佐々木 薫	兼任	市立秋田総合病院 看護師長	2	前期	水	10:40～12:10
		成人看護学方法論	1	30	皆 川 千 年	専任	実習調整者	2	後期	木	9:00～10:30 10:40～12:10
					藤 本 具 子	専任	専任教員	2	後期	月	13:10～14:40 14:50～16:20
	老年看護学	老年看護学概論Ⅰ	1	30	長谷川 蘭 子	専任	専任教員	2	前期	火・木	9:00～10:30 10:40～12:10
		老年看護学概論Ⅱ	1	15	長谷川 蘭 子	専任	専任教員	2	後期	木	10:40～12:10
		老年看護学対象論	1	30	長谷川 蘭 子	専任	専任教員	2	前期	火・木	9:00～10:30 10:40～12:10
		老年看護学方法論	1	30	長谷川 蘭 子	専任	専任教員	2	後期	木	10:40～12:10
	小児看護学	小児看護学概論	1	15	薄 田 悦 子	専任	専任教員	2	前期	水・金	10:40～12:10
		小児看護学対象論	1	30	武 田 修	兼任	市立秋田総合病院	2	後期	水	13:10～14:40
					薄 田 悦 子	専任	専任教員	2	後期	木	9:00～10:30
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30	山 本 尚 樹	兼任	市立秋田総合病院 看護主任	2	前期	木	10:40～12:10
					薄 田 悦 子	専任	専任教員	2	後期	火・木	9:00～10:30 13:10～14:40
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30	大 高 恵 美	兼任	日本赤十字秋田看護大学准教授	2	後期	木	13:10～14:40
					薄 田 悦 子	専任	専任教員	2	後期	火・木	9:00～10:30 10:40～12:10
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	前期	金	13:10～14:40
		母性看護学対象論	1	15	軽 部 裕 子	兼任	市立秋田総合病院	2	後期	金	14:50～16:20
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期	火・金	13:10～14:40 14:50～16:20
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	2	後期	火・木	13:10～14:40 14:50～16:20
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	京 野 順 子	専任	教務主任	2	前期	木	14:50～16:20
		精神看護学対象論	1	30	水 俣 健 一	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	金	14:50～16:20
					内 藤 信 吾	兼任	市立秋田総合病院	2	前期	金	14:50～16:20
					備 前 由紀子	兼任	市立秋田総合病院 看護主任	2	前期	金	14:50～16:20
					齋 藤 武 彦	兼任	市立秋田総合病院 看護主任	2	前期	金	14:50～16:20
		精神看護学方法論Ⅰ	1	15	京 野 順 子	専任	教務主任	2	前期	月	13:10～14:40
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	中 川 まゆ子	専任	専任教員	2	後期	火・金	9:00～10:30 13:10～14:40
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90	皆 川 千 年	専任	実習調整者	3	前期・後期		
		成人看護学実習Ⅱ	2	90	藤 本 具 子	専任	専任教員	3	前期・後期		
		成人看護学実習Ⅲ	2	90	高 橋 文 子	専任	専任教員	3	前期・後期		
		老年看護学実習Ⅰ	2	90	長谷川 蘭 子	専任	専任教員	3	前期・後期		
					中 村 千 絵	専任	専任教員	3	前期・後期		
					川 口 菜緒美	専任	専任教員	3	前期・後期		
		老年看護学実習Ⅱ	2	90	長谷川 蘭 子	専任	専任教員	3	前期・後期		
					中 村 千 絵	専任	専任教員	3	前期・後期		
					川 口 菜緒美	専任	専任教員	3	前期・後期		
		小児看護学実習	2	90	薄 田 悦 子	専任	専任教員	3	前期・後期		
					中 村 千 絵	専任	専任教員	3	前期・後期		
		母性看護学実習	2	90	佐々木 寿美礼	専任	専任教員	3	前期・後期		
		精神看護学実習	2	90	京 野 順 子	専任	教務主任	3	前期・後期		
					中 川 まゆ子	専任	専任教員	3	前期・後期		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15	井 上 千鶴子	専任	専任教員	2	前期	水・金	9:00～10:30
		在宅看護環境論	1	30	八 代 雄 市	専任	秋田聖徳会多機能型支援センター第二聖和	2	前期	水	9:00～10:30
					井 上 千鶴子	専任	専任教員	2	前期	月	10:40～12:10
		在宅看護ケア論Ⅰ	1	30	井 上 千鶴子	専任	専任教員	2	後期	火・金	13:10～14:40
		在宅看護ケア論Ⅱ	1	30	井 上 千鶴子	専任	専任教員	2	後期	月・木	10:40～12:10
	看護の統合と実践	医療安全	1	15	櫻 田 明 子	兼任	市立秋田総合病院 医療安全推進室	2	後期	水	9:00～10:30
		国際看護	1	15	新 沼 剛	兼任	日本赤十字秋田看護大学 講師	2	後期	月	10:40～12:10
		災害看護論	1	15	藤 田 正 子	兼任	秋田厚生医療センター 副師長	2	前期	月	13:10～14:40
		看護マネジメント	1	15	吹 谷 由美子	専任	秋田県看護協会常務理事	2	後期	木	9:00～10:30
		臨床看護の実践	1	15	皆 川 千 年	専任	実習調整者	3	前期・後期	火・水	9:00～10:30
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90	井 上 千鶴子	専任	専任教員	3	前期・後期		
		看護の統合と実践実習	2	90	皆 川 千 年	専任	実習調整者	3	後期		

基礎分野

科目名 情報科学							
科目名	情報科学	担当講師名	柳原 昌輝	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	倫理学・看護学						
学習目標	統計学及び情報科学の基礎的知識と看護に生かす方法論を理解する。 1 情報収集と解析の関連性 2 情報処理の手段としての統計処理の基礎 3 情報収集と情報処理の方法論 4 統計処理の実際 5 看護と情報処理						
講義計画 と 進め方	第1回 情報化社会について 第2回 情報化社会の現状と課題 第3回 医療・看護と情報化 第4回 情報と情報処理 第5回 コンピュータの基礎知識 第6回 論理回路の基礎 第7回 ハードウェアとソフトウェア 第8回 コンピュータネットワークとインターナショナル 第9回 前半試験・まとめ 第10回 統計処理の概要 第11回 記述統計の基礎 第12回 推測統計の基礎 第13回 統計処理演習 第14回 統計処理演習 第15回 まとめ 第16回 後半試験						
講義形式	講義						
成績評価の 方法	試験結果にレポート、小テスト、授業態度の評価を加える						
テキスト・ 参考図書等	テキスト： 看護・医療系のための情報科学入門 サイオ出版						
履修上の 注意・ 受講条件							

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 生物学							
科目名	生物学	担当講師名	川野辺 英昭	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学						
学習目標	生物の基本的な構成単位である細胞はすべて細胞膜に覆われていて、中に必ず情報分子としてのDNAが存在する。DNAから発信された情報はリボソームという装置でタンパク質に変換され、そのタンパク質が様々な機能を発揮することで生命は維持され親から子へとつながってゆく。授業では、そのようなDNAとタンパク質のはたらきをベースに、基本的な生命現象の理解を目指す。						
講義計画 と 進め方	1: 生物界の成り立ち,および細胞の多様性と共通性 2: 細胞の構造と機能 (1)細胞膜と細胞小器官 3: 細胞の構造と機能 (2)2枚の膜で包まれた細胞小器官 4: 細胞を構成する物質ー核酸とタンパク質ー 5: 細胞の物質代謝 (1)解糖系 6: 細胞の物質代謝 (2)ミトコンドリアでの ATP 合成 7: 細胞の増殖 (1)細胞周期と DNA の複製 8: 細胞の増殖 (2)有糸分裂の仕組み 9: 個体の増殖ー減数分裂と有性生殖ー 10: 遺伝学の歩み (1)メンデルの研究、遺伝子解明の歴史 11: 遺伝子の働き (1)転写と遺伝暗号 12: 遺伝子の働き (2)翻訳 13: 遺伝子の働きの調節 (1)原核生物の例 14: 遺伝子の働きの調節 (2)真核生物の例 15: まとめ 16: 試験						
講義形式	講 義						
成績評価の方法	期末試験の成績をもとに評価する						
テキスト・ 参考図書等	教科書 :「ZERO からの生命科学」 木下 勉 他著 南山堂 参考図書:「基礎から学ぶー生物学・細胞生物学ー」 和田 勝 羊土社 :「遺伝子のふしぎ」 石館 三枝子 新日本出版社 :「生命のしくみ11話」 宗川 吉汪 新日本出版社						
履修上の 注意・ 受講条件	ノートを取り、授業後プリントをよく読み、分からないところは質問すること。						

秋田市医師会立秋田看護学校

		科目名 論理学					
科目名	論理学	担当講師名	田子 多津子	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	文学・情報科学・人間関係論・社会学						
学習目標	論理的思考法を身につけ、論理の力を養う。 1. 論理的文章の構造を知る。 2. 論証の構造を理解する。 3. 演繹・推測の適・不適を捉える力をつける。						
講義計画 と 進め方	第 1 回 導入—論理とは 第 2 回 書き言葉と話し言葉 第 3-5 回 接続表現に注意する (小テスト) 第 6-8 回 議論の骨格をとらえる (小テスト) 第 9 回 論証—演繹と推測、仮説形成 第 10 回 三段論法 第 11 回 正しい推論の条件、暗黙の前提 第 12 回 条件構造 (1) - 「ならば」の構造、逆・裏・対偶 第 13 回 条件構造 (2) - 逆は必ずしも真ならず 第 14 回 否定の論理 (1) 第 15 回 否定の論理 (2) 第 16 回 試験						
講義形式	講義と演習						
成績評価の 方法	授業中の小テスト(40%)と最終の試験(60%)により評価する。						
テキスト・ 参考図書等	必要に応じてプリントを配付する。 参考書は授業中に適宜紹介する。						
履修上の 注意・ 受講条件							

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名 英語 I							
科目名	英語 I	担当講師名	宮 本 律 子	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	英語 II						
学習目標	1. 英語に親しむ 2. 日本語を母語としない患者とコミュニケーションをとるための英語の基礎力（主として会話の力）を身につける 3. 医療に関する一般的な単語を英語で覚える						
講義計画 と 進め方	予習をしてあることを前提に授業を進める。新出単語の意味を事前に必ず調べておくように。 一つのユニットを 1 回の授業で終える程度のスピードで進める予定であるが、課の難易度によって進み方が変わることもあり得る。 <u>各 Unit が終わったら、その課に関する小テストを次の時間で実施するので、毎週小テストがある。</u>						
講義形式	講義と演習、ペアワーク、グループワーク						
成績評価の方法	小テスト（Unit ごとのテスト）50%・期末テスト 50%						
テキスト・ 参考図書等	テキスト：『Talking with Your Patients in English』 成美堂 参考図書：特になし						
履修上の 注意・ 受講条件	＊必ず予習をしておくこと。 ＊授業には必ず辞書を持ってくる。紙媒体でも電子辞書でもよい。 ＊課ごとの小テストの点数が成績の半分を占めるので、日ごろの復習が大事です。						

秋田市医師会立秋田看護学校

						科目名	英語Ⅱ
科目名	英語Ⅱ	担当講師名	高階 悟	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2年次 後期
関連科目	英語Ⅰ						
学習目標	日常の医療現場で使える基本的な英会話表現を学習する。 同時に、さまざまな場面で患者に対応する表現を学び、英語の総合的な力をつける。						
講義計画 と 進め方	各ユニットの英会話表現を覚え、CDを利用して英語を聞き取り、正しい発音を身につける。 医療関係の専門用語を覚える。 ・オリエンテーション、語彙診断テスト ・患者への自己紹介 ・患者さんに質問する ・場所や方向を教える ・患者さんの具合を聞く ・診察時の表現 ・患者を確認する ・英語で人の身体や臓器を表す用語を覚える。 ・英語で症状を表す表現を覚える。						
講義形式	演習						
成績評価の 方法	出席状況(10%)、小テスト(40%)、期末試験(50%)、および授業に取り組む姿勢などを総合的に判断する。						
テキスト・ 参考図書等	テキスト: English for Manners and HospitalityⅡ, 鷹書房弓プレス						
履修上の 注意・ 受講条件	テキストと辞書を持参すること						

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	人間関係論	担当講師名	佐々木 久長	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	論理学・発達心理学・社会学・倫理学・臨床心理学						
学習目標	人間関係の基礎的理論とカウンセリング技法の習得 1. 人間関係の基礎とコミュニケーション 2. 看護における人間関係 3. カウンセリング技法の基礎						
講義計画 と 進め方	1. 関係の主体者としての「私」 2. 人間の存在性について 3. 出会いと関係性に関する理解 4. コミュニケーションの基本的理解 5. 傾聴とロールプレイ 6. うつ状態にある人への対応 7. 希死念慮のある人への対応 8. 交流分析の理解 9. 交流分析の理解 10. 患者と看護師の人間関係 11. 患者と看護師の人間関係 12. カウンセリング技法の基礎 13. カウンセリング技法の基礎 14. 人間関係における病理 15. まとめ 16. 試験						
講義形式	講義（一部演習）						
成績評価の 方法	定期試験とレポート						
テキスト・ 参考図書等	授業中に資料を配布する						
履修上の 注意・ 受講条件							

		科目名 文 学					
科目名	文 学	担当講師名	佐藤 雅彦	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	論理学・社会学						
学習目標	1 文学にふれる 2 資料から必要な情報を読みとり、言語化する 3 論理的な文章の書き方の基礎を身につける						
講義計画 と 進め方	1 ガイダンス 2～15 論理的な文章を書くときのポイント データ類から情報を読み取る 要旨、感想などを他の人が読んでもわかるように書く 文学作品およびその映像化作品などに接する 授業のまとめ 16 期末テスト						
講義形式	講義と演習						
成績評価の 方法	評価は以下の観点から行います。 小テスト 30% 期末テスト 30% 文章作成 30% 授業への参加度 10%						
テキスト・ 参考図書等	授業中に資料を配布します。						
履修上の 注意・ 受講条件	授業は予習を前提として進めます。						

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	発達心理学	担当講師名	森 和 彦	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	人間関係論・論理学・社会学・倫理学・健康科学・社会福祉						
学習目標	人間の生涯にわたる発達の心理的特徴を理解する。						
講義計画 と 進め方	1 オリエンテーション・生涯発達とは何か 2 赤ちゃんの基本的感覚・身体・運動能力の発達 3 発達障害の概念と「できる／できない」の捉え方 4 気質（特性論的理解と支援のあり方）とその発達 5 新生児のコンピテンスとそのコミュニケーション 6 言語的コミュニケーションへの発達過程 7 情緒的発達：愛着、人見知りなどのメカニズム 8 情緒的発達：自律と愛着の移行対象物について 9 認知的発達段階と自己中心性 10 自己意識の発達と道徳心の発達について 11 青年期の基本的特徴と発達課題と自律、アイデンティティ、自己実現化 12 青年期の友人関係、恋愛 13 結婚と子育て・育児感情 14 成熟、加齢の意味、喪失 15 振り返りとまとめ						
講義形式	講 義						
成績評価の 方法	筆記課題試験で成績は決まる。理解の確認など必要に応じて課題レポート提出およびノート提出を求める。試験も提出物も最低出席数も合格必要条件課題であるが、合格十分条件ではない。また答える量や枚数の多さも合格十分条件にならない。						
テキスト・ 参考図書等	テキスト：発達心理学 ～現代心理学入門2～ 岩波書店ISBN4-00-003922-9 参考書：参考プリントなど随時紹介する。 「心理学小辞典」は予習、復習、試験勉強に大変役立ちます。						
履修上の 注意・ 受講条件	授業の進め方等 前回の補足説明→講義によるノート作成→シャトルカードの提出→ノートのまとめ(放課後)の手順で進めます。上記の講義内容は学生とのやりとりで変更する場合があります。 看護師養成のための基礎科目であるため、聴解力、読解力、集中力を必要とするかなり厳しい授業になります。講義の場に座っているだけでは受講とは言えません。積極的な取り組みを期待します。						

						科目名	社会学
科目名	社会学	担当講師名	和 泉 浩	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	倫理学・人間関係論・発達心理学・論理学・健康科学・ボランティア論						
学習目標	現代における個人、集団、社会、さらに健康と医療について理解するための社会学の基本的な考え方を学ぶ。						
講義計画 と 進め方	この授業では、社会学の基礎的な考え方や概念を身につけることを目標にし、講義では次のようなテーマをとりあげます。 1 社会学の考え方 2 社会学誕生の背景 3 代表的な社会学者の社会理論 4 社会調査と統計 5 健康格差、平等をめぐる問題 6 医療と健康、看護の社会学 7 生命倫理(バイオエシックス)と社会 * 各テーマを1回から3回の授業で扱いますが、授業の進行具合により内容を変更する場合があります。						
講義形式	講 義						
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト・参考図書等	授業内容に関連する文献等をそのつど指示します						
履修上の 注意・ 受講条件							

秋田市医師会立秋田看護学校

						科目名	倫理学
科目名	倫理学	担当講師名	橋爪 隆弘 石川 千夏 大山 京子	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前・後期
関連科目	看護倫理・人間関係論・家族関係論・発達心理学・臨床心理学・カウンセリング演習						
学習目標	臨床現場で起きている生と死の現状について事例を通して学び、自らの死生観を問い直し、倫理的諸問題について考える。						
講義計画 と 進め方	橋爪 隆弘 (10 時間) 1. 生命倫理の原則と総論 2. ヒトを対象とした研究における倫理問題 3. 意思決定支援とその周辺問題 4. 利益相反 5. がん治療に関連する倫理問題						
講義形式	講義・演習						
成績評価の 方法	試験・レポート						
講義計画 と 進め方	石川 千夏 (15 時間) 1. 死生観 人の生と死 2. 喪失とグリーフ 人生への尊厳と生きる意味 3. 意思決定と看護師の役割 アドバンスケアプランニング(人生会議) 4. 全人的ケア 5. コミュニケーション						
講義形式	講義、演習、討論						
成績評価の 方法	レポート						
テキスト・ 参考図書等	・モリー先生との火曜日 ミッチ・アルボム 日本放送出版協会 ・悲嘆とグリーフケア 広瀬寛子 医学書院 ・死を前にした人にあなたは何かができますか 小澤竹俊 医学書院 ・死ぬ瞬間 ―死とその過程について― エリザベスキューブラロス						
履修上の 注意・ 受講条件	「モリー先生との火曜日」はテキストにする必要はありませんが、 題材として1回目の講義で使用します。1回目の講義までに読んでください。 上記した書籍はすべて参考図書です。						
講義計画 と 進め方	大山 京子 (5 時間) 学習目標 ・患者側と医療側のあるべき姿を考える ・死を考える 講義計画 - 慢性死 死に至るまでの長時間の推移における生命倫理 ・ホスピス医療 ・安楽死と尊厳死						
講義形式	講義および討論						
成績評価の 方法	レポート提出						

秋田市医師会立秋田看護学校

						科目名	保健体育
科目名	保健体育	担当講師名	松下 翔一	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	健康科学・人間関係論・基礎看護学						
学習目標	1. 将来看護職を目指す者として必要な基礎体力および運動技能を身につける。 2. 各種スポーツ種目の特性を理解し、心身の状態に合わせた適切な運動を選択・実践する能力を身につける。 3. 仲間と協力してスポーツ（ゲーム）を実践する能力を身につける。						
講義計画 と 進め方	学習目標を達成するために、必要な施設・用具の整った各種スポーツ種目（バレーボール、卓球、バドミントン等）をゲーム中心に実践する。また、準備・整理運動の重要性を理解させ、事故やケガの防止に努める。 授業は、およそ以下のような手順で実施する。 1. グループづくり 2. 各種スポーツ種目のルールおよび技能についての学習 3. 各種スポーツ種目の実践 4. まとめ						
講義形式	実技および演習						
成績評価の方法	出席状況(50%)、 授業時の活動状況(30%)、 学習意欲(20%)						
テキスト・参考図書等	必要に応じてプリントを配布する。						
履修上の注意・受講条件	スポーツ実践に適した服装や履物を準備すること。						

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	家族関係論	担当講師名	佐々木 久長	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	社会学・人間関係論・発達心理学						
学習目標	1. 看護の対象としての家族の基本概念について理解する。 2. 家族看護の基本概念と家族看護のプロセスについて理解する。						
講義計画 と 進め方	1. 家族とは何か（家族構造と機能の理解） 2. 発達する家族（家族のライフサイクル） 3. システムとしての家族 4. 家族を理解するポイント 5. 家族ストレスと危機の理解と対応 6. 集団としての家族と役割構造 7. 家族内コミュニケーションの理解 8. 家族療法の基本的理解 9. 家族療法の理論 10. 家族とパートナーシップとセルフケア 11. 家族アセスメント 12. 家族と地域・家族と文化 13. 実践例の理解 DV／子どもケア／心の問題 14. 実践例の理解 臓器提供／壮年期の癌／難病 15. 実践例の理解 高齢社会後／終末期						
講義形式	講義						
成績評価の 方法	試験（70％）＋レポート（20％）＋出席状況（10％）						
テキスト・ 参考図書等	山崎あけみ他：家族看護学：南江堂						
履修上の 注意・ 受講条件	特になし						

科目名 ボランティア論							
科目名	ボランティア論	担当講師名	佐藤 沙織 稲岡 一枝	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	発達心理学・健康科学・社会学・人間関係論・倫理学・臨床心理学						
学習目標	ボランティア活動の社会的意義を理解し、地域住民の一人として、地域社会との関わりを考察するとともに、人を思いやる心を育成する。 1. 広い視野の育成と相手を思いやる精神の育成ができる。 2. ボランティアの特性を理解し、ボランティア活動の役割、課題を理解できる。						
講義計画 と 進め方	第1回 共生と共育 ボランティアとボランティア学習 第2回 ボランティア活動の領域とボランティア活動の必要性 第3回 今 なぜボランティアか 第4回 ボランティア活動の歴史 第5回 ボランティアの言葉と理念（定義）—ボランタリズム— 第6回 ボランティア活動の基本的性格と役割 第7回 ボランティア活動するにあたって 東日本大震災のボランティアを通して （災害が起こったときに あなたが支援できること） 内容 1. 災害について 2. 災害が高齢者に及ぼす影響 3. 接するときの心づかい 4. 気をつけたい病気や症状 5. ボランティアの心得 6. 災害後役立つ技術 第8回 まとめ						
講義形式	講義を中心に行います。						
成績評価の 方法	レポート、コミュニケーションの内容、講義への参加度を総合的に判断し評価します。						
テキスト・ 参考図書等	テキストは特に指定しませんが、必用に応じ参考図書を紹介します。						
履修上の 注意・ 受講条件							

秋田市医師会立秋田看護学校

專門基礎分野

科目名	人体の構造	担当講師名	板東 良雄	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	生物学（細胞学）、人体の機能（生理学）、生化学（分子生物学）、病理学、各臨床科目						
学習目標	正常人体の構造（解剖）と機能（生理）を関連づけて理解し、主要器官・組織の正常機能とそのしくみの概要を説明できる。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。ここで学習することのすべてが専門科目を学ぶための基礎知識として必須となる。本講義では主に解剖を中心に行う。						
講義計画 と 進め方	人体を構成する細胞・組織・器官の各構造を学ぶ。 1. 解剖の基礎知識（細胞・組織・解剖学的用語） 2. 身体の支持と運動・体表から見た人体の構造（骨格・関節・筋肉） 3. 血液・免疫 4. 循環器（心臓・血管・リンパ） 5. 呼吸器 6. 消化器 7. 泌尿器・生殖器 8. 内分泌 9. 神経（中枢神経・抹消神経・自律神経） 10. 感覚器・皮膚						
講義形式	指定教科書、PC 及び黒板等を使用した講義形式で必要に応じて資料を配布する。						
成績評価の方法	試験の成績および出席状況を加味し、総合的に評価する。講義時間中に小テスト等を行う場合にはあらかじめ通知する。						
テキスト・ 参考図書等	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 ①（医学書院） 参考書：トートラ人体の構造と機能（丸善）、人体の解剖生理学（金芳堂）、解剖生理学（南山堂）、解いておぼえる看護学生のための解剖生理学ドリル（照林堂）など。概して高価なので、自分に合ったものを選べばよい。						
履修上の 注意・ 受講条件	この科目は臨床を理解する上で極めて重要であるため、試験に受かることが目標ではなく、実際に臨床でも使える知識を身につけることが重要である。しかしながら、解剖生理学は理解しなければならない知識量が膨大であり、講義を一度聞いただけでは理解できず、まとめて短時間に習得することも不可能である。また、多くの学生が苦手としているので、少しずつ日々努力を積み重ねていくことが重要である。理解しているかどうかは、覚えてたの専門用語を意味も分からず並べるだけでなく、自分の言葉で相手に説明できることが目安となる。やむを得ず、休講や振替を行う場合は前もって通知する。						

科目名	人体の機能	担当講師名	靱山 日出樹	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	生物学, 人体の構造, 生化学, 栄養学, 薬理学, 病態論						
学習目標	人体は, それぞれ固有の機能を持つ種々の細胞, 組織, 器官から成り, それらが有機的に協調して内部環境を恒常的に維持しながら生命活動を営む有機体である. 各細胞, 組織, 器官のもつ機能を理解し, 正常な生命活動がどのように維持されているかについて学ぶ.						
講義計画 と 進め方	人体の仕組みと働きを理解するため, 正常な生命活動維持に関わる血液循環, 呼吸, 消化と吸収, 排泄, 内分泌, 神経, 筋肉, 運動, 感覚の各機能について, さらに各機能の協同・統御による内部環境の恒常的維持の重要性について解説する. 1) 血液の性質と役割 2) 血液循環機能Ⅰ 3) 血液循環機能Ⅱ 4) 呼吸機能 5) 消化・呼吸機能Ⅰ 6) 消化・呼吸機能Ⅱ 7) 腎臓における排泄と再吸収機能 8) 体液浸透圧・液量調節及び酸塩基平衡 9) 内分泌機能Ⅰ 10) 内分泌機能Ⅱ 11) 体温調節機能 12) 中枢神経系・末梢神経機能 13) 自律神経系機能 14) 筋肉収縮機序と運動機能 15) 感覚系の機能						
講義形式	講義						
成績評価の方法	筆記試験((中間+終講)/2 $\geq$ 60)に, 出席状況および授業態度、小テストも加味して評価する。						
テキスト・参考図書等	テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野, 「解剖生理学」人体の構造と機能 1, 医学書院 参考書: 人体の構造と機能 (佐藤昭夫, 医歯薬出版) clinical 生体機能学 (當瀬規嗣, 南山堂)						
履修上の注意・受講条件	授業におけるローカルルールを守っていただきたい。また、適宜パワーポイントの資料を配付。前回分の講義について小テストを行い知識の定着を図る。積極的関心をもって取り組む。						

		科目名 生化学					
科目名	生化学	担当講師名	眞崎 容子	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	生物学・人体の構造・人体の機能・栄養学						
学習目標	1. 生命現象が化学反応であることを理解できる 2. 生命の維持に必要な栄養素の代謝について全体像が理解できる						
講義計画 と 進め方	1. 人体を構成する細胞とその構成成分 2. 三大栄養素とその代謝 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質 3. 酵素と酵素反応 4. ビタミンと補酵素 5. ホルモンとその作用 6. 遺伝情報の発現とタンパク質合成 1) 核酸(DNAとRNA) 2) DNAと遺伝子 3) 遺伝子発現の調節 7. 脳と神経						
講義形式	講義						
成績評価の 方法	筆記試験						
テキスト・ 参考図書等	テキスト : 初めの一步は絵で学ぶ生化学 じほう出版局 参考書 : シンプル生化学 南江堂 : 系統看護学講座 専門基礎 [2] 生化学 医学書院						
履修上の 注意・ 受講条件							

秋田市医師会立秋田看護学校

						科目名	栄養学
科目名	栄養学	担当講師名	新田 智子	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	生物学・生化学・人体の構造・人体の機能						
学習目標	看護の対象となる人々の健康の保持・増進・あるいは回復のために健康な食生活が営まれるように援助するための専門知識を学ぶ。 1. 栄養とは 2. 栄養素の役割 3. 栄養所要量とエネルギー代謝 4. 食事療法の基礎						
講義計画 と 進め方	1. 人間栄養学と看護 栄養素の種類とはたらき 2. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 3. エネルギー代謝 食事と食品 4. 栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定 5. ライフステージと栄養 6. 臨床栄養 7. 臨床栄養、健康づくりと食生活						
講義形式	講 義						
成績評価の 方法	筆記試験						
テキスト・ 参考図書等	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野,「栄養学」人体の構造と機能 3, 医学書院						
履修上の 注意・ 受講条件							

科目名	微生物学	担当講師名	原田 誠三郎	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	生物学・人体の構造・生化学						
学習目標	微生物の基礎、感染とその防御、及びおもな病原微生物に関連する事項について学習し理解する。						
講義計画 と 進め方	微生物学の基礎 1. 微生物と微生物学 2. 細菌の性質 3. 真菌の性質 4. 原虫の性質 5. ウイルスの性質 感染とその防御 6. 感染と感染症 7. 感染に対する生体防御機構 8. 感染源・感染経路からみた感染症 9. 滅菌と消毒 10. 感染症の検査と診断 11. 感染症の治療 12. 感染症の現状と対策 おもな病原微生物 13. 病原細菌と細菌感染症 14. 病原真菌と真菌感染症 15. 病原原虫と原虫感染症 16. 病原ウイルスとウイルス感染症						
講義形式	講義						
成績評価の 方法	筆記試験						
テキスト・ 参考図書等	テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 「微生物学」医学書院 参考図書：「標準微生物学」 第13版(監修)中込 治、(編集)神谷 茂、錫谷 達夫 医学書院						
履修上の 注意・ 受講条件	予習・復習を十分に行うこと。						

科目名	病態学総論	担当講師名	川村 公一	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	1 年次 前期
関連科目	人体の構造と機能、生理学、生物学						
学習目標	細胞、組織の構造的および機能的な異常を理解し、主要な疾患の病態を説明できることを目標とする。						
講義計画 と 進め方	講義の進め方 1. 病理学は病気の原因、成立過程、その結果について学ぶ分野で、初めに病気の基本概念とそれに関する用語を説明する。 2. 病気の分類として炎症、腫瘍、循環障害、先天異常などがあるが、これらを理解する際に肝硬変、脳卒中、胃癌、感染症、遺伝病などの具体的な症例を挙げて説明をする。 3. 授業の前半は板書を交えた講義を行う。後半はプロジェクターの投影による病変画像を提示して、医学用語と形態像の対応を行う。 4. 授業内容の概略、要点はあらかじめプリントを配布する。復習を主体とする自主学習を促し、授業内容の質問はメールでも対応する。 講義の計画 1. 病理学と細胞：肝硬変の主な原因を挙げ、なぜ生命に危険かを理解する。 2. 腫瘍：腫瘍の分類、形態発育、胃癌のボールマン分類を理解する。 3. 細胞傷害：細胞変性、壊死、萎縮、褥瘡を理解する。 4. 循環障害：心筋梗塞、動脈瘤、粥状硬化症、塞栓症、脳卒中を理解する。 5. 浮腫：浮腫の起こる原因とその具体例、ネフローゼ症候群を理解する。 6. 先天異常：染色体異常と遺伝子レベルの異常を理解する。 7. 炎症と感染症：膿瘍、炎症細胞、エイズ、真菌、原虫感染を理解する。 8. 病理組織を顕微鏡で確認し、知識の理解を深める。(演習)						
講義形式	講義						
成績評価の方法	筆記試験(プリントと教科書の内容)						
テキスト・参考図書等	テキスト：大橋健一他、 系統看護学講座 病理学 医学書院						
履修上の注意・受講条件							

科目名	呼吸器の病態論	担当講師名	本間 光信 伊多波 未来 福井 伸	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学						
学習目標	・人体に現れる変化(機能障害)と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 ・呼吸機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1) 生命の危機 2) 呼吸機能の障害						
講義計画 と 進め方	1 呼吸器系の基礎 伊多波 未来 8時間 1) 呼吸器の構造と機能 2) 症状とその病態について 2 呼吸器系の臨床 1) 診断・検査・治療・処置について 福井 伸 10時間 (1) 検 査 画像・内視鏡・生検 (2) 治療・処置 吸入療法・酸素療法・胸腔ドレナージ・手術療法 2) 疾患の理解 福井 伸 10時間 (1) 感染症 本間 光信 2時間 (2) 間質性肺疾患・気道疾患・呼吸不全・肺腫瘍・胸膜疾患						
講義形式	講義						
成績評価の方法	筆記試験によるが授業態度も加味する。						
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「呼吸器」成人看護学 2, 医学書院						
履修上の注意・受講条件							

科目名	循環器の病態論	担当講師名	阿部 芳久	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学						
学習目標	1. 人体に現れる変化(機能障害)と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 2. 個体の生命に直結する機能障害の特徴と治療・検査について理解する。						
講義計画 と 進め方	1 心臓の解剖と生理 特に肉眼的解剖（この理解があって初めて次のステップへ進める。） 2 虚血性心疾患 1) 動脈硬化の成因（危険因子とその管理を含む） 2) 狭心症の病態、診断、治療 3) Acute Coronary Syndrome（急性冠症候群）の病態、診断、治療 3 不整脈 1) 心臓刺激伝導系の理解と心電図上の意味 2) 徐脈性不整脈の病態、診断、治療 3) 頻脈性不整脈の病態、診断、治療 4) 致死性不整脈の理解 4 高血圧 1) 血圧とは何か？ 2) 血圧の正しい測り方 3) 高血圧の治療はなぜ必要か 5 心不全 右心不全、左心不全、両心不全の病態、基礎疾患の理解 6 血管疾患 閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤、肺梗塞の理解 7 過去の国家試験問題の解説						
講義形式	講 義						
成績評価の方法	筆記試験によるが授業態度も加味する						
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「循環器」成人看護学 3, 医学書院						
履修上の注意・受講条件							

科目名 消化器の病態論

科目名	消化器の病態論	担当講師名	小松 眞史	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 前・後期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学						
学習目標	1. 人体に現れる変化（機能障害）と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 2. 生命体を維持するために必要な食と排泄に関する機能障害の特徴と治療・検査について理解する。						
講義計画 と 進め方	1 消化器系の機能障害の基礎 1) 栄養の摂取・吸収の障害 2) 消化器機能の障害 2 消化器系の臨床 1) 特有な症状：嚥下困難・食欲不振・胸やけ・嘔吐・下血・黄疸 2) 特有な検査：造影・内視鏡・生検・超音波 3) 特有な治療・処置：薬物療法・食事療法・手術療法・放射線療法 3 消化器疾患の症状・検査 1) 上部消化器疾患 食道癌・胃癌 2) 下部消化器疾患 イレウス・大腸癌・直腸癌 3) 胆嚢 胆嚢炎・胆嚢癌 4) 肝臓 肝硬変・肝癌 5) 膵臓 膵炎・膵癌						
講義形式	講義						
成績評価の方法	筆記試験によるが授業態度も加味する。						
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「消化器」成人看護学 5, 医学書院						
履修上の注意・受講条件							

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	腎・泌尿器の病態論	担当講師名	腎 泌尿器	大谷 浩 石田 俊哉	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・看護学							
学習目標	①人体に現れる変化(機能障害)と疾患のメカニズムおよび治療を学ぶ。 ②生命体を維持するために必要な食と排泄に関する機能障害(特に腎)の特徴と治療・検査について理解する。							
講義計画と進め方	I 腎（15時間） 1）腎の解剖 2）腎の生理・働き 3）腎機能検査および腎機能障害時の症状尿・血液・画像検査など 4）腎障害時の特有な疾患 ①急性腎不全 ②慢性糸球体腎炎 ③慢性腎不全 5）治療 ①食事療法 ②薬物療法 ③透析療法 II 泌尿器・生殖器（15時間） 特有な疾患のポイントを国家試験などから絞り込んで講義する。 1. 泌尿器機能障害の病態生理 1）膀胱腫瘍・膀胱癌・腎盂尿管癌・腎癌 2）尿路の疾患・尿失禁・神経因性膀胱 3）結石 2. 生殖器機能障害の病態生理 1）前立腺肥大症・前立腺癌・精巣腫瘍 2）性器の腫瘍・不妊症 3. 症 状 ・勃起障害・生殖器異常 4. 検 査 ・生検・外内診 5. 治療・処置 ・化学療法・放射線療法・ホルモン療法 ・手術療法							
講義形式	講義							
成績評価の方法	筆記試験							
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「腎・泌尿器」成人看護学 8, 医学書院							
履修上の注意・受講条件	人体の構造、人体の機能、循環器の病態を理解しておくこと							

科目名	内分泌・代謝 造血の病態論	担当 講師名	内分泌・ 代謝 造血器	三浦 岳史 成田 琢磨 山口 昭彦	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2 年次 前期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学							
学習目標	1. 人体に現れる変化（機能障害）と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 2. 個体の内部環境調節に関わる機能障害の特徴と治療・検査について理解する。							
講義計画 と 進め方	内分泌・代謝（20時間） 1 内分泌器官の基礎 2 代謝器官の基礎 3 体液調節の障害と治療と検査 4 自律神経機能の障害と治療・検査 5 内分泌機能の障害と治療・検査 甲状腺疾患・甲状腺クリーゼ 1）症 状 頻脈・発汗・体重減少・全身倦怠感 2）検 査 画像診断 3）治 療 薬物療法・食事療法・放射線療法・手術療法 6 代謝機能の障害と治療・検査 1）糖尿病（病態・合併症・治療） 2）脂質異常症 3）肥満とメタボリックシンドローム 4）尿酸代謝異常 造血器（10時間） 1 造血のしくみと疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 1）造血のしくみ 2）血液疾患のメカニズム 3）血液疾患の治療 2 血液疾患の特徴と検査・治療について理解する。 1）主要症状 貧血・出血傾向・脾腫・リンパ節腫脹 2）検 査 末梢血検査・マルク・リンパ節生検 3）診断・治療 化学療法・造血幹細胞移植							
講義形式	講義							
成績評価の 方法	筆記試験							
テキスト・ 参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「内分泌・代謝」成人看護学 6, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「血液・造血器」成人看護学 4, 医学書院							
履修上の 注意・ 受講条件								

科目名	感覚器・脳神経の病態論	担当講師名	大川 聡	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2 年次 前期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学						
学習目標	1. 人体に現れる変化(機能障害)と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 2. 脳機能障害の特徴と治療・検査について理解する。						
講義計画 と 進め方	脳神経（14時間） 脳・神経・筋肉疾患のうち代表的な疾患につき、テキストを中心にプリントや視聴覚機器を用いて講義する。 1. 症状とその病態生理 1) 意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・言語障害 2) 頭蓋内圧亢進症状 2. 検査と治療 1) 神経学的検査・ 2) 画像 3) 手術療法 4) 薬物療法・ 5) リハビリテーション療法 6) 化学療法・放射線療法 3. 疾患の理解 1) 脳血管障害 2) 脳変性疾患 3) 神経筋疾患 4) 脳腫瘍 5) 膠原病						
講義形式	講義						
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「脳・神経」成人看護学 7, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「アレルギー・膠原病・感染症」成人看護学 11, 医学書院						
履修上の注意・受講条件							

科目名	感覚器・脳神経の病態論	担当講師名	眼	姜 和哲	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2 年次 前期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学							
学習目標	1. 人体に現れる変化（機能障害）と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ 2. 感覚器機能の特徴と治療・検査について理解する							
講義計画 と 進め方	眼（4 時間） 1. 眼の構造と機能についての知識 1) 眼球、視神経・視路、眼球付属器 2) 視力・視野・色覚・屈折・調節・眼位・眼球運動・両眼視など 2. 眼科における検査とその結果から得られる情報 1) 視力検査・屈折検査・細隙灯顕微鏡検査、眼底検査・眼圧検査・視野検査等 2) 屈折異常、調節異常、色覚異常、眼位・眼球運動障害など 3. 症状と検査から得られた結果を認識したうえで、目の疾患を理解する 1) 視機能に関連した症状・関連しない症状 2) 代表的な眼疾患とその処置・治療							
講義形式	講義							
成績評価の 方法	筆記試験 筆記試験によるが、授業態度も加味する							
テキスト・ 参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ、「眼」成人看護学 13、医学書院							
履修上の 注意・ 受講条件								

科目名	感覚器・ 脳神経の 病態論	担当 講師名	耳鼻 咽喉	近江 永豪	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2 年次 前期
			皮膚	小関 史朗				
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学							
学習目標	人体に現れる変化(機能障害)と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ 1. 感覚器機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1) 耳鼻咽喉の機能障害 2) 皮膚の機能障害							
講義計画 と 進め方	I. 耳鼻咽喉の機能障害 (6 時間) 耳鼻咽喉科領域の解剖・検査法を理解した上で各疾患の病態・治療法について理解してもらうよう進めていく。 頻度の多い又重要な疾患については適切な検査・診断ができるようにする。 講義では可能な限り画像を利用して説明し、理解を深めてもらう。 1. 耳鼻科特有な実感の病態生理 2. 検査・診断・治療 1) 症 状 鼻閉・鼻出血・難聴・嚥下困難 2) 検 査 喉頭鏡検査・聴力検査 3) 治療・処置 吸入療法・嚥下リハビリテーション・薬物療法 II. 皮膚の機能障害 (6 時間) スライドを使用し、特有な皮膚疾科疾患の臨床像・病態・治療・検査について理解する。 1. 特有な皮膚科疾患の臨床像・病態 2. 症 状 1) 発疹 2) 掻痒 3) 皮膚の老化 3. 検 査 1) 免疫 2) アレルギー検査 3) 光線過敏性検査 4) 画像検査 5) 細菌検査 4. 治療・検査 1) 内服療法 2) 外用療法 3) 手術療法 4) 光線療法 5) レーザー療法							
講義形式	講義							
成績評価の 方法	筆記試験							
テキスト・ 参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「耳鼻咽喉」成人看護学 14, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ,「皮膚」成人看護学 12, 医学書院							
履修上の 注意・ 受講条件								

科目名	運動器・生殖器 の病態論	担当 講師名	運動器 生殖器	木村 善明 軽部 裕子	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2年次 前期
関連科目	人体の構造・人体の機能・生化学・栄養学・生物学・看護学							
学習目標	人体に現れる変化（機能障害）と疾患のメカニズム及び治療を学ぶ。 1 運動機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1) 活動や行動を妨げる機能の障害 2 生殖機能障害の特徴と治療・検査について理解する。 1) 女性生殖器をつかさどる器官の機能障害							
講義計画 と 進め方	I 運動器 （24時間） 1 整形外科の特徴的な疾患の理解 2 診断・治療・検査・処置の理解 1) 骨折・脊髄損傷・腰椎椎間板ヘルニア・骨腫瘍・関節リュウマチ 3 整形外科の特徴的な症状と病態生理 1) 形態異常・循環障害・麻痺・異常歩行・拘縮・疼痛・神経障害 4 検査：画像 5 治療処置：保存療法・理学療法・手術療法 6 活動や行動に支障がある障害 1) 姿勢・運動にかかわる骨・関節・筋肉の疾患 2) 運動機能障害による残存機能とリハビリテーション 3) 活動や行動が制限されることにより発生する疾患 II 生殖器 （6時間） 特徴的な疾患を用いて説明する。 1 女性生殖器の疾患 子宮癌 1) 症状 性器出血・帯下・外陰部 2) 検査 3) 治療 ホルモン療法・手術療法・放射線療法 2 乳腺の疾患 乳がん 1) 症状 腫瘤・えくぼ症状 2) 検査 超音波検査・画像検査 3) 治療 手術療法・ホルモン療法・放射線療法							
講義形式	講義							
成績評価の 方法	筆記試験							
テキスト・ 参考図書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ、「運動器」成人看護学 10, 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ、「女性生殖器」成人看護学 9, 医学書院							
履修上の 注意・ 受講条件								

科目名	外科的治療論	担当講師名	添野 武彦 円山 啓司	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	各病態論、病態学総論など						
学習目標	人体に現れる変化(機能障害)と疾患のメカニズムおよび治療を学ぶ 外科的療法について理解する						
講義計画 と 進め方	1. 手術侵襲と生体の反応 ① 手術侵襲の意味 ② 侵襲に対する生体反応 ～生体反応、生体反応の推移 2. 腫瘍 ・腫瘍の治療～手術療法、放射線療法、 化学療法、内分泌療法、免疫療法、遺伝子療法 3. 外傷 ① 外傷総論 ② 外傷に対する治療と看護～経過観察における看護のポイント、外傷患者の取り扱い ③ 外傷に合併する重大な病態—外傷性ショック— 4. 体液・栄養管理 ・体液管理と輸液 ～周手術期の輸液管理、輸液に伴う合併症 5. 外科的基本手技 ① 外科診療に必要な基本的手技～縫合と抜糸 ② 創傷管理～創傷治癒に影響する因子、創部に対する消毒の功罪、創傷管理法 6. 手術後の疼痛管理 ① 術後疼痛に対する考え方の変遷 ② 術後疼痛の基礎～術後疼痛のメカニズム、術後疼痛の特殊性 ③ 術後疼痛が生体に及ぼす影響とその関係～情動、呼吸、循環、内分泌・代謝、記憶 ④ 術後鎮痛法の適応と利点・欠点～経口投与法、経直腸投与法、筋肉内投与法、静脈内投与法、硬膜外投与法 ⑤ 新しい術後疼痛管理法～先取り鎮痛法、患者自身による疼痛管理法(PCA) 7. 術後合併症とその予防 ① 術後合併症とは～術後合併症の分類、術後合併症の予防 ② 循環器系の合併症 ③ 呼吸器系の合併症 ④ 神経系の合併症 ⑤ 消化器系の合併症 ⑥ 代謝系・内分泌系の合併症 ⑦ 腎・泌尿器系の合併症 ⑧ 腹腔鏡下手術での合併症 ⑨ その他の合併症 8. 外科的感染対策 ① 感染症の発症とその防御機構 ② 重要な感染性微生物～ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、緑膿菌、結核菌、ウイルス、カンジダ ③ 外科感染症～創部感染、創部外感染 ④ ドレナージ 9. 救急処置法の実際 ・外科系疾患の救急処置～出血、熱傷、外傷、けいれん、ショック 10. 麻酔法 ① 麻酔とは ② 麻酔の種類～全身麻酔、局所麻酔 ③ 手術前の管理(術前管理)～手術前の回診(術前回診)、麻酔前投薬経口摂取制限 ④ 手術中の管理(術中管理)～手術中のモニター、体位 ⑤ 手術後の管理(術後管理)～回復室、手術後の疼痛管理、麻酔の質管理 ⑥ 全身麻酔～麻酔器、気道確保法、麻酔導入法、吸入麻酔、静脈麻酔、バランス麻酔、全身麻酔中・麻酔後の合併症 ⑦ 局所麻酔～脊髄クモ膜下麻酔、硬膜外合併症						
講義形式	講義						
成績評の方法	試験、出席状況						
テキスト・参考図等	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院						
履修上の注意・受講条件							

科目名	外科的治療論 (補講)	担当講師名	円山 啓司	時間数	(5 時間)	履修時期	1 年次 後期
関連科目	各病態論、病態学総論など						
学習目標	救命医療のシステムを理解し、心肺蘇生法を救急車や現地到着するのに要する時間程度できる。						
講義計画 と 進め方	1. 救急状況とは 2. 救急医療体制 一次救命処置 二次救命処置 3. 応急手当の重要性 応急手当の目的、必要性など 4. 応急手当の対象とその必要性 観察の必要性 気道確保の対象者 人工呼吸の対象者 心肺蘇生の対象者 5. 救命に必要な応急手当 1) 心肺蘇生法(成人に対する方法) 気道確保の要領 口腔内の調べ方 気道確保の要領 異物除去の要領 人工呼吸法 呼気吹き込み人工呼吸法 心臓マッサージの要領 上記を組み合わせた心肺蘇生法 2) 止血法 直接圧迫止血法 関節圧迫止血法 止血帯法						
講義形式	講義, 演習						
成績評価の 方法	試験、出席状況						
テキスト・ 参考図書等	資料を配布						
履修上の 注意・ 受講条件							

科目名 薬理学							2年次 後期
科目名	薬理学	担当講師名	後藤 康晴	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	
関連科目	人体の構造・人体の機能・生物学・微生物学・生化学・関連法規・病態論・看護学						
学習目標	(概要) 人体への薬物の働きや薬物に対する生体側の反応など、薬物療法に関する基礎知識を学び、薬物療法に重要な看護師の役割を理解する。 (達成目標) 1. 基本的薬物の薬理作用とその適応・副作用を理解する。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をする上での留意点を理解する。						
講義計画 と 進め方	1. 薬理学の基礎 (1) 薬物療法、薬理作用、薬物の作用点・投与経路 (2) 薬物の吸収・分布・代謝・排泄、薬効に影響する因子 (3) 薬物の有害作用・相互作用、薬の管理 2. 生体に対する各薬物の効果と副作用 (1) 感染症治療薬 (2) 抗がん薬 (3) 免疫治療薬 (4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 (5) 末梢神経系に作用する薬物 (6) 中枢神経系に作用する薬物 (7) 心臓・血管系に作用する薬物 (8) 呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 (9) 物質代謝に作用する薬物 (10) 皮膚科用薬・眼科用薬 3. 看護師に必要とされる薬物の基礎 (1) 救急の際に使用される薬物 (2) 漢方薬の基礎 (3) 消毒薬の基礎 (4) 輸液剤・輸血剤の基礎 4. その他 (1) 看護業務に必要な薬の知識						
講義形式	講義						
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト・参考図書等	テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野, 「薬理学」 疾病のなりたちと回復の促進 3, 医学書院 参考図書: 今日の治療薬 「南江堂」(臨地実習に向けて用意しておく必要がある)						
履修上の注意・受講条件							

科目名	健康科学	担当講師名	戸堀 文雄	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修 時期	1 年次 前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	健康への理解を求める 健康の保持増進及びそれらに影響を及ぼす要因について理解する						
講義計画 と 進め方	1. 健康の定義・概念 1) 健康の理解 2) さまざまな健康のとらえ方 2. 健康の指標 1) 人口動態統計(出生、死亡、死産等) 2) 平均寿命、平均余命 3) 有病率、罹患率 3. 健康に影響を及ぼす要因 1) 物理・化学的要因 2) 身体・生理的要因 3) 心理・精神的要因 4) 社会・文化的要因 5) スピリチュアル要因 4. 日常生活と健康 1) 食事・栄養 2) 睡眠 3) 運動 4) 飲酒・喫煙 5) ストレス 5. ライフサイクルにおける各期の特徴と健康問題 1) 乳幼児期 2) 学童期・思春期 3) 青年期 4) 成人・高齢期 6. わが国における健康づくり対策の推移および現状 1) 第 1 次、第 2 次国民健康づくり対策 2) 「健康日本 21(第二次)」の進捗状況 3) 健康教育とヘルスプロモーション						
講義形式	講義、GW						
成績評価の 方法	筆記試験、GW への取り組み状況、出席状況						
テキスト・参 考図書等	テキスト：医療学総論 メディカルフレンド社						
履修上の 注意・ 受講条件	将来、健康問題・健康管理に携わるものとして健康問題に関心を持ち適切な健康管理の 仕方を学び実践していくことが求められる。そのことを念頭に置いて学習に臨んでほしい。						

科目名 公衆衛生学							
科目名	公衆衛生学	担当講師名	添野 武彦	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2年次 前期
関連科目	健康科学・社会福祉・関係法規・微生物学・薬理学						
学習目標	組織的保健活動の概要と意義について理解する。 公衆衛生の基礎 公衆衛生と地域保健 公衆衛生と環境保健						
講義計画 と 進め方	公衆衛生学概論 疫学 保健医療論 人口保健統計 母子保健 成人保健 老人保健 老人福祉 精神保健 学校保健 産業保健 環境保健 など 討論会および発表会 地域医療、保健福祉計画、感染症、環境衛生対策 (ディスカッション)						
講義形式	講義・発表討論会						
成績評価の 方法	中間・期末に筆記試験						
テキスト・ 参考図書等	テキスト：公衆衛生 NOUVELLE HIROKAWA						
履修上の 注意・ 受講条件							

秋田市医師会立秋田看護学校

						科目名	社会福祉
科目名	社会福祉	担当講師名	米谷 恭一	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2年次 前期
関連科目	社会学 人間関係論 老年看護学 在宅看護環境論 関係法規 ボランティア論						
学習目標	社会保障・社会福祉の概念と歴史を学び、福祉制度とサービスを理解し、看護活動に活かせる援助技術の基礎とする。 社会保障・社会福祉の基本的考え方、今日的課題、保健・医療・福祉の概念を理解する 1. 社会福祉の概念 2. 社会保障制度と社会福祉制度 3. 社会保険制度 4. 社会福祉サービス 5. 社会福祉実践の課題 6. 社会福祉と医療・看護の連携						
講義計画 と 進め方	1. 現代社会と社会保障・社会福祉の体系 ～生活と福祉のオリエンテーション～ 2. 現代社会の特徴と社会福祉の動向 3. 社会保障制度とサービス ①医療保障制度の特徴と医療保険 ②介護保障(介護保険制度) ③所得保障のしくみ ④公的扶助と社会福祉 4. 社会福祉の分野とサービス 高齢者福祉、障害者(児)福祉、児童家庭福祉 5. 社会福祉実践と保健・医療・看護の連携 社会福祉援助(従事者)と機能及び課題、連携とその場面(地域包括ケアの方向) 6. 社会福祉の課題と歴史						
講義形式	講 義						
成績評価の方法	出席状況、筆記試験で評価する						
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 専門基礎分野,「社会保障・社会福祉」健康支援と社会保障制度 3, 医学書院						
履修上の注意・受講条件	新聞報道、ニュースなどを通して社会保障、社会福祉への関心を寄せること。						

秋田市医師会立秋田看護学校

						科目名	関係法規
科目名	関係法規	担当講師名	靱山 日出樹	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2年次 前期
関連科目	看護学、社会学、倫理学、人間関係論						
学習目標	看護職の職務の基盤となる法規および諸制度について理解し、臨床において正しく職務を遂行するための根拠や判断基準としてそれらを習得する。						
講義計画 と 進め方	1. 法の基礎的知識と厚生労働行政の仕組み 2. 医事法規 保健師助産師看護師法、医師法、医療法等について 3. 保険衛生法規 感染症予防法、地域保健法、介護保険法等について 4. 薬事法規 薬事法、毒物及び劇物取締法、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律等について 5. 社会福祉関連法規 児童福祉法、老人福祉法、生活保護法等について 6. 労働関連法規 労働基準法、労働安全衛生法、雇用保険等について 7. 看護事故の法的責任 医療過誤等と罰則、医道審議会等について 8. 終講試験 筆記試験						
講義形式	基本的にパワーポイントを用いて講義を行うが、一部でアクティブ・ラーニングやグループワーク等も導入する予定。講義前にスライドを印刷したものを配付する。						
成績評価の方法	終講試験、および2回目～7回目の授業の冒頭で行う小テスト。授業態度が良くない場合は、成績評価に反映させる方針。						
テキスト・参考図書等	『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令』医学書院						
履修上の注意・受講条件	時間は有限なので、従業では、なるべく集中することを望む。予習は不要。						

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	臨床心理学	担当講師名	濱田 拓	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2年次 前期
関連科目	発達心理学・健康科学・社会学・人間関係論・倫理学・看護学						
学習目標	臨床における心の健康について理解する 1 臨床心理学とは 2 臨床心理学の具体的方法 3 臨床心理学の特質 4 カウンセリングの演習						
講義計画 と 進め方	患者心理の理解を深めるために必要な臨床心理学の基礎的理論、並びに看護指導などの積極的な治療的関与のために心理療法の基礎的技法を学ぶ。また、患者に関わる臨床家として必要とされる自己洞察とそれに基づく効果的な臨床的対人関係(コミュニケーション)技能についての理解を深め習得を進めていく。 「患者の心理理解」(4時間) 1 精神力動理論 2 自己理論・現象学理論 3 学習理論 4 対人関係(コミュニケーション)の障害と病理 「心理的治療理論」(4時間) 5 来談者中心療法 6 精神分析療法 7 行動療法 8 認知療法、その他 「臨床的対人関係(コミュニケーション)の理論と技法」(6時間) 9 対人関係の主体としての自己(自己理解と洞察、自己分析) 10 援助的対人関係、患者と臨床家 11 臨床家間の対人関係、チーム医療 12 ロールプレイ、社会技能訓練 13 アサーティブ・トレーニング 14 治療的面接の基礎的技法						
講義形式	講義および演習						
成績評価の方法	レポート及び試験の結果に基づき評価し、出席状況や受講態度なども加味する。						
テキスト・参考図書等	テキスト:「面白いほどよくわかる!臨床心理学」 下山 晴彦 監修 西東社						
履修上の注意・受講条件							

科目名	カウンセリング 演習	担当講師名	濱田 拓	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2年次 後期
関連科目	基礎分野・専門基礎分野・専門分野						
学習目標	カウンセリング技法を取り入れたグループワークを行い、チームナーシングの基礎を作る (1)患者、他職種の心理を理解する (2)カウンセリング技法を体験する事を通して、自己理解、他者理解を深める						
講義計画 と 進め方	カウンセリングとは、クライアントや患者の置かれた立場や生活背景を理解し、肯定的態度で接し続ける事で、彼らのより良い自己実現を援助するものである。 ここでは、カウンセリング的なものの見方、人との接し方を学び、他者理解と自己理解を深め、将来的なチームナーシングにいかす基礎を作ることを目的とする。 第1回 カウンセリングの基礎と演習① 第2回 カウンセリングの基礎と演習② 第3回 医療専門職の心理と患者・家族心理① 第4回 医療専門職の心理と患者・家族心理② 第5回 集団精神療法とグループワーク① 第6回 集団精神療法とグループワーク② 第7回 グループの性質と医療グループワーク① 第8回 グループの性質と医療グループワーク② 第9回 自己理解と他者理解① 第10回 自己理解と他者理解② 第11回 個人療法と集団療法① 第12回 個人療法と集団療法② 第13回 チーム医療と演習① 第14回 チーム医療と演習② 第15回 まとめ 第16回 試験						
講義形式	講義・演習						
成績評価の 方法	1. 2/3以上の出席（出席状況と受講態度を重要視する） 2. 最終試験の60点以上合格						
テキスト・ 参考図書等	参考文献:「グループという方法」武井朝子 医学書院						
履修上の 注意・ 受講条件	ロールプレイ、グループワークがほぼ毎回はいってきます。						

専門分野 I

基礎看護学

目的

看護の概念を理解し、看護の役割を認識し、人間の理解と看護実践の基礎的能力を養う。

目標

1. 看護の概念(目的、対象、役割、方法)を学び、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
2. 専門職業人としての態度を身につけ、倫理に基づいた行動ができる能力を習得する。
3. 医療安全に関する知識を深め、危険を予知し回避できる能力を習得する。
4. 対象の欲求を的確に理解するための基本技術を習得する。
5. フィジカルアセスメントの技術を学び対象のアセスメント方法を理解できる。
6. 対象や場に応じた看護過程を展開する能力を習得する。
7. 対象に応じた基本的欲求を満たすための援助技術を科学的根拠に基づき苦痛なく実践できる能力を習得する。
8. 安全・安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を習得する。
9. 看護問題を科学的に解決できるよう研究のプロセスおよび研究的態度を習得する。
10. 健康障害にある人を総合的に理解し、対象に応じた看護を実践することで基礎的援助の実践能力を習得する。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
看護学概論	1. 看護の本質、理論を学び看護の基本概念を理解する。 2. 看護の対象である人間を全人的に理解する。 3. 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。 4. 保健・医療・福祉における看護の役割について理解する。
看護倫理	1. 看護の倫理が意味することと、倫理規定について理解できる。 2. 看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる。 3. 看護ケアを行う状況の中で自分の価値と他者の価値を吟味し倫理的観点からその価値の意味が考察できる。
看護学援助論Ⅰ	1. 対象を理解するための基本技術を理解できる。 1) 看護における技術の考え方を理解できる。 2) 看護における記録の意義を理解できる。 3) 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 4) 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解できる。 5) 感染予防の基礎知識が理解できる。 6) 感染予防の基本技術が習得できる。 2. 主要な症状を示す対象者への看護を理解できる。 1) 主要症状のメカニズムが理解できる。 2) 主要症状に対する看護の概要を理解できる。
看護学援助論Ⅱ	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得する。 2. 全体の外観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントといったヘルスアセスメントの実践について理解する。 3. 身体機能のアセスメント項目の正常・異常の判別ができる。 4. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、看護実践へとつなげる過程を理解する。
看護学援助論Ⅲ	1. 看護実践の方法としての看護過程について、一連のプロセスが理解できる。 1) 看護過程の意義について理解できる。 2) 看護過程の構成要素が理解できる。 3) 意図的、系統的な情報収集法について理解できる。 4) アセスメント(情報を査定し、看護問題の抽出)について理解できる。 5) 計画立案の具体的方法が理解できる。 6) 計画の実施・評価について理解できる。 7) 看護過程演習により、一連のプロセスが理解できる。

教 科 目	学 習 目 標
看護学援助論Ⅳ	1. 日常生活に関する基本技術を習得する。 1) 病床環境調整の基礎知識を理解する。 2) 病床環境のアセスメントが理解できる。 3) 病床環境を整えるための援助技術が習得できる。 4) 健康生活と活動・休息との関連が理解できる。 5) 効率的で安楽な動きを作り出す技術を習得できる。 6) 効率的で安全安楽な動きを作り出す技術を習得できる。 7) 健康生活と清潔との関連が理解できる。 8) 清潔状態のアセスメントが理解できる。 9) 清潔を整えるための援助技術が習得できる。 10) 衣生活を整えるための援助方法が理解できる。 11) 栄養と食事の基礎知識が理解できる。 12) 栄養と食事のアセスメントが理解できる。 13) 栄養状態を整えるための援助技術が習得できる。 14) 排泄に必要な基礎知識が理解できる。 15) 排泄状態のアセスメントが理解できる。 16) 排泄を整えるための援助技術が習得できる。
看護学援助論Ⅴ	1. 診療に関する基本技術を習得する。 1) 呼吸・循環を正常に維持するための基礎知識が理解できる。 2) 呼吸・循環のアセスメントが理解できる。 3) 呼吸・循環を正常に維持するための援助技術を習得できる。 4) 創傷の治癒に必要な基礎知識が理解できる。 5) 創傷のアセスメントが理解できる。 6) 創傷の治癒を促進させる援助技術を習得できる。 7) 検査の目的・方法などの基礎知識が理解できる。 8) 患者が安全・安楽に検査を受けるために必要な援助技術を習得する。 9) 薬物の基礎知識が理解できる。 10) 薬物に伴う法的責任、正しい管理方法が理解できる。 11) 指示された薬物を安全・適切に与薬する方法が理解できる。 12) 輸血の取り扱い方法が理解できる。 13) 輸血時の援助方法と合併症への対処方法が理解できる。 14) 各注射方法の基本技術が習得できる。
討議法演習	1. 看護実践の中で課題を共有し、問題解決の方向性を導き出す方法としてのカンファレンスを実践できる。 1) 討議の意義と効果について理解できる。 2) カンファレンスが効果的に実践できる。 3) 看護におけるカンファレンスの意味と適切な運営方法の知識を理解できる。 4) 問題解決のため方法を導き出すことができる。
看護研究概説Ⅰ	1. 看護研究の意義を理解し、研究活動の基本的な考え方及び研究の進め方の一連のプロセスとその方法を学び研究的態度を養う。 2. 看護職の研究への取り組みを知り、研究への意識や研究的態度を高める。
看護研究概説Ⅱ	1. 実習での学びをもとに研究計画書を作成し、卒業研究論文をまとめることができる。 2. 卒業研究論文を発表することで研究的態度を身につける。
基礎看護学実習Ⅰ	1. 健康障害にある人の療養環境および生活の現状(自立を阻害している要因を含む)を理解できる。 2. 健康障害にある人の療養生活上の欲求を理解できる。 3. 療養生活上の留意点と自立を考慮した日常生活援助の計画および実践ができる。 4. 療養生活者の反応を観察し、実践した援助行為について振り返ることができる。 5. 実践した援助行為についてまとめ、記録・報告できる。
基礎看護学実習Ⅱ	1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる。 2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる。 3. 健康障害にある人の看護問題を、優先順位にしたがい、問題解決のための計画(具体策)の立案ができる。 4. 健康障害にある人の計画(具体策)を実践し、その成果を評価・修正することができる。 5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる。

科目名	看護学概論	担当講師	伊藤多鶴子	単位・時間数	1 単位(30 時間)	履修時期	1 年次・前期
関連科目	既習学習のすべて						
学習目標	1. 看護の本質・理論を学び看護の基本概念が理解できる。 2. 看護の対象である人間を全人的(身体的・精神的・心理社会的側面の統合体)に理解できる。 3. 看護の機能と役割を学び看護活動を理解できる。 4. 保健・医療・福祉における看護の役割について理解できる。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2 3 4 5 6	1.看護の本質・理論を学び看護の基本概念が理解できる。	1. 看護の本質 1) 看護の役割・機能 2) 看護ケアの本質 2. 看護の基本的な 4 つの概念 1) 人間、健康、環境、看護 2) 「人間と健康」「健康と看護」 健康の捉え方、健康に影響を及ぼすもの、生活リズムと健康の関わり 生活習慣と健康の関わり、生活要素と健康の関わり 3) 看護モデルの比較 (ナイチンゲール・ヘンダーソン・ペプロウ・ロジャース・ロイ・オレム) 3. 看護の歴史 4. 看護制度					12
7	2. 基本概念について他者の意見を聞いて理解を深める。	グループ発表とまとめ					2
8 9 10	3.看護の対象である人間を全人的に理解できる。	1. 看護の対象としての人間 1) 個人、家族、集団 2) 生活統合体(統一体)としての存在 3) 基本的欲求を持つ存在 2. 人間とライフサイクル 3. 健康障害をもつ人の特徴					6
11 12	4. 看護の機能と役割を学び看護活動を理解できる。	4. 看護独自の機能 5. 関連職種の役割とその調整機能					6
13	5. 看護活動について他者の意見を聞いて理解を深める。	グループ発表とまとめ					2
14 15	6. 保健・医療・福祉における看護の役割について理解できる。	1. 保健医療提供システム 2. 保健医療提供形態とチーム活動 3. チーム活動としての保健医療と看護の役割					4
16	7. 学習内容について総合的に理解できる。	試験					1
合計時間数							31
講義形式 講義・グループワーク・レポート							
成績評価 1.筆記試験(70%) 2.課題レポート(20%) 3 グループワーク参加態度(10%)							
テキスト 宮脇美穂子著;看護学概論;メジカルフレンド社『看護の基本となるもの』(ヘンダーソン)				参考図書 『看護覚え書き』(ナイチンゲール)			
履修の注意・受講条件 人間、健康、看護について自身の考えを準備してきてください。							

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	看護倫理	担当講師	伊藤多鶴子	単位・時間数	1 単位（15 時間）	履修時期	1 年次・前期
関連科目	倫理学、看護学概論、人間関係論、家族関係論						
学習目標	1. 看護の倫理が意味することと、倫理規定について理解できる。 2. 看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが習得できる。 3. 看護ケアを行う状況の中で自分の価値と他者の価値を吟味し倫理的観点からその価値の意味が考察できる。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2	1. 看護の倫理が意味することと、倫理規定について理解できる。	1. 看護における倫理の必要性 1) 法的責任と倫理(保健師・助産師・看護師法、日本国憲法) 2) 看護実践における倫理 2. 価値 3. 看護倫理とは 4. 看護師の倫理規定 職業倫理 看護師の基本的責任・個人の知り得た情報の守秘義務・倫理的意思決定					4
3 4 5	2. 看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが習得できる。	1. 基本的知識 1) 倫理的意思決定能力と行動力 2) 倫理的判断に必要な基本的知識 ・倫理の原則(自律、善行、無害、正義、真実、忠誠) ・看護実践上の倫理的概念 ・患者の権利(患者のプライバシー保護患者の権利擁護 3) 倫理的看護実践のための枠組(モデル)道徳的ジレンマと倫理的課題 2. 倫理的課題への対応 1) 日常のケア場面における倫理的課題 看護師のジレンマ 患者と家族 「ジレンマ」の論理的解決方法 2) 先端技術医療における倫理的課題 インフォームド・コンセント、生命の質、生活の質、安楽死と尊厳死 3. 倫理的看護実践を行うために必要なこと					6
6 7	3. 看護ケアを行う状況の中で自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味が考察できる。	1. 事例を提示し、倫理の原則に基づいて分析していく 患者の権利および尊厳をもったひとりの人間としてとらえていく 看護場面でどう実践していくかということの意味をとらえさせていく					4
8	4. 学習内容について総合的に理解できる。	試験とまとめ					2
合計時間数							16
講義形式	講義	グループワーク	レポート				
成績評価	筆記試験（70%）	課題レポート(20%)	グループワーク参加態度（10%）				
テキスト	佐藤登美編集：看護学概論 メヂカルフレンド社 小西恵美子編集：看護倫理 南江堂				参考図書 看護者の基本的責務：日本看護協会		

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	看護学援助論Ⅰ	担当講師	川口 菜緒美 中村 千絵	単位・時間数	1単位(30 時間)	履修時期	1 年次 前・後期
関連科目	既習科目の全科目						
学 習 目 標	1. 対象を理解するための基本技術を理解できる。 1) 看護における技術の考え方を理解できる。 2) 看護における記録の意義を理解できる。 3) 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 4) 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解できる。 5) 感染予防の基礎知識が理解できる。 6) 感染予防の基本技術が習得できる。 2. 主要な症状を示す対象者への看護を理解できる。 1) 主要症状のメカニズムが理解できる。 2) 主要症状に対する看護の概要を理解できる。						
回	単元	学習目標		学習内容		時間	
1	看護技術を学ぶにあたって	1. 看護における技術の考え方を理解できる。 2. 看護における記録の意義を理解できる。		1.看護技術とは 2.看護技術の特徴・範囲 3.看護技術の実践のための要素 4.記録		2	
2～3	コミュニケーション	3. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 4. 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解できる。		1.コミュニケーションの基礎知識 1)コミュニケーションの意義 2)コミュニケーションの過程 3)コミュニケーションの類型 2.患者と看護者のコミュニケーション 3.看護における面接		4	
4	感染防止の技術	5. 感染予防の基礎知識が理解できる。		1.標準予防策(スタンダード・プリコーション)とは 2.手指衛生の方法と重要性 3.感染経路予防策 4.個人防護具の正しい着脱方法		2	
5				1. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2. 無菌操作の基礎知識・方法 3. 感染性廃棄物の分類表示		2	
6		6. 感染予防の基本技術が習得できる。		1. 演習 1)手洗い 2)アルコール手指消毒 3)個人防護具の着脱		2	
7				1. 演習 1)滅菌物の取り扱い 2)ガウンテクニック		2	
8		試験(筆記試験)				1	
9～15	主要症状とその看護	1. 主要症状の基本的知識とその症状に対する看護が理解できる。		呼吸・循環に関連する症状を示す対象者への援助 栄養・代謝に関連する症状を示す対象者への援助 排泄に関連する症状を示す対象者への援助 活動・休息に関連する症状を示す対象者への援助 認知・知覚に関連する症状を示す対象者への援助 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への援助 コーピングに関連する症状を示す対象者への援助		14	
16		試験(筆記試験) まとめ				2	
合計時間数							31
講義形式	講義 演習						
成績評価	筆記試験 課題レポート 出席状況						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 写真でわかる基礎看護技術アドバンス 臨床看護技術アドバンス①・② インターメディカ						
履修の注意・受講条件 1.演習に向けては、自己学習時間を確保し事前学習をして臨むことが重要となります。 2.主体的に看護技術の習得に臨むこと。 3.実習室の準備・片づけは、注意事項に沿って的確に行うこと。							

科目名	看護学援助論Ⅱ	担当講師	中川 まゆ子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	1 年次 前・後期
関連科目	既習学習すべて						
学習目標	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得する。 2. 全体の外観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントといったヘルスアセスメントの実際について理解する。 3. 身体機能のアセスメント項目の正常・異常の判別ができる。 4. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、看護実践へとつなげる過程を理解する。						
	学習目標		学習内容				時間
1	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得する。		1. ヘルスアセスメントの意義と目的 1) ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーションの関係性について 2) フィジカルイグザミネーションの種類 2. ヘルスアセスメントに必要な技術 1) 質・量を兼ね備えた情報を得る重要性 2) 主観的情報と客観的情報 3) 診査の基盤となるコミュニケーション 3. フィジカルアセスメントの基本技術 ・問診・視診・触診・聴診・打診の方法と留意点				2
2			4. 正確なアセスメントの手法 1) 触診の手の使い方と感触の説明 2) 打診方法と打診音の判別 3) 聴診器の扱い方と聴診音の確認 4) パルスオキシメーターの扱い方と観察方法				2
3	2. 全体の外観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントといったヘルスアセスメントの実際について理解する。		1. バイタルサインの意味と定義 1) バイタルサインに影響する因子 2) バイタルサインの測定方法 3) バイタルサインの正常と異常 2. 計測の意味と定義 ・計測方法(デモンストレーション)				2
4～5			3. バイタルサイン測定の実際 ・演習				4
6	試験		筆記試験				1
7	試験		バイタルサイン技術試験				2
8～13	3. 身体機能のアセスメント項目の正常・異常の判別ができる。		1. 各器官・系統別のフィジカルアセスメントの基本技術 1) 胸部(呼吸器系) 2) 胸部(循環器系) 血管系 3) 乳房・腋窩 腹部(消化器系) 4) 筋・骨格系 神経系 外皮系 5) 頭部・頸部 6) 眼・耳・鼻・口 7) 直腸・肛門・生殖器 2. 心理・社会状態のアセスメントに関する必要な項目とその内容				12
14	4. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、看護実践へとつなげる過程を理解する。		1. 事例模擬患者の全体の概観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメントの実践 2. 事例模擬患者を生活者としての確にとらえ、適した看護を実践する				4
15	試験		筆記試験 まとめ				2
合計時間数							31
講義形式 講義 演習 グループワーク							
成績評価 筆記試験:前期・後期 演習レポート 出席状況							
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 看護がみえる フィジカルアセスメント vol. 3 メディックメディア							
履修の注意・受講条件 1. 演習、技術試験に向けては、自己学習時間を確保し技術の練習をして臨むことが重要となります。 2. 主体的に看護技術の習得に臨むこと。 3. 実習室の準備・片づけは、注意事項に沿って的確に行うこと。 事前学習: 人体の構造と機能(・循環動態・呼吸機能・体温調節機能・運動機能・感覚器系・自律神経系など) 技術試験: 16 点(8 割)以上に満たない学生は、基礎看護学実習Ⅰ開始までの間に、8 割以上の技術を習得するようにする。							

科目名	看護学援助論Ⅲ	担当講師	川口菜緒美	単位・時間数	1単位(30 時間)	履修時期	1 年次 前・後期
関連科目	既習科目の全科目						
学習目標	1. 看護過程の意義について理解できる。 2. 看護過程の構成要素が理解できる。 3. 意図的、系統的な情報収集法について理解できる。 4. アセスメント(情報を査定し、看護問題の抽出)について理解できる。 5. 計画立案の具体的方法が理解できる。 6. 計画の実施・評価について理解できる。 7. 看護過程演習により、看護過程の一連のプロセスを理解できる。						
回	学習目標				学習内容		時間
1 2	1. 看護過程の意義について理解できる。				1)看護過程とは 2)看護過程活用の意義 3)看護過程の概念の変遷 4)看護過程と看護理論の関係		4
3 4	2. 看護過程の構成要素が理解できる。				1)情報収集 2)アセスメント 3)計画立案 4)実施 5)評価		4
5 6	3. 意図的、系統的な情報収集法について理解できる。				1)情報収集の方法 2)情報収集時の留意点		4
7	試験(中間)						1
8	4. アセスメント(情報の査定、看護問題の抽出)について理解できる。				1)アセスメントの意味 2)アセスメントの目的 3)アセスメントの内容 4)看護問題と看護診断		2
9 10	5. 計画立案の具体的方法が理解できる。				1)計画立案の目的 2)問題の優先順位の必要性と決定基準 3)期待される結果の意味 4)具体策の意味と内容		4
11 12	6. 計画の実施・評価について理解できる。				1)実施の意味 2)実施の内容 3)実施時の留意点 4)評価の目的 5)評価の意味 6)評価の時期 7)計画の評価・修正		4
13 14 15	7. 看護過程演習により、一連のプロセスが理解できる。				1)情報の整理・分析 2)看護問題の判定 3)目標の設定 4)具体策の設定		6
16	試験 まとめ						2
合計時間数							31
講義形式 講義 演習							
成績評価 筆記試験 課題レポート(事例展開) 出席状況							
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程 第3版 医学書院 参考図書 渡邊 トシ子編集 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント 第3版 ヌーヴェルヒロカワ							
履修の注意・受講条件 看護実践の基盤となる思考の学習です。看護が意味するものを一人一人が考える良い機会となります。 課題は着実にこなして、講義演習は、主体的に臨んでください。							

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	看護学援助論Ⅳ	担当講師	中村 千絵 川口 菜緒美	単位・時間数	2 単位 (60 時間)	履修時期	1 年次 前・後期
関連科目	既習学習すべて						
学習目標	1. 日常生活に関する基本技術を習得する。 1) 病床環境調整の基礎知識を理解する。 2) 病床環境のアセスメントが理解できる。 3) 病床環境を整えるための援助技術が習得できる。 4) 健康生活と活動・休息との関連が理解できる。 5) 効率的で安楽な動きを作り出す技術を習得できる。 6) 効率的で安全安楽な動きを作り出す技術を習得できる。 7) 健康生活と清潔との関連が理解できる。 8) 清潔状態のアセスメントが理解できる。 9) 清潔を整えるための援助技術が習得できる。 10) 衣生活を整えるための援助方法が理解できる。 11) 栄養と食事の基礎知識が理解できる。 12) 栄養と食事のアセスメントが理解できる。 13) 栄養状態を整えるための援助技術が習得できる。 14) 排泄に必要な基礎知識が理解できる。 15) 排泄状態のアセスメントが理解できる。 16) 排泄を整えるための援助技術が習得できる。						
回	単元	学習目標		学習内容		時間	
1～3	環境調整技術	1. 病床環境調整の基礎知識を理解する。 2. 病床環境のアセスメントが理解できる。		1. 病院の生活環境 2. 病室環境のアセスメント 3. ベッドメイキング 1)ボディメカニクス 4. リネン交換		6	
4		3. 病床環境を整えるための援助技術が習得できる。		演習 ベッドメイキング		2	
5	技術試験			技術試験 ベッドメイキング		2	
6～9	活動・休息援助技術 安全確保の技術 苦痛の緩和・ 安楽確保の技術	4. 健康生活と活動・休息との関連が理解できる。 5. 効率的で安楽な動きを作り出す技術を習得できる。		1. 活動の援助技術 1)活動と運動の意義 2)安楽な体位とは 3)体位の種類と身体への影響 4)活動・運動のニーズとアセスメント 2. 休息・睡眠を促す援助技術 1)休息と睡眠の意義 2)休息・睡眠のニーズに関するアセスメント		8	
10		6. 効率的で安全安楽な動きを作り出す技術を習得できる。		演習 体位変換 移乗・移送		2	
11	試験	筆記試験				1	
12～16	清潔・衣生活 援助技術	7. 健康生活と清潔との関連が理解できる。 8. 清潔状態のアセスメントが理解できる。 10. 衣生活を整えるための援助方法が理解できる。		1. 清潔の意義 2. 清潔の目的 3. 清潔ニーズの把握 4. 清潔ニーズのアセスメント 5. 清潔援助の方法(入浴・シャワー浴、口腔ケア、全身清拭、 洗髪、手・足浴、陰部洗浄・おむつ交換、整容) 6. 衣生活の意義とその援助方法		10	
17～18				演習 洗髪		4	
19～20		9. 清潔を整えるための援助技術が習得できる。		演習 全身清拭		4	
21～22				演習 陰部洗浄・おむつ交換		4	
23	技術試験			技術試験 全身清拭		2	
24～26	食事援助技術	11. 栄養と食事の基礎知識が理解できる。 12. 栄養と食事のアセスメントが理解できる。 13. 栄養状態を整えるための援助技術が習得できる。		1. 栄養と消化吸収機能 2. 食事の意義 3. 食事の援助の目的 4. 食事ニーズの把握 5. 食事ニーズを阻害する要因 6. 栄養状態のアセスメント 7. 栄養状態が低下している患者への援助		6	
27～29	排泄援助技術	14. 排泄に必要な基礎知識が理解できる。 15. 排泄状態のアセスメントが理解できる。		1. 排泄の意義 2. 排尿・排便のメカニズム 3. 排尿・排便行動のアセスメント 4. 排泄の基本的援助 5. 排尿・排便障害時の援助		4	
30		16. 排泄を整えるための援助技術が習得できる。		演習 一時的導尿		2	
31				演習 浣腸		2	
32	試験	筆記試験 まとめ				2	
合計時間数						61	
講義形式 講義 演習							
成績評価 筆記試験 課題レポート 出席状況							
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 写真でわかる基礎看護技術アドバンス 臨床看護技術アドバンス①・② インターメディカ						
履修の注意・受講条件							
1.演習、技術試験に向けては、自己学習時間を確保し技術の練習をして臨むことが重要となります。							
2.主体的に看護技術の習得に臨むこと。							
3.実習室の準備・片づけは、注意事項に沿って的確に行うこと。							
4.技術試験:16 点(8 割)以上に満たない学生は、基礎看護学実習Ⅰ開始までの間に、8 割以上の技術を習得するようにする。							

科目名	看護学援助論Ⅴ	担当講師	藤本具子	単位・時間数	1 単位(30 時間)	履修時期	1 年次・後期
関連科目	既習学習すべて						
学 習 目 標	1.診療に関する基本技術を習得する。 1) 呼吸・循環を正常に維持するための基礎知識が理解できる。 2) 呼吸・循環のアセスメントが理解できる。 3) 呼吸・循環を正常に維持するための援助技術を習得できる。 4) 創傷の治癒に必要な基礎知識が理解できる。 5) 創傷のアセスメントが理解できる。 6) 創傷の治癒を促進させる援助技術を習得できる。 7) 検査の目的・方法などの基礎知識が理解できる。 8) 患者が安全・安楽に検査を受けるために必要な援助技術を習得する。 9) 薬物の基礎知識が理解できる。 10) 薬物に伴う法的責任、正しい管理方法が理解できる。 11) 指示された薬物を安全・適切に与薬する方法が理解できる。 12) 輸血の取り扱い方法が理解できる。 13) 輸血時の援助方法と合併症への対処方法が理解できる。 14) 各注射方法の基本技術が習得できる。						
回	単元	学習目標			学習内容		時間
1.2	呼吸・循環を整える技術 苦痛の緩和・安楽確保の技術	1. 呼吸・循環を正常に維持するための基礎知識が理解できる。 2. 呼吸・循環のアセスメントが理解できる。			1. 呼吸と循環に関する基礎知識 2. 呼吸・循環のアセスメント 3. 呼吸・循環の調整法 4. 吸入・吸引		4
3		3.気管内・口腔内吸引の看護技術を習得できる。			演習 気管内・口腔内吸引演習		2
4		4.呼吸・循環を正常に維持するための援助技術を習得できる。			1.体温調整の仕組み 2.電法(冷電法・温電法) 3.冷電法の目的・方法・留意点・援助方法 演習: 冷電法		2
5.6	症状・生体機能管理技術 診察・検査・処置の介助技術	5.検査の目的・方法などの基礎知識が理解できる。 6.患者が安全・安楽に検査を受けるために必要な援助技術を習得する。			1. 検査に関する基礎知識 1)検査における看護師の役割 2)検査時の援助 3)安全・安楽な援助 2. 検体の採取と援助方法 3. 静脈血採血		4
7.8	創傷管理技術	7.創傷の治癒に必要な基礎知識が理解できる。 8.創傷のアセスメントが理解できる。			1. 創傷の管理に関する基礎知識 2. 創傷のアセスメント 3. 洗浄 4. 包帯法の目的・方法・留意点・援助方法 演習: 包帯法		4
9	試験	筆記試験					2
10.11.12	与薬の技術	9. 薬物の基礎知識が理解できる。 10. 薬物に伴う法的責任、正しい管理方法が理解できる。 11. 指示された薬物を安全・適切に与薬する方法が理解できる。			1. 与薬の基礎知識 2. 各与薬方法 1)内服与薬 2)注射 3)直腸内方法 4)吸入 5)経皮的与薬 6)点眼・点耳 2. 与薬における看護の役割 3. 注射と安全		2
		12. 輸血の取り扱い方法が理解できる。 13. 輸血時の援助方法と合併症への対処方法が理解できる。 14. 各注射方法の基礎知識が理解できる。			1. 輸血の基礎知識 1)目的と適応 2)輸血用血液製剤 3)輸血の実際 2. 各注射法の基礎知識 1)注射器・注射針・輸液セットの構造 2)注射部位と刺入角度 3)留意事項		4
13					演習 筋肉内注射(注射部位: 三角筋)		2
14～15					演習 点滴静脈内注射(翼状針による血管確保)		4
16	試験	筆記試験 まとめ					1
合計時間数							31
講義形式 講義 演習							
成績評価 筆記試験・課題レポート(前半)50% ― 筆記試験・課題レポート(後半)50% ― 合計 100% ― 出席状況							
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 写真でわかる 基礎看護技術アドバンス 写真でわかる 臨床看護技術①アドバンス 写真でわかる 臨床看護技術②アドバンス							
履修の注意・受講条件 1.演習に向けては、自己学習時間を確保し事前学習をして臨むことが重要となります。 2.主体的に看護技術の習得に臨むこと。 3.実習室の準備・片づけは、注意事項に沿って的確に行うこと。							

科目名	討議法演習	担当講師	中村 千絵	単位・時間数	1単位(30 時間)	履修時期	1 年次 前・後期
関連科目	既習科目の全科目						
学習目標	1. 看護実践の中で課題を共有し、問題解決の方向性を導き出す方法としてのカンファレンスを実践できる。 1) 討議の意義と効果について理解できる。 2) カンファレンスが効果的に実践できる。 3) 看護におけるカンファレンスの意味と適切な運営方法の知識を理解できる。 4) 問題解決のため方法を導き出すことができる。						
回	学習目標				学習内容		時間
1～2	1. 討議の意義と効果について理解できる。				1. 討議の意義 1) 話すこととは 2) 聞くことは 2. 各討議法の種類と特徴 1) ディベート 2) カンファレンス 3) その他 3. カンファレンスの意義と効果 4. カンファレンスの目的		4
3～4					5. ディベートを通して意見の伝達方法を学ぶ 1) ディベートテーマに準じた動画視聴 2) ディベート準備のためのグループワーク		4
5～6	2. カンファレンスを効果的に実践できる。				ディベート演習		4
7	中間試験						1
8	2. テーマの選定方法を理解し、カンファレンスが効果的に実践できる。				6. テーマカンファレンスの意義 1) テーマの選定方法 2) テーマカンファレンスの効果的な運営方法		2
9					3) カンファレンスでの役割とその内容と実施方法		2
10～11					演習 テーマカンファレンス 1) テーマカンファレンスにおける事前準備 (グループワークを含む)		4
12～13	3. 看護におけるカンファレンスの意味と適切な運営方法の知識を理解できる。				8. 看護におけるカンファレンスの意義 1) 種類 2) 必要性 3) 目的 4) 看護カンファレンスの効果的な運営方法 (1) 役割について 5) カンファレンスを阻害する因子		4
14～15	4. 問題解決のため方法を導き出すことが出来る。				9. 事例によるカンファレンス演習 1) 看護問題について検討し、具体的な援助方法を話し合う (1) 役割決定 (2) 話し合い (3) 記録 (4) 評価		4
16	試験 まとめ						2
合計時間数							31
講義形式 講義 演習							
成績評価 筆記試験(2 回) 討議参加状況 レポート提出状況							
参考図書 川島みどり/杉野元子 看護カンファレンス 医学書院 篠田道子 チームの連携力を高める カンファレンスの進め方 第2 版							
履修の注意・受講条件 効果的な討議を実施し、お互いの考えを深めることにおいて重要な科目です。 学習効果を高めるための討議を実施します。討議方法は、臨地実習においても活用していきます。 課題レポート等の事前準備を確実にし、役割を意識した演習を心がけてください。							

科目名	看護研究概説Ⅰ	担当講師	京野順子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次/通年
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 看護研究の意義を理解し、研究活動の基本的な考え方及び研究の進め方の一連のプロセスとその方法を学び研究的態度を養う。 2. 看護職の研究への取り組みを知り、研究への意識や研究的態度を高める。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2	1. 看護研究の意義を理解し、研究活動の基本的な考え方及び研究の進め方の一連のプロセスとその方法を学び、研究的態度を養う。	1. 看護研究の意義・目的 2. 研究の種類と方法 1) 質的研究、量的研究 2) 調査研究、事例研究、実験研究、文献研究					4
3 4		1. 研究のプロセス 1) テーマの絞り方(概念枠組みの明確化) 2) 研究計画の立案 3) データーの収集法(観察法、面接、質問紙調査法、測定法) 4) データーの分析方法 5) 結果とその解釈 6) 研究結果の報告					4
5		1. 文献検討の意義と方法 2. 文献検索をおこなうための 5 つのポイント 1) 文献検索の準備 2) 研究内容のキーワード特定 3) 検索誌の特色と検索方法 4) 文献リストの作成 5) 文献検討と文献カード					2
6		1. 文献検索と文献入手方法演習					2
7 8		1. 研究と倫理 1) 基本的人権の擁護 2) 人権擁護のための 3 つの原則 (1) 危害や損傷の防止 (2) 説明・熟知・承諾 (3) プライバシーの保護(研究発表)					2
9		1. 研究計画書作成の意義 2. 研究計画書の内容 1) 研究テーマ 2) 研究の動機・必要性 3) 研究目的 4) 用語の定義 5) 研究方法 6) 倫理的配慮 7) 研究日程					2
10 11		1. 研究計画書作成					4
12 13 14 15		2. 看護職の研究への取り組みを知り、研究への意識や研究的態度を高める。 1. 看護学会参加 2. 研究論文の批評(クリティーク)					10
16	試験					1	
合計時間数							31
講義形式 講義、演習、グループワーク							
成績評価 授業態度・出席状況 (5%)、筆記試験 (45%)、研究計画書の作成(20%) レポート提出 (20%)							
テキスト 前田樹海他:APA に学ぶ看護系論文執筆のルール、 医学書院, 2013				参考図書参 小玉香津子・翰湖史子訳:看護研究計画書 日本看護協会出版会 足立はるゑ:看護研究サポートブック改定3版 メディカ出版 桂 敏樹:かんたん看護研究 南江堂			
履修の注意・受講条件							

科目名	看護研究概説Ⅱ	担当講師	中村千絵	単位・時間数	1 単位（15 時間）	履修時期	3 年次/通年
関連科目	看護研究概説Ⅰ 臨地実習：成人看護学Ⅰ、成人看護学Ⅱ、成人看護学Ⅲ、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、小児看護学、母性看護学、精神看護学						
学習目標	1. 実習での学びをもとに研究計画書を作成し、卒業研究論文をまとめることができる。 2. 卒業研究論文を発表することで研究的態度を身につける。						
回	学習目標	学習内容					時間
1	1. 実習での学びをもとに研究計画書を作成し、卒業研究論文をまとめることができる。	1. 卒業研究オリエンテーション 1) 研究計画書作成から発表までの日程・学習予定・内容について説明 （1）研究方法：ケーススタディ（質的研究） 2) 研究計画書の作成の意義 3) 研究計画書の内容 （1）研究テーマ （2）研究の動機（背景も含む） （3）研究の目的 （4）研究の意義（患者にとって・家族にとって・学生にとって）					2
2		1. 研究計画書の作成演習					2
3	2. 実習での学びをもとに卒業研究論文をまとめ、発表することで研究的態度を身につける。	1. 研究論文作成 1) はじめに 2) 研究方法 3) 倫理的配慮 4) 結果 5) 考察 6) 結論 7) 引用文献					2
4		1. 卒業研究発表オリエンテーション 2. 研究発表会の企画・運営 卒業企画委員との打ち合わせ					2
5		1. 研究発表 2. 講評（研究テーマ・研究方法の妥当性、研究への取り組み姿勢、論文のまとめ方、発表態度）					8
6							
7							
8							
合計時間数							16
講義形式 講義、実践確認							
成績評価 卒業研究論文内容、発表、研究論文提出状況							
テキスト 前田樹海他：APA に学ぶ看護系論文執筆のルール、 医学書院, 2013				参考図書 小玉香津子・輸湖史子訳：看護研究計画書 日本看護協会出版会 足立はるゑ：看護研究サポートブック改定3版 メディカ出版 桂 敏 樹：かんたん看護研究 南江堂 松本 孚・森田夏実（編）：看護のためのわかりやすいケーススタディ の進め方 第2 版 照林社			
履修の注意・受講条件 実習を通して卒業研究を行う領域を決め、テーマを設定し、まとめる。							

基礎看護学実習Ⅰ

実習時期	1 年次後期	実習単位・時間	1 単位（45 時間）
実習目的	健康障害をもつ人の理解および療養生活の現状を把握し、その人にあつた日常生活援助を実践することで基礎的援助の実践能力を養う。		
実習目標	1. 健康障害をもつ人の療養環境および生活の現状（自立を阻害している要因含む）を理解できる。 2. 健康障害にある人の療養生活上の欲求を理解できる。 3. 療養生活上の留意点と自立を考慮した日常生活援助の計画および実践ができる。 4. 療養生活者の反応を観察し、実践した援助行為について振り返ることができる。 5. 実践した援助行為についてまとめ、記録・報告できる。		

実 習 目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 健康障害をもつ人の療養生活の現状（阻害している要因含む）を理解できる。	1) 療養環境の状況とその理由を記述できる。 2) 療養生活状況を観察し、その内容を記述できる。 3) 適切な療養環境の調整方法を実践できる。 4) 療養生活状況において、阻害されている行動を観察し、記述できる。	(1) 病院施設内の見学及び各部署での説明を受け、療養環境を知る。 見学及び説明を受ける部門 臨床検査室、レントゲン室、栄養管理室、薬品管理室、外来、病棟、事務、その他 (2) 病棟・病室の構造 (3) 病室の温度・湿度・光・音・臭気など (4) 受け持ち患者の情報を収集し、療養生活スケジュールを把握する。 (5) 情報を整理し、日常生活動作で阻害されている部分およびその理由を明らかにする。
2. 健康障害にある人の療養生活上の欲求を理解し、援助方法を考えることができる。	1) 療養生活をどのように送りたいと考えているのかを観察し、記述できる。 2) 望む生活を送るために必要とされる援助を述べるができる。	(1) 生活をどのように送りたいと考えているかを知る (2) そのために、必要としていることは何かを知る。
3. 療養生活上の留意点と自立を考慮した、日常生活援助の計画および実践ができる。	1) 療養上の留意点を理解できる。 2) 日常生活援助の必要性を明らかにし、適切な援助法を計画できる。 3) 計画した援助を安全に配慮し、苦痛を与えずに実践できる。	1) ～3) にすべてに関連 (1) 治療および看護上促進に必要なこと、注意点、禁忌事項をあきらかにする。 (2) 阻害されている日常生活動作の援助計画を立案する。 (3) 1 に配慮し正確に安全、苦痛を与えないよう計画案を実施する。
4. 療養生活者の反応を観察し、実践した援助行為について振り返ることができる。	1) 援助前後の療養生活者の状態を観察し、記述できる。	(1) バイタルサインの測定、自覚症状の確認をする。 (2) 観察の結果から異常か正常か判断し、指導者に報告する。
	2) 援助を実践中、療養生活者の状態を観察し、記述できる。	(1) 援助行為中の顔色、表情、態度表現を確認する。 (2) 援助行為中、相手を気遣い言葉かけをする。
	3) 援助の効果について根拠を含めてきじゅつできる。	(1) 援助によって日常生活動作の欲求が満たされたか確認する。 (2) 阻害されている日常生活が改善されたか、また、緩和されたか確認する。
5. 実践した援助行為についてまとめ、記録・報告できる。	1) 援助の結果を記述できる。	(1) 実践した援助行為を正確な用語を用いて記述する。 (2) 実習目標 2－3－4 に基づいた内容である。 (3) 必要な内容を正確に記述する
	2) 援助の結果を記述に基づき報告できる。	(1) 記録を持参し指導者に報告をする。 (2) 報告後アドバイスを受ける。

実習方法	患者受け持ち制
	受け持ち患者で実践出来ない場合は、他の学生が受け持っている患者で経験する。
	毎日行動計画を立てて、それにもとづいて実習する。

記録用紙及び評価表	1号紙 基礎看護学実習Ⅰ 基礎情報
	2号紙 基礎看護学実習Ⅰ ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント
	3号紙 (1)(2)実践記録
	4号紙 基礎看護学実習Ⅰ まとめ
	基礎看護学実習Ⅰ 評価表

基礎看護学実習Ⅱ

実習時期	2年次後期	実習単位・時間	2 単位 (90 時間)
実習目的	健康障害にある人を総合的に理解し、その人に必要な、個別的・計画的な看護を行うことで、基礎的援助の実践能力を養う。		
実習目標	1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる。 2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる。 3. 健康障害にある人の看護問題を、優先順位にしたがい、問題解決のための計画(具体策)の立案ができる。 4. 健康障害にある人の計画(具体策)を実践し、その成果を評価・修正することができる。 5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる。		

実 習 目 標	行 動 目 標	学 習 内 容
1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる。	1) 患者に関する情報を意図的、系統的に収集できる。 2) 収集した情報をアセスメントの枠組みに分類して記録できる。	(1) 対象とのコミュニケーション (2) 家族・医療従事者からの情報 (3) カルテなど記録物からの情報 (4) 情報をアセスメントガイドにしたがって分類する。
2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる。	1) 分類した情報の意味を分析し、看護問題を抽出できる。 2) 抽出された看護問題の優先順位を述べるができる。	(1) 根拠となる情報を用いた情報の解釈 (2) 情報の総合・フォーカスアセスメント (3) 情報の分析 (4) 看護問題の抽出(看護診断) (5) 優先番号の付与
3. 健康障害にある人の看護問題を、優先順位にしたがい、問題解決のための計画(具体策)の立案ができる。	1) 患者に期待される結果として達成可能なレベルで長期目標・短期目標を設定できる。 2) いつ、どこで、どのような方法で看護援助を実践するのかを含めた内容で具体策の立案ができる。	(1) 達成可能な目標の設定 (2) 患者の健康障害の程度にあった援助方法の選択 (3) 具体的に実践可能な方法 何を、いつ、何を用い、何処で、どれくらい、どのように行うか (4) 看護チームの誰もが理解できる記述 (5) 簡潔、明瞭で、測定可能な表現
4. 健康障害にある人の計画(具体策)を実践し、その成果を評価・修正することができる。	1) 立案した計画(具体策)に基づいて安全安楽に、受け持ち患者の援助を実践できる。	(1) 患者の観察をし、状況に応じて援助計画を見直し適切に準備 (2) 患者・家族の同意や協力 (3) 危険の防止への配慮 (4) 負担を最小限にとどめる (5) プライバシーの保護 (6) 患者の反応に注意 (7) 不安を抱いた場合は支援を求める
	2) 計画(具体策)に基づいて実践した結果を評価し、必要に応じて修正できる。	(1) 患者の反応の観察 (2) 援助計画に基づいた実施後の観察 (3) 目標が達成されたか判断する (4) 目標が達成されない場合 ・再アセスメント ・問題の見直し ・援助計画の見直し、実践、評価
5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる。	1) 対象に対して相手を尊重した態度で接することができる。 2) 医療チームメンバーとの連携について述べるができる。 3) 実施した看護を医療チームの一員としての自覚を持ち、簡潔・明瞭・正確に報告・連絡・相談ができる。	(1) 実施した看護の内容 (2) 何を、いつ、何を用い、何処で、どれくらい、どのように行ったが、その結果 (3) 原則として午前・午後、病棟を離れるとき (4) カンファレンスで、自分の実施した援助などを発表し、チームからの助言や評価を得る。 (5) チームワークと看護師のモラルを持った行動

実習方法	1. 実習進度に伴い、学習の視点の重要度を変化させていく。
	2. 患者受け持ちについて＝原則として一人の患者を受け持ち、看護過程の技法を用いて看護を実践する。

記録用紙及び評価表	1号紙 基礎看護学実習Ⅱ 基礎情報
	2号紙 基礎看護学実習Ⅱ ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント
	3号紙 統合(関連図)・看護診断リスト
	4号紙 計画立案・実施・評価
	5号紙(1)(2) 行動計画および実践記録
	6号紙 基礎看護学実習Ⅱ まとめ
	基礎看護学実習Ⅱ 評価表

専門分野Ⅱ

成人看護学

目的

成人各期の人々を総合的に理解し、各々が役割責任を持ち活動し得るための健康の維持増進・疾病予防からの回復および QOL の向上に向けて、各健康レベルにある成人やその家族を援助するための看護の理論と方法を理解する。

目標

1. 成人期にある人々の身体的、心理・社会的特徴を理解する。
2. 成人の健康に影響する因子と、健康を維持・増進するための看護の役割を理解する。
3. 成人保健の動向から、成人期の健康問題、看護の特徴を理解する。
4. 成人期における看護の役割を理解する。
5. 成人期の健康レベルに応じた看護の役割を理解する。
6. 機能障害によって生じる健康上・生活上の問題を学び、その人に応じた看護の役割を理解する。
7. 健康障害にある人の看護問題を分析し、解決方法を計画し、実践に応用できる知識・技術・態度を習得する。
8. 成人看護学援助論、成人看護学対象論、成人看護学方法論を基盤とし、看護モデル活用による看護過程を理解し、成人看護を統合した実践理論を理解し、成人看護学実習に反映させる。
9. 保健医療チームにおける看護の役割機能を認識し、連携の必要性を理解する。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
成人看護学 概論	1. 社会環境と関わり合って生活している成人期の人々の、発達の特徴と課題、健康特性、役割機能を理解する。 2. 成人の健康に影響する諸因子を理解し、保健の必要性を理解する。 3. 成人保健の動向を知り、健康な生活を維持・増進するための看護の役割を理解する。 4. 成人期の心身・社会的成熟・適応に関する知識を深め、心身・社会的成熟・適応を促すための看護理論・方法を理解する。
成人看護学 援助論	1. 身体的・心理的に危機的状態にある人の、生命の危険に対応する看護と精神的支援を理解する。 2. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする人の看護を理解する。 3. 生活行動が障害された人の、生活の再構築に向けての看護を理解する。 4. 終末期にある人とその家族が質の高い生活を送れるための看護を理解する。
成人看護学 対象論 I, II	1. 呼吸機能障害、循環機能障害、栄養・代謝機能障害をもつ人とその家族への看護を理解する。 2. 内部環境調節機能障害、生体防御機能障害、排泄機能障害、性・生殖機能障害をもつ人とその家族への看護を理解する。 3. 脳・神経機能障害、運動機能障害、感覚機能障害をもつ人とその家族への看護を理解する。

教 科 目	学 習 目 標
成人看護学 方法論	1. 急性期，慢性期のそれぞれ特徴的な健康障害をもつ事例の，看護過程展開と技術演習を通し，問題解決のための思考過程と援助技術を習得する。 2. 成人看護における基礎的知識・技術，態度の統合を図って，実習へとつなげる。 3. 主体的に学習する姿勢（グループで話し合う過程から，論理的思考，発言力，聴く態度）を養う。
成人看護学 実習Ⅰ	生命の危機的状況にある成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
成人看護学 実習Ⅱ	生活行動に障害のある成人を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
成人看護学 実習Ⅲ	生涯にわたりセルフコントロールが必要な成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。

科目名	成人看護学概論	担当講師	高橋 文子	単位数・時間数	1単位(15 時間)	履修時期	1 年次・後期	
関連科目	既習科目すべて							
学 習 目 標	健康な成人の理解と健康の維持・増進，健康障害の予防について学ぶ。 1. 社会環境と関わり合って生活している成人期の人々の，発達の特徴と課題，健康特性，役割機能を理解する。 2. 成人の健康に影響する諸因子を理解し，保健の必要性を理解する。 3. 成人保健の動向を知り，健康な生活を維持・増進するための看護の役割を理解する。 4. 成人期の心身・社会的成熟・適応に関する知識を深め，心身・社会的成熟・適応を促すための看護理論・方法を理解する。							
回	学習目標	学習内容					時間	
1 2	1. 成人の特徴を理解できる	1. 成人看護学の位置づけ	成人看護学の概念					2
		2. 成人の発達段階と特徴	エリクソン・ハヴィガースト・レヴィンソンの理論 青年期の身体・生理的側面，知的・認知的側面，心理・社会的側面 壮年期の身体・生理的側面，知的・認知的側面，心理・社会的側面 向老期の身体・生理的側面，知的・認知的側面，心理・社会的側面					
		3. 生活者としての特徴	家族形態・機能，職業，生活習慣・生活様式 成人の生活と課題 人生や健康に関わる意識					2
		4. 家族看護	家族構造，家族機能					
3	2. 成人保健の動向を理解できる	諸統計からみた成人の健康問題	人口構成の変化，平均寿命 疾病の概況（有訴率・受療率・死亡の動向）					2
4	3. 成人期における健康問題を理解できる	1. 生活習慣に関連する健康障害	生活様式における食生活・行動パターンの変化 主な生活習慣病（癌疾患，心疾患，脳卒中，糖尿病，高血圧症，高脂血症）					
		2. 生活ストレスに関連する健康障害	ストレス関連疾患の要因					
		3. 職業に関連する健康障害	職業性疾病・業務上疾病（じん肺，有機溶剤中毒，振動性障害，職業癌，DVT作業，過労死）					
5 6	4. 健康の維持・増進・疾病の予防に向けた看護を理解できる	1. 保健・医療政策の動向	健康の定義，ヘルスプロモーションの概念 1 次，2 次，3 次予防の現状と対応，産業保健 「健康日本 21」「健康増進法」 難病対策					4
		2. 成人看護における倫理的課題	癌看護，ターミナル医療，救急医療・臓器移植 新薬開発の臨床試験・遺伝子診断 看護者が直面する倫理問題 看護業務と法的責任					
		3. 継続看護と健康教育	健康増進と教育，健康障害の予防 患者・家族への健康教育，社会資源の活用					
7	5. 成人の能力や生活背景をふまえた看護援助が理解できる	成人看護学に使用される理論・モデル	ニード論，ケアリング，セルフケア論，自己効力理論，適応理論，エンパワーメント，アンドラゴジー，ストレス理論・ストレスコーピング・危機理論，コンプライアンスとアドヒアランス					2
8	6 学習内容を総合的に理解する。	まとめ・試験					2	
合計時間数							16	
成績評価の方法		筆記試験						
テキスト		成人看護学 成人看護学概論【ヌーヴェルヒロカワ】，厚生統計協会【国民衛生の動向】						

科目名	成人看護学援助論Ⅰ	担当講師	皆川千年・富野江里子	単位・時間数	1単位(30 時間)	履修時期	2年次前期	
関連科目	既習科目すべて							
学習目標	1. 健康レベルを理解し、そのレベルに応じた看護を探究できる 2. 身体的・心理的に危機的状態にある人(急性期)の、生命の危険に対応する看護と精神的支援を理解することができる。 3. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする人(慢性期)の看護を理解することができる。 4. 人生最期のときを過ごす人の看護を理解することができる。 5. がん看護の特性を理解することができる。							
回	学習目標	学習内容					時間	
1	1. 健康レベルを理解する	1.健康レベルのとらえかた	1. 健康の維持・増進 2. 健康生活の急激な破綻 3. 障害をもちながらの生活とリハビリテーション 4. 健康生活の慢性的な揺らぎ 5. 人生の最期のとき					2
2	1. 急性期看護の特性を理解する	1.救命救急時の看護	救急医療・看護の場、プレホスピタルケア、救急医療・救急看護体制、法律と倫理 救急患者とその家族の特徴、緊急度と重症度、救急処置と看護、救急患者の主要病態と看護					2
3		2.周手術期の看護	周手術期看護の考え方、倫理的配慮、リスクマネジメント、手術患者の心理と苦痛					7
4			手術侵襲による生体反応と回復過程、術前・術中・術後の看護、術後合併症のリスク					
5			予測と予防的ケア、手術による変化・喪失の受容支援、セルフケアの支援、継続看護					
6			術式による看護、低侵襲術式の開発 術後疼痛への看護、痛みに影響する要因、痛みの緩和法、痛みの評価					
	理解の確認	中間試験					1	
7	2. 慢性期看護の特性を理解する	1.生涯セルフコントロールへの援助	慢性期にある人の心理・社会的特徴、疾病がライフスタイルに及ぼす影響、					6
8			慢性疾患患者のQOL、病気と共に生きる生活の支援、自己管理への支援、					
9			自己効力感強化の方法、自己概念の修正、家族・患者会による支援					
11	3-①人生最期のときを過ごす人の特徴と看護の役割が理解できる。 3-②人生最期のときを過ごす人を理解し、患者がよりよく生きるための看護を考えることができる	1. 終末期看護の考え 2. 全人的苦痛 3. 家族・遺族ケア	緩和ケア概論 身体的苦痛					2
12			緩和ケアとは、身体症状概論、疼痛の治療と看護、全身倦怠感の治療と看護、 食欲不振の治療と看護					2
14			精神的苦痛 がんに対する心の反応、がん患者の精神症状、不安がある患者・抑うつがある患者・せん妄がある患者の治療と看護					
15			社会的苦痛 スピリチュアルペイン 社会的苦痛とは、社会的苦痛のアセスメントとケア、社会資源とは、スピリチュアルペインのある患者へのケア、鎮静について					2
			患者ケア 遺族ケア ケアの対象としての家族、家族が低剰する苦悩、家族ケアにおける看護師の役割 悲嘆と遺族Care					2
10	4. がん看護の特性を理解する	1.化学療法と看護	全身機能・骨髄抑制、抗癌剤の与薬と看護、照射法と被爆防御					4
13		2.放射線療法と看護						
16	総合理解	試験					1	
合計時間数								31
成績評価の方法		筆記試験(配点 70%/皆川、30%/富野)						
テキスト:臨床外科看護総論		臨床外科看護学各論【医学書院】、成人看護学 周手術期看護論【ヌーヴェルヒロカワ】、成人看護学 慢性期看護論 第3版【ヌーヴェルヒロカワ】						
参考図書:成人看護学		成人看護学概論【ヌーヴェルヒロカワ】						

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	担当講師名	藤本具子 菅原慶勇		単位数 時間数	1単位 15 時間	履修時期	2年次前期
関連科目	人体の構造、人体の機能、各病態論、外科的治療論、関係法規、看護学援助論Ⅳ、成人看護学援助論Ⅰ、成人看護学対象論Ⅰ・Ⅱ							
学習目標	<概要> 健康障害により日常生活が規制され、身体機能障害と共生していく対象の心理・社会的変化を理解し、身体機能障害への適応、残存機能の維持、社会復帰への援助方法 及び家族への支援について学ぶ。 1. 生活行動が障害された人の機能障害と機能訓練、障害受容の過程について理解する。 2. 生活行動の再構築に向けた援助を理解する。							
回	学習目標	学習内容						時間
1 2 3 4	1. 生活行動が障害された人の機能障害と機能訓練、障害受容の過程について理解する。	リハビリテーションの考え方と看護	リハビリテーションの概念 リハビリテーション看護の定義と専門化 ・経過別(急性期・回復期・維持期)リハビリテーション リハビリテーションチームにおける看護の役割					4
			リハビリテーション看護を受ける対象者の心理 ・障害受容への援助 ・社会復帰(家庭復帰、職場復帰) ・家族への支援、社会資源					4
5 6	2. 生活行動の再構築に向けた援助を理解する。	リハビリテーションに関する基本的な支援内容を理解する	疾病・障害・生活機能の分類 リハビリテーションの分野 リハビリテーション医療の提供 地域リハビリテーション 機能障害と日常生活動作制限のアセスメント 代表的疾患のリハビリテーションプログラム(運動器系、中枢神経系など)					4
7		リハビリテーションを必要とする人の具体的な援助方法を理解する	代表的なリハビリテーション手技:技術演習 ・関節可動域訓練 ・筋力強化訓練 ・移動(歩行器・杖歩行・車いす) ・体位ドレナージ					2
8	3. 学習内容を総合的に理解する	試験 まとめ						2
合計時間数								16
成績評価の方法		出席状況, 筆記試験(配点:60 点/1～4 回、40 点/5～7 回)						
テキスト		系統看護学講座 別巻 3 リハビリテーション看護 【医学書院】.						
参考図書		成人看護学 リハビリテーション看護論, 【ヌーヴェルヒロカワ】						

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		成人看護学対象論Ⅰ 【呼吸・循環・栄養・代謝】		担当講師名	皆川千年 高橋文子	単位数・時間数	1単位(30 時間)	履修時期	2 年次前期
関連科目		既習科目すべて							
回	学習目標	学習内容						時間	
1 2 3 4 5	Ⅰ. 呼吸機能障害をもつ人の看護の役割を理解する	1. 機能障害と日常生活	呼吸機能のメカニズムと役割, 呼吸機能のアセスメント 呼吸機能障害がもたらす生命・生活への影響						2
		2. 症状と看護	呼吸困難, 喀血, 咳嗽・喀痰, 胸水, 胸痛, 喘鳴, チアノーゼ						2
		3. 検査と看護	肺音, 画像検査, 喀痰検査, 肺機能検査, 胸腔穿刺, 動脈血ガス分析, パルスオキシメーター, 気管支鏡						
		4. 治療と看護	薬物療法, 酸素療法, 吸入療法, 胸腔ドレナージ, 人工呼吸器, 肺理学療法, 手術療法						2
		5. 疾患と看護	肺炎・間質性肺炎, 肺気腫, 慢性呼吸不全, 肺癌, 気管支喘息, 気胸, 結核						
		6. 指導・教育	服薬指導, 禁煙指導, 喘息発作時の対応と予防指導, 慢性呼吸不全の呼吸療法と生活指導						2
		事例	気管支喘息患者の看護						2
6 7 8 9 10	Ⅱ. 循環機能障害をもつ人の看護	1. 機能障害と日常生活	循環機能のメカニズムと役割, 循環機能のアセスメント 循環機能障害がもたらす生命・生活への影響						2
		2. 症状と看護	ショック・心不全, 不整脈, 胸痛・胸内苦悶, 動悸, 血圧上昇・低下, 浮腫・うっ血						2
		3. 検査と看護	心電図, 中心静脈圧測定, 心エコー, 心臓カテーテル検査, 血管造影, 心筋シンチ, 負荷試験						
		4. 治療と看護	薬物療法, 酸素療法, 安静療法, 冠動脈インターベンション, 冠動脈バイパス術 ペースメーカー植え込み, 心臓リハビリテーション, 除細動, 手術療法,						2
		5. 疾患と看護	心不全, 狭心症, 心筋梗塞, 高血圧, 動脈・静脈疾患						
		6. 指導・教育	服薬指導, 禁煙指導, 心不全患者の生活指導, 血圧コントロールの生活指導						2
		事例	急性心筋梗塞患者の看護(急性期～回復期の看護)						2
11 12 13 14 15	Ⅲ. 消化・吸収・栄養代謝機能障害をもつ人の看護	1. 機能障害と日常生活	栄養・代謝機能のメカニズムと役割, 栄養・代謝機能のアセスメント 栄養・代謝機能障害がもたらす生命・生活への影響						2
		2. 症状と看護	咀嚼・嚥下困難, 腹痛, 食欲不振, 嘔気・嘔吐, 吐血・下血, 腹部膨満感, 腹水・黄疸, 肝性脳症						2
		3. 検査と看護	消化管造影・内視鏡検査, 嚥下テスト, エコー, 腹腔穿刺, 肝生検, 腹部血管造影						
		4. 治療と看護	薬物療法, 食事療法, 栄養管理, 運動療法, 手術療法, 安静療法, 放射線療法 食道静脈瘤硬化療法, 肝動脈塞栓術, 内視鏡的治療						2
		5. 疾患と看護	食道癌, 胃癌・大腸癌, 胃・十二指腸潰瘍, イレウス, 潰瘍性大腸炎, 肝炎, 肝硬変, 食道静脈瘤 脾炎, 胆石, 糖尿病, 高脂血症, 高尿酸血症						
		6. 指導・教育	服薬指導, 胃・腸切除術の合併症予防と生活指導, 胃・十二指腸潰瘍の生活指導 インターフェロン療法の生活指導, 肝機能障害の生活指導 高脂血症・高尿酸血症の生活指						2
		事例	胃癌で手術を受ける患者の看護(周手術期看護), 慢性肝炎・肝硬変患者の看護						
16	学習内容の確認	筆記試験						1	
合計時間数									31
成績評価の方法		筆記試験(中間、終講)							
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器, [3]循環器, [5]消化器, [6]内分泌・代謝, 【医学書院】							
参考図書		臨床外科看護総論 臨床外科看護学各論 【医学書院】							

科目名		成人看護学対象論Ⅱ 【内部環境・生体防御・性・生殖】	担当講師名	高橋文子 藤本具子	単位数・時間数	2 単位 (60 時間)	履修時期	2 年次前期・後期	
関連科目		既習科目すべて							
回	学習目標	学習内容						時間	
1 2 3 4 5	1. 内部環境調節機能障害をもつ人の看護を理解する	1. 機能障害と日常生活	内部環境調節機能のメカニズムと役割, 内部環境調節機能のアセスメント 内部環境調節機能障害がもたらす生命・生活への影響						10
		1. 症状と看護	発熱とうつ熱, 低体温, アシドーシスとアルカローシス, 乏尿, 無尿, 浮腫, 脱水, 尿毒症, 発汗						
		2. 検査と看護	腎機能検査, 腎生検, 腎盂造影, 基礎代謝, 水分出納						
		3. 治療と看護	薬物療法, 血液・腹膜透析療法, 腎移植, 食事療法, ホルモン療法, 手術療法						
		4. 疾患と看護	腎炎, 腎不全, バセドー病, 甲状腺癌, 副腎腫瘍, 脳下垂体腫瘍, 熱中症						
		5. 指導・教育	腎不全の病期に応じた生活指導(シャントの管理, 維持透析の生活指導)						
		事例	透析療法を受ける患者の看護						
6 7 8 9	2. 生体防御機能障害をもつ人の看護を理解する	1. 機能障害と日常生活	生体防御機能(免疫, 皮膚／粘膜)のメカニズムと役割, 生体防御機能のアセスメント 生体防御機能障害がもたらす生命・生活への影響						8
		1. 症状と看護	発疹, 創傷, 発熱, 倦怠感, 関節痛, 出血, 貧血, めまい, アレルギー症状, アナフィラキシーショック 免疫不全, 易感染						
		2. 検査と看護	アレルギー反応, 血清中の抗体・自己免疫検査, 血液検査, 骨髄穿刺, リンパ節生検						
		3. 治療と看護	薬物療法, 化学療法, 放射線療法, 骨髄移植・幹細胞移植, 輸血療法, 血漿交換療法, 理学療法,						
		4. 疾患と看護	アトピー性皮膚炎, SLE, MRSA, HIV感染症, 白血病, 悪性リンパ腫, 再生不良性貧血, DIC						
		5. 指導・教育	ステロイド療法の生活指導, 感染予防の指導, アレルギー疾患の生活指導, AIDSの生活指導						
		事例	白血病患者の看護						
10 11	3. 排泄機能障害をもつ人の看護を理解する	1. 機能障害と日常生活	排泄機能のメカニズムと役割, 排泄機能のアセスメント、排泄機能障害がもたらす生命・生活への影響						4
		2. 症状と看護	尿失禁, 尿閉, 乏尿・無尿・頻尿, 血尿						
		3. 検査と看護	尿検査, 尿流動態検査, 膀胱鏡,						
		4. 治療と看護	薬物療法, 手術療法, 骨盤底筋訓練						
		5. 疾患と看護	膀胱癌, 脳・脊髄からの疾患						
		6. 指導・教育	日常生活指導, 自己導尿指導,						
12 13 14 15	4. 性・生殖機能障害をもつ人の看護を理解する	1. 機能障害と日常生活	性・生殖機能のメカニズムと役割, 性・生殖機能のアセスメント、性・生殖機能がもたらす生命・生活への影響						8
		2. 症状と看護	性欲障害, 勃起障害, 射精障害, 陰分泌障害, 性交障害, 性器出血, 月経異常						
		3. 検査と看護	内診, 性機能検査, 精巢生検, 子宮卵管造影, 子宮・腔鏡, 細胞診, 不妊検査						
		4. 治療と看護	薬物療法, 化学療法, 放射線療法, ホルモン療法, 手術療法						
		5. 疾患と看護	乳癌患者の看護						
		6. 疾患と看護	前立腺肥大症, 前立腺癌, 子宮内膜症, 子宮癌, 乳癌, 性感染						
		事例	乳癌患者の看護						
16	5. 学習内容確認	終講試験						1	
合計時間								31	
成績評価の方法		筆記試験							
テキスト		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器, 【医学書院】 新体系看護学全書 内部環境調節機能障害. 身体防御機能障害【メジカルフレンド社】							
参考図書		臨床外科看護総論 臨床外科看護学各論.							

科目名	成人看護学対象論Ⅱ 【脳神経・運動・感覚機能障害】	担当講師	佐々木 薫 高橋 文子	単位数・時間数	2 単位 (60 時間)	履修 時期	2 年次後期			
関連科目	既習科目すべて									
回	学習目標	学習内容					時間			
1 2 3 4 5 6	1. 脳・神経機能障害をもつ人の看護の役割を理解する	1. 機能障害と日常生活	脳・神経機能のメカニズムと役割, 脳・神経機能のアセスメント 脳・神経機能障害がもたらす生命・生活への影響					10		
		2. 症状と看護	意識障害, 記憶障害, 運動麻痺, 高次脳機能障害 (失語・失認・失行) 頭蓋内圧亢進症状, 髄膜刺激症状							
		3. 検査と看護	CT, MRI, 脳血管造影, 脳波, 髄液検査							
		4. 治療と看護	薬物療法, 放射線療法, 手術療法, リハビリテーション							
		5. 疾患と看護	脳梗塞, クモ膜下出血, 髄膜炎, 脳腫瘍, ALS							
		6. 指導・教育	日常生活援助, 家族の介護指導と介護負担軽減, 社会資源の活用							
		事例	脳梗塞後, 片麻痺のある患者の看護							
		理解の確認	中間試験						1	
7 8 9 10 11	2. 運動機能障害をもつ人の看護の役割を理解する	1. 機能障害と日常生活	運動機能のメカニズムと役割, 運動機能のアセスメント 運動機能障害がもたらす生命・生活への影響					10		
		2. 症状と看護	神経障害, 麻痺, 拘縮, 変形, 疼痛, 出血, 深部静脈血栓							
		3. 検査と看護	四肢長の測定, ROM, MMT, ADL査定, 脊髄造影, 関節穿刺・造影							
		4. 治療と看護	薬物療法, 安静療法, 手術療法, 牽引療法, シーネ・ギプス固定 関節可動域訓練, 筋力増強訓練							
		5. 疾患と看護	変形性股・膝関節症, 腰椎椎間板ヘルニア, 脊髄損傷, 骨折, 関節リウマチ, 骨腫瘍							
		6. 指導・教育	免荷, 歩行補助具, 自助具の指導, 人工関節置換術後の生活指導							
		事例	人工股関節置換術を受ける患者の看護							
12 13 14 15 16		3. 感覚機能障害をもつ人の看護の役割を理解する	1. 機能障害と日常生活	感覚機能のメカニズムと役割, 感覚機能のアセスメント 感覚機能障害がもたらす生命・生活への影響					10	
	2. 症状と看護		視力低下, 視野異常, 失明, めまい, 頭痛, 難聴, 耳鳴 神経性嗅覚障害, 味覚低下, 触覚異常							
	3. 検査と看護		視力・眼底・視野検査, 眼圧検査, 聴力検査, 味覚検査, 触覚機能検査, 平衡機能検査							
	4. 治療と看護		薬物療法, 手術療法							
	5. 疾患と看護		緑内障, 糖尿病網膜症, 中耳炎, メニエール病, 副鼻腔炎, 舌癌							
	理解の確認		終講試験							
合計時間数								31		
成績評価の方法	筆記試験									
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経, [10]運動器, [13]眼, [14]耳鼻咽喉, 【医学書院】									
参考図書	リハビリテーション看護論 【ヌーヴェルヒロカワ】 臨床外科看護総論 臨床外科看護学各論 【医学書院】									

科目名	成人看護学方法論 (演習)	担当講師	藤本具子 皆川千年	単位数時間数	1単位(30 時間)	履修時期	2 年次後期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 急性期、慢性期のそれぞれ特徴的な健康障害をもつ事例の、看護過程展開と技術演習を通し、問題解決のための思考過程と援助技術を理解する。 2. グループで話し合う過程から、論理的思考、発言力、聴く態度、主体的に学習する姿勢を学ぶ。						
回	学習目標	学習内容					時間
1	1.慢性期の健康障害をもつ人の、自己管理を支援するために必要な知識・技術・態度を理解する	1. 糖尿病の食事療法・運動療法・合併症予防					12
2		2. 事例に基づいた看護過程を展開する(グループ学習・発表)					
3		1) 対象の食事や運動などの日常生活習慣、および健康管理への意識などをアセスメントし、必要な教育計画を立案・実施する					
4		2) 食事療法、運動療法の教育を含む生活調整の支援、合併症予防と管理のための教育					
5		3) 慢性疾患をもつ人とその家族が、療養生活を継続するために必要な心理社会的支援を考える。					
6		4) 心理社会的支援と態度、社会資源					
7		2. 血糖コントロールに必要な検査である、自己血糖測定を実施する。					
	1) 対象が自己血糖測定の手技を獲得し、血糖のコントロール状態をアセスメントできるために、必要な教育計画を立案・実施する。						
	2) 自己血糖測定、教育技術						
8	2.手術適応となったがん患者の事例を通し、開腹・開胸術を受ける患者の術前・術後の看護の特徴を理解する	1. 周手術過程に応じた看護過程を展開する。(グループ学習・発表)					12
9		【術前】術前のアセスメント、術前の指導、術前準備					
10		【術後】					
11		1) 観察、創部・ドレーン管理					
12		2) 呼吸訓練、排痰を促す援助(術後合併症予防)					
13		3) 体位変換、安楽な体位					
14		4) 輸液の管理					
15		5) 疼痛緩和への援助					
	6) 早期離床への援助					4	
	7) 術後の食事指導						
	8) 退院に向けて、セルフケアを支援する看護						
	2. 周手術期に必要な看護技術演習						
	1) 呼吸器合併症予防のケア:深呼吸・器具を用いた呼吸連取・ハフニング						
	2) 肺塞栓症/深部静脈血栓症予防のケア:足関節自動運動・弾性ストッキング着脱						
	3) 輸液ポンプ・シリンジポンプ操作						
	4) 気管内挿管の介助						
	5) 術後患者モデルの観察						
合計時間数							30
成績評価の方法	小テスト(知識確認)、レポートおよび事例記録(個人ワーク、グループワーク、看護過程演習、看護技術演習)発表・学習態度、出席状況から総合的に評価する。(配点 50%/高橋、50%/皆川)						
テキスト	写真でわかる臨床看護技術①②アドバンス、系統看護学講座 専門分野成人看護学[6]内分泌・代謝[医学書院]						
参考図書	これまでの成人看護学及び基礎看護学で使用したテキストすべて						
履修条件	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学対象論Ⅰ・Ⅱの内容を理解していること グループワークを通じた学習が多いため各自が責任をもって一つひとつの課題に丁寧に取り組む必要があります						

成人看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 成人看護学実習Ⅰ（急性期）

実習目的	生命の危機的状況にある成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
実習目標	1. 急性期にある人とその家族の特性が理解できる。 2. 危機状態にある人とその家族への看護が理解できる。 3. 手術療法を受ける人とその家族の特徴を理解し、状態に応じた看護が実践できる。 4. 生体機能の順調な回復を促し、回復状態に合わせた日常生活自立のための援助ができる。

2. 成人看護学実習Ⅱ（リハビリテーション期）

実習目的	生活行動に障害のある成人を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
実習目標	1. リハビリテーションの対象となる障害を理解し、生活行動の障害の原因（病態）・状況が理解できる。 2. 障害受容に向けての援助ができる。 3. リハビリテーションプログラムを理解し、看護援助に結びつけることができる。 4. 日常生活動作および生活関連活動への自立を援助し、早期に社会復帰でき、生活の質を高めるように支援できる。

3. 成人看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期）

実習目的	生涯にわたりセルフコントロールが必要な成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
実習目標	1. 健康障害が成人とその家族の生活にもたらす影響を理解できる。 2. 障害をもちながらも、生涯セルフコントロールにより、生活の質を高められるようなセルフケア教育・健康教育ができる。 3. 生活適応への援助に必要な能力を啓発し、継続看護の役割と重要性を理解できる。 4. 慢性的な経過をたどりながら徐々に変化していくなかで、今を生きていく人と家族の生活の質を高めるための援助が理解できる。 5. 終末期にある人とその家族への援助が理解できる

II. 実習の方法

1. 実習単位：6 単位、270 時間
2. 実習時期：3 年次（前期・後期）
3. 実習期間：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、それぞれ 2 単位 90 時間（3 週間）を行う。
4. 実習施設：市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、外旭川病院
5. 主たる実習病棟など
〈市立秋田総合病院〉
3 階南病棟、7 階北病棟、7 階南病棟、ICU、手術室、透析センター
〈秋田厚生医療センター〉
東 4 病棟、東 5 病棟、西 5 病棟、東 6 病棟、西 6 病棟、東 7 病棟、西 7 病棟、腎センター、手術室
〈外旭川病院〉
2 階病棟、5 階病棟

6. 実習方法

1) 3週間を1クールとして、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて設定する健康のレベル…急性期、リハビリテーション期、慢性期・終末期の成人1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。

2) 受け持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。

3) 実習配置: 実習配置表参照

4) 実習記録: 規定の実習記録用紙

1号紙: 個人情報・健康に関する情報

2号紙: ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント

3号紙: 統合(関連図)・看護診断リスト

4号紙: 計画立案, 実施・評価

5号紙: 毎日の行動計画・実践記録

6号紙: 実習のまとめ

7号紙: ICU見学記録用紙

8号紙: 手術見学申込書

9号紙: 透析室見学記録用紙

10号紙: ホスピス病棟見学実習記録用紙

5) カンファレンス

7. 見学実習 (ICU, 手術室, 透析センター、腎センター, 外旭川病院)

各見学実習においては、それぞれの健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する。

8. その他

実習事前準備として、成人期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康のレベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して、実習に臨むこと。

Ⅲ. 実習の評価

1. 評価対象: 学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況

2. 評価者: 実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う。

3. 評価基準: 評価表に基づき評価する。

4. 単位認定: 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの各期の実習終了後に評価し、単位認定とする。

5. 単位認定の条件: 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習終了後に評価し、単位認定とする。単位認定は学則に基づく。

老 年 看 護 学

目的

高齢者を取り巻く社会を理解し、高齢者の特徴と老化および各健康レベルに応じた看護に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。

目標

1. 老年各期にある人々の身体的・心理的・社会的側面と生活の場を理解し、それぞれにおける看護の機能、役割を理解する。
2. 老年各期にある人々の健康問題の動向と保健サービスを理解する。
3. 老年期に起こりやすい健康障害と関連する諸問題について理解し、老年看護を実践できる。
4. 高齢者に対し、自立性を尊重した健康維持のための知識、技術を理解し、実践できる。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
老年看護学 概論Ⅰ	1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面から高齢者特有の健康問題について理解する。 2. 高齢者を尊重した看護活動をすすめるための基本的な考え方を理解する。
老年看護学 概論Ⅱ	1. 老年期を生きる高齢者と高齢社会を理解する。 2. 高齢者を支える保健サービスと活動を理解する。
老年看護学 対象論	1. 老化が機能障害におよぼす影響と看護を理解する。 2. 老年期に多い疾患と、老化が疾患におよぼす影響・看護を理解する。 3. 高齢者によくある症状に対する基本的な看護について理解する。 4. 様々な健康レベルにある高齢者に対する看護の考え方と技術を理解する。
老年看護学 方法論	1. 高齢者に対する看護の特徴を理解する。 2. 様々な健康レベルにある高齢者に対する援助の考え方と技術を習得する。 3. 高齢者の自立に向けた援助のあり方を理解する。
老年看護学 実習Ⅰ	1. 慢性疾患を有する高齢者の特徴が理解できる。 2. 高齢患者を生活機能の観点からアセスメントし、個別性に応じた看護展開ができる。 3. 慢性疾患を有する高齢者とその家族への看護の基本が理解できる。 4. 高齢者個人に合った生活を送れるように支援できる。 5. 高齢患者および家族が社会資源を活用できるよう働きかけることができる。 6. 高齢患者、家族との良好な人間関係を築き、協力する態度を身につける。 7. 実習を通して成長できる。
老年看護学 実習Ⅱ	1. 急性期にある高齢者の特徴が理解できる。 2. 急性期にある高齢者とその家族への看護の基本が理解できる 3. 高齢患者、家族との良好な人間関係を築き、協力する態度を身につける。 4. 高齢患者を取り巻く医療チームの役割を理解し、協働した看護ができる。 5. 実習を通して成長できる。

科目名	老年看護学概論Ⅰ	担当講師	長谷川蘭子	単位・時間数	1単位（30時間）	履修時期	2年次・前期
関連科目	履修科目すべて						
学習目標	1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面から高齢者特有の健康問題について理解する。 2. 高齢者を尊重した看護活動をすすめるための基本的な考え方を理解する。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2 3 4 5 6 7 8 13 14 15	1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面から高齢者特有の健康問題について理解する。	1. 老年期の理解 1) ライフステージとしての老年期 2. 老年期を生きる人々の理解 1) 老化による変化 身体的・心理的・精神的・社会的側面 発達の側面 3. 高齢者と家族・社会 4. 地域で生活する高齢者 1) 老人クラブ運動会への参加 2) 高齢者疑似体験の演習					22
9 10 11 12	2. 高齢者を尊重した看護活動をすすめるための基本的な考え方を理解する。	1. 高齢者と倫理 1) 自尊心の尊重 2) 自己決定と成年後見制度 3) 高齢者差別、抑制について 2. 高齢者の保健活動の役割 1) 健康意識と生活の実態 2) 自立と健康づくりサポートシステム					8
16	試験						1
合計時間数							31
講義形式	講義 演習 老人クラブへの参加						
成績評価	筆記試験（60%） 課題レポート（30%） 出席状況（10%）						
テキスト	正木治恵他編：看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは 泉キヨ子他編：看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術				参考図書 坂井建雄他著：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①		

科目名	老年看護学概論Ⅱ	担当講師	長谷川蘭子	単位・時間数	1 単位 (15 時間)	履修時期	2 年次・後期
関連科目	履修科目すべて						
学習目標	1. 老年期を生きる高齢者と高齢社会を理解する。 2. 高齢者を支える保健サービスと活動を理解する。 3. 高齢者を取り巻く社会情勢を理解する。						
回	学習目標		学習内容				時間
1 2 3	1. 老年期を生きる高齢者と高齢社会を理解する。		1. 高齢者を取り巻く社会および対策 1) 老年保健・医療・福祉の動向 2) 老年保健・医療・福祉を支える法律・制度				8
4 5 6	2. 高齢者を支える保健サービスと活動を理解する。		1. 地域包括ケアシステムの概要 2. 地域包括ケアシステムを基にした地域作り 1) 認知症を有する高齢者の地域づくり ・グループワーク				4
7	3. 高齢者を取り巻く社会情勢を理解する。		1. 高齢社会の課題と対策 1) 高齢社会の課題と対策 2) 秋田県の課題 2) 高齢者を取り巻く多職種協働				2
8			高齢者に関わる法律・制度のまとめ 試験				2
合計時間数							16
講義形式	講義 グループワーク						
成績評価	筆記試験（70%） 課題レポート（20%） 出席状況（10%）						
テキスト	正木治恵他編：看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは 池田学著：認知症 専門医が語る診断・治療・ケア				参考図書 （財）厚生労働統計協会編： 国民衛生の動向 2019／2020 秋田市×（株）サイネックス 2019・2020 年度保存版 秋田市民便利帳		

科目名	老年看護学対象論	担当講師	長谷川蘭子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・前期
関連科目	履修科目すべて						
学習目標	1. 老化が機能障害におよぼす影響と看護を理解する。 2. 高齢者によくある症状に対する基本的な看護について理解する。 3. 老年期に多い疾患と、老化が疾患におよぼす影響・看護を理解する。 4. 様々な健康レベルにある高齢者に対する看護の考え方と技術を理解する。						
回	学習目標		学習内容				時間
1	1. 老化が機能障害におよぼす影響と看護を理解する。		1. 予備力・適応力の低下 2. 高齢者の廃用症候群と看護 1) 2 次的・3 次的障害の原因と予防 2) 廃用症候群の予防と看護 3. 日常生活の維持向上				2
2 3 4 5	2. 高齢者によくある症状に対する基本的な看護について理解する。		1. 栄養代謝機能の問題 1) 栄養・食事への援助 2) 嚥下障害のある高齢者に対する援助 2. 排泄機能の問題 1) 尿失禁のある高齢者への援助 2) 高齢者の脱水の背景と要因・予防と看護 3. 内部環境調節機能の問題 1) 脱水 2) 不眠 3) 掻痒感				8
6			試験				1
6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	3. 老年期に多い疾患と、老化が疾患におよぼす影響・看護を理解する。 4. 様々な健康レベルにある高齢者に対する看護の考え方と技術を理解する。		1. 入院時・検査時の高齢者に対する看護 2. 急性期にある高齢者の看護 1) 大腿骨頸部骨折を起こした高齢者の特徴と看護 2) 感染症に罹患した高齢者の特徴と看護 3. 慢性期にある高齢者の看護 1) COPD を有する高齢者の看護 2) 認知症の特徴と看護 3) パーキンソン病を有する高齢者の看護 4. 終末期にある高齢者の看護 1) 心不全状態にある高齢者の看護 2) 高齢者の終末期の特徴・看護 3) 高齢者の尊厳を支える看取りと家族への支援 4. 薬物療法を受ける高齢者の看護				19
16	試験						1
合計時間数							31
講義形式 講義							
成績評価 筆記試験（90%） 出席状況（10%）							
テキスト 正木治恵他編：看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは 真田弘美他編：看護学テキスト NICE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 泉キヨ子他編：看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術 池田学著：認知症 専門医が語る診断・治療・ケア					参考文献 高木永子監：看護過程に沿った対象看護		

科目名	老年看護学方法論	担当講師	長谷川蘭子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・後期
関連科目	履修科目すべて						
学習目標	1. 高齢者に対する看護の特徴を理解する。 2. 高齢者の自立に向けた援助のあり方を理解する。 3. 安楽を促す看護を提供する援助方法を理解する。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2 3 4 5 6 7 8	1. 高齢者に対する看護の特徴を理解する。	1. フィジカルイグザミネーション 2. 生活機能評価 3. 高齢者看護で用いられる理論 1) コンフォート理論（コルカバ） 2) 移行理論（アフアフ） 4. コンフォート理論の展開 1) 基礎看護学実習Ⅱで受け持った患者を用いて展開する老年看護における看護過程 5. 老年看護における看護展開					16
9 10 11 12 13	2. 高齢者の自立に向けた援助のあり方を理解する。	2. 栄養 1) 高齢者の栄養 2) 胃瘻造設をしている高齢者の看護 3. 排泄 1) 高齢者の排泄 2) 膀胱留置カテーテル挿入をしている高齢者の看護 3. 活動と休息 1) 高齢者の歩行・移動 4. 身だしなみ					10
14 15	3. 安楽を促す看護を提供する援助方法を理解する。	1. 演習 1) ポジショニング 2) 口腔ケア					4
16	試験						1
合計時間数							31
講義形式	講義	演習	グループワーク				
成績評価	筆記試験（60％）		課題レポート（30％）		出席状況（10％）		
テキスト	正木治恵他編：看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは 真田弘美他編：看護学テキスト NICE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 泉キヨ子他編：看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術				参考文献	深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 深井喜代子編：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ キャサリン・コルカバ著 太田喜久子監訳 コルカバ コンフォート理論 理論の開発過程と実践への適応 アフアフ・イブラヒム・メレイス著 片田典子監訳 移行理論と看護 実践、研究、教育	

老年看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 老年看護学実習Ⅰ（慢性期）

実習目的	慢性疾患が高齢者におよぼしている影響を理解し、QOLが充実できるように看護展開ができる。
実習目標	1. 慢性疾患を有する高齢者の特徴が理解できる。 2. 高齢患者を生活機能の観点からアセスメントし、個別性に応じた看護展開ができる。 3. 慢性疾患を有する高齢者とその家族への看護の基本が理解できる。 4. 高齢者個人に合った生活を送れるように支援できる。 5. 高齢患者および家族が社会資源を活用できるよう働きかけることができる。 6. 高齢患者、家族との良好な人間関係を築き、協力する態度を身につける。 7. 実習を通して成長できる。

2. 老年看護学実習Ⅱ（急性期）

実習目的	急性期にある高齢者と家族を理解し、回復状態に合わせた看護展開ができる。
実習目標	1. 急性期にある高齢者の特徴が理解できる。 2. 急性期にある高齢者とその家族への看護の基本が理解できる 3. 高齢患者、家族との良好な人間関係を築き、協力する態度を身につける。 4. 高齢患者を取り巻く医療チームの役割を理解し、協働した看護ができる。 5. 実習を通して成長できる。

II. 実習の方法

1. 実習単位・実習時間：4単位 180時間
2. 実習時期：3年次（前期・後期）
3. 実習期間：老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、それぞれ2単位 90時間（3週間）を行う。
4. 実習施設：市立秋田総合病院
5. 主たる実習病棟：3階北病棟、6階南・北病棟、8階南病棟
6. 実習方法
 - 1) 3週間を1クールとして、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱにおいて設定する健康のレベル…急性期、慢性期にある高齢者1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。
 - 2) 受け持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。
 - 3) 実習配置：配置表を参照
 - 4) 実習記録：規定の実習記録用紙を使用
実習記録1号紙 フェイスシート
実習記録2号紙 ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント
実習記録3号紙 統合：看護診断
実習記録4号紙 看護診断・計画立案・実施・評価
実習記録5号紙 行動計画書・実践記録
実習記録6号紙 実習のまとめ
 - 5) カンファレンス

7. シミュレーション演習（老年看護学実習Ⅱで実施する）

1) 目的：メンバーとの演習を通して、自己の視野を広げることができる

2) 学習内容：

①シミュレーション演習を通して、適切な看護を追及する

②グループでの自らの役割を認識し、有意義なカンファレンスにする

8. その他

実習事前準備として「老年看護学実習 事前学習」の冊子および一般的な疾患（メカニズム、主な症状・検査・治療、看護等）を学習して実習に臨むこと。

Ⅲ. 実習の評価

1. 評価対象：学習内容、学習行動、看護過程、実習態度、出席状況

2. 評価者：実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う。

3. 評価基準：評価表に基づき評価する。

4. 単位認定：老年看護学実習Ⅰ・Ⅱの各期の実習終了後に評価し、単位認定とする。

5. 単位認定：老年看護学実習Ⅰ・Ⅱの各期の実習終了後に評価し、単位認定とする。単位認定は学則に基づく。

小児看護学

目的

小児が次の時代を担う大切な存在であること、周囲の影響を受けつつ日々成長・発達し続ける存在であることを理解した上で、疾病や障害を持つ小児と家族の看護のために必要な基礎的知識・技術を養う。

目標

1. 小児の特性を理解し、成長・発達の特徴と援助方法について学ぶ。
2. 家族・社会を含む小児の環境を踏まえ、小児の看護・保健・福祉について学ぶ。
3. 健康障害をもつ小児および発達段階に応じた小児の看護について理解する。
4. 健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するための基本的知識と技術について学ぶ。
5. 心身の成長・発達過程での異常や種々の疾患を理解し、小児の特性に配慮した看護について学ぶ。
6. 小児の看護実践に必要な知識・技術について述べることができる。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
小児看護学 概論	1. 小児の特性と看護の役割を理解する。 2. 小児看護を支える基本理念を理解する。 3. 小児の成長・発達の特徴を理解する。 4. 諸統計から小児・家族を取り巻く社会の変化を読み解き、小児の健康・保健・福祉について理解を深める。
小児看護学 対象論	1. 小児期の主な疾患について病態、症状、治療方法等を学ぶ。 2. 事例による看護過程展開を通して、小児のアセスメントに必要な知識・技術について述べる ことができる。(GW・発表)
小児看護学 方法論Ⅰ	1. 小児各期の特徴と健康増進のための看護を理解する。 2. 健康障害が小児・家族に及ぼす影響を理解する。 3. 小児の健康障害に伴う様々な状況と看護を理解する。
小児看護学 方法論Ⅱ	1. 小児のフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べる ことができる。 2. 小児の健康障害に伴う主な症状や援助方法について説明できる。 3. 小児が受ける主な検査・処置と、その援助方法について述べる ことができる。
小児看護学 実習	小児、家族および取り巻く人々を総合的にとらえ、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し 看護を必要としている人々に看護実践できる能力を養う。

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名	小児看護学概論	担当講師	薄田 悦子	単位・時間数	1 単位 (15 時間)	履修時期	2 年次・前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 小児の特性と看護の役割を理解する 2. 小児看護を支える基本理念を理解する 3. 小児の成長・発達の特徴を理解する 4. 小児・家族を取り巻く社会の変化を読み取り、小児の健康・保健・福祉について理解を深める						
回	学習目標		学習内容				時間
1	1. 小児の特性と看護の役割を理解する		1. 小児の特性と小児看護の対象 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児医療・小児看護の変遷 4. 小児看護の役割				2
2	2. 小児看護を支える基本理念を理解する		1. 小児看護の理念 2. 子どもの権利と権利保障 3. 小児医療における倫理的課題 4. 虐待が疑われる小児の看護				2
3 4 5 6	3. 小児の成長・発達の特徴を理解する		1. 成長・発達とは 2. 成長・発達の原則 3. 成長・発達に影響を及ぼす因子 4. 形態的発達 5. 機能的発達 6. 心理社会的発達 7. 発育・発達の評価				8
7	4. 小児・家族を取り巻く社会の変化を読み取り、小児の健康・保健・福祉について理解を深める		1. 小児・家族を取り巻く法律と政策 児童福祉法、母子保健法、児童虐待防止法、学校保健安全法 2. 小児医療・小児看護の現状と課題				2
8	試験とまとめ						2
合計時間数							16
講義形式	講義	ビデオ・DVD 視聴					
成績評価	筆記試験	受講態度・出席状況					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論；医学書院						

科目名	小児看護学対象論	担当講師	武田 修 薄田 悦子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・後期
関連科目	既習科目すべて						
学 習 目 標	1. 小児期の主な疾患について病態、症状、治療方法等を理解する。 2. 事例による看護過程展開を通して、小児のアセスメントに必要な知識・技術について述べることができる。						
回	学習目標			学習内容			時間数
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	1. 小児期の主な疾患について病態、症状、治療方法等を理解する。			1. 遺伝子・染色体の異常と形態異常 2. 新生児の特徴と疾患 3. 消化器機能障害 4. 呼吸器機能障害 5. 循環器機能障害 6. アレルギー性疾患 7. 造血器機能障害・癌 8. 代謝・内分泌機能障害 9. 腎・泌尿器機能障害 10. 脳神経機能障害 11. 感染症 12. 免疫疾患・膠原病 13. 精神領域の疾患			20
11	試験とまとめ						2
12 13 14 15	2. 事例による看護過程展開を通して、小児のアセスメントに必要な知識・技術について述べる ことができる。			1. 情報収集および情報の分析・解釈 2. 問題の抽出 3. 目標設定および計画立案 4. 実施・評価			8
16	試験						1
合計時間数							31
講義形式	講義	グループワーク	発表				
成績評価	筆記試験	レポート	受講態度・出席状況				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論；医学書院 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論；医学書院						

科目名	小児看護学方法論Ⅰ	担当講師	薄田 悦子 山本 尚樹	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 小児各期の特徴と健康増進のための看護を理解する。 2. 健康障害が小児・家族に及ぼす影響を理解する。 3. 小児の健康障害に伴う様々な状況と看護を理解する。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2 3 4	1. 小児各期の特徴と健康増進のための看護を理解する。	1. 小児各期の特徴 1) 小児各期とは 乳児期・幼児期・学童期・思春期 2) 形態的特徴 3) 生理的特徴 2. 小児各期の養育と健康問題 3. 小児各期の看護					8
5 6 7	2. 健康障害が小児・家族に及ぼす影響を理解する。	1. 外来受診時の小児と家族の看護 1) 外来看護の特徴 2) 外来の機能と求められる看護 2. 入院を必要とする小児と家族の看護 1) 小児の入院環境 2) 入院が小児・家族に及ぼす影響 3) 計画入院と緊急入院 3. 試験					6
8 9 10 11 12 13 14 15	3. 小児の健康障害に伴う様々な状況と看護を理解する。	1. 検査・処置を受ける小児の看護 2. 手術を受ける小児と家族の看護 3. 生活の制限を必要とする小児と家族の看護 (活動制限, 隔離, 食事制限等) 4. 救急救命処置が必要な小児と家族の看護 5. 先天的な問題をもつ小児と家族の看護 6. 心身に障害をもつ小児と家族の看護 7. 在宅療養を必要とする小児と家族の看護 8. 終末期にある小児と家族の看護					16
16	試験						1
合計時間数							31
講義形式	講義 ビデオ・DVD 視聴						
成績評価	筆記試験 レポート 受講態度・出席状況						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論；医学書 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論；医学書院						

科目名	小児看護学方法論Ⅱ	担当講師	大高 恵美 薄田 悦子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・後期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 小児のフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べるができる。 2. 小児の健康障害に伴う主な症状と援助方法について説明できる。 3. 小児が受ける主な検査・処置と、その援助方法について述べるができる。						
回	学習目標		学習内容			時間	
1 2 3 4 5 6	1. 小児の健康障害に伴う主な症状と援助方法について説明できる。		小児にみられる主な症状と看護 1. 発熱・発疹 2. 嘔吐・下痢・便秘 3. 脱水・浮腫 4. 意識障害・けいれん 5. 呼吸困難・チアノーゼ・ショック 6. 痛み・出血・貧血・黄疸			12	
7 8	2. 小児のフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べるができる。		1. 小児のアセスメントに必要な技術 コミュニケーション バイタルサイン, 身体測定 2. 小児の身体的アセスメント 一般状態, 眼・耳, 顔面・鼻・口腔, 呼吸, 心臓・血管系, 腹部, 筋・骨格系, 神経系, 生殖器系, リンパ系, 皮膚その他			4	
9 10 11	3. 小児が受ける主な検査・処置とその援助方法について述べるができる。		1. 与薬（内服薬・坐薬）, 経管栄養法 2. 酸素療法, 吸入, 吸引 3. 輸液管理 3. 検体採取（採血, 採尿） 4. 穿刺（腰椎穿刺, 骨髄穿刺）			6	
12 13 14 15			1. 演習 1) 乳児の採尿 2) 与薬（内服薬, 坐薬） 3) 点滴の固定と輸液管理 4) 腰椎穿刺・骨髄穿刺時の看護			8	
16	試験					1	
合計時間数							31
講義形式	講義	演習	DVD 視聴				
成績評価	筆記試験	レポート	受講態度・出席状況				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論；医学書院 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論；医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス 山元恵子・佐々木祥子 インターメディカ						

小児看護学実習

実習目的	小児、家族および取り巻く人々を総合的にとらえ、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し看護を必要としている人々に看護実践できる能力を養う
------	---

I. 実習目標および行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 小児各期の特徴と正常な成長・発達を理解することができる	1. 小児の身体の発育について記述し、発育の評価ができる 2. 小児の発達段階の特徴について記述できる 3. 健康な乳幼児の日常生活習慣の確立について記述できる
2. 小児各期の成長・発達段階に応じた接し方ができる	1. 小児の日常生活行動の援助について記述できる 2. 成長・発達段階に応じた保育のあり方について述べるができる 3. 健康な乳幼児のしつけの援助について記述できる 4. 乳幼児の健全な成長発達を促すための保育環境について記述できる 5. 成長・発達段階に応じた日常生活行動の援助ができる 6. 小児の安全・安楽に配慮して実施できる
3. 健康の保持増進・疾病予防のための援助ができる	1. 小児の健康の保持増進・疾病予防のための援助について記述できる 2. 小児の成長・発達段階に合った基本的看護技術が実践できる 3. 小児の成長・発達に合った指導の実際について記述することができる 4. 小児の健康管理について記述することができる
4. 小児各期の成長・発達段階、健康レベルにあわせた看護計画を立案することができる	1. 受け持ち患児の日常生活行動から入院前後の成長・発達段階の特徴を記述できる 2. 受け持ち患児の状態に応じた目標の設定ができる 3. 受け持ち患児の成長・発達段階・健康レベルに応じた看護計画を立案することができる 4. 健康の保持増進、疾病予防、回復促進できるような看護を実践することができる 5. 小児看護の特徴的な基本的看護技術を安全・安楽に行うことができる
5. 健康障害が小児、家族および取り巻く人々に及ぼす影響を理解することができる	1. 健康障害および入院・治療が成長発達や生活状況に及ぼす影響について記述することができる 2. 健康障害および入院・治療が家族に及ぼす影響について記述することができる
6. 医療チームの一員としての役割が理解できる	1. 受け持ち患児を中心とした他職種との連携について述べるができる 2. 入院児への慰安や教育・指導を目的としたイベントを企画・実施することができる

II. 実習方法

1. 実習時期:3年次(前期・後期)
2. 実習単位・実習時間:2単位90時間
3. 実習施設:市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター 市内3か所の保育所
4. 実習配置:配置表を参照
5. 受け持ちケースについて:小児を1例受け持ち、看護過程を展開する
6. 規定の実習記録用紙を使用
7. 実習評価:実習評価表に基づいて評価する
8. 評価対象:実習要項に沿って評価する

母 性 看 護 学

目的

母性の特徴を理解し、母性各期にある人を身体的・心理的・社会的側面からとらえ、健全なライフサイクルを送るために必要な看護の基礎的知識・技術を養う。

目標

1. 女性の健康保障に必要な情報や手段を学び、歴史、法律、社会的背景と関連していることを理解する
2. 母性看護学の対象の特徴を学び、母性各期の健康の保持・増進と、健康問題の予防活動を理解する
3. 妊娠、分娩、産褥期における母性の特徴について理解する
4. 妊娠、分娩、産褥期に起こりやすい異常の病態と検査、治療について理解する
5. 妊娠、分娩、産褥期および胎児・新生児に必要な援助方法について理解する
6. 妊娠、分娩、産褥期に起こりやすい異常の看護について理解する
7. 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象を理解し、母性看護援助技術が実践できる
8. 看護過程の考え方をうい、褥婦と新生児の看護計画を立案できる

科目構成と学習目標

教科目	学 習 目 標
母性看護学概論	1. 母性看護の基盤となる概念を記述できる 2. 母性看護の対象を理解し、取り巻く社会の変遷と現状を記述できる 3. 女性のライフサイクル各期における健康と健康問題の予防について記述できる
母性看護学対象論	1. 正常な妊娠期の身体的・心理・社会的変化と特徴を記述できる 2. 妊娠中に起こりやすい異常の病態、検査、治療について理解する 3. 正常な分娩期の身体的・心理・社会的変化と特徴を説明できる 4. 分娩経過中に起こりやすい異常の病態と検査、治療について理解する 5. 正常な産褥期の身体的・心理・社会的変化と特徴を記述できる 6. 産褥期に起こりやすい異常の病態、検査、治療について記述する
母性看護学方法論Ⅰ	1. 周産期の考え方と看護の基礎を理解する 2. 正常な妊娠期の身体的・心理社会的変化と特徴、及び看護を記述できる 3. 妊婦と胎児の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる 4. 正常な分娩期の身体的・心理社会的変化と特徴、及び看護を記述できる 5. 胎児から新生児への生理的变化、新生児の身体的特徴を記述できる 6. 新生児の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる 7. 正常な産褥期の身体的・心理社会的変化と特徴、及び看護を記述できる 8. 産褥期の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる

教 科 目	学 習 目 標
母性看護学方法論Ⅱ	1. 妊娠中の起こりやすい正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 2. 分娩期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 3. 産褥期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 4. 新生児の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 5. 新生児の全身状態を観察しながら、身体計測、及び沐浴ができる 6. 褥婦と新生児の看護計画を立案できる
母性看護学実習	1. 妊産褥婦、新生児の特徴を理解し、身体的、精神的、社会的側面から健康状態を捉える。 2. 科学的根拠に基づき、妊産婦、新生児の経過に応じた看護を実践する。 3. 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。 4. 看護実践を通して自己の母性、父性意識を発達させることができる。 5. 対象を尊重する姿勢を持ち看護師としての基本的態度を養う。

科目名	母性看護学概論	担当講師	佐々木寿美礼	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 母性看護の基盤となる概念を記述できる 2. 母性看護の対象を理解し、それを取り巻く社会の変遷と現状を記述できる 3. 女性のライフサイクル各期における健康と健康問題の予防について記述できる						
回	学習目標			学習内容		時間	
1	母性看護の基盤となる概念を記述できる			1. 母性とは 2. 生命誕生		2	
2				母性意識の発達過程		2	
3				1. セクシュアリティ 2. リプロダクティブヘルス／ライツ 3. ヘルスプロモーション		2	
4				1. 母性看護のありかた 2. 性教育		2	
5				母性看護における倫理		4	
6				母性看護における安全・事故防止			
7	母性看護の対象を理解し、それを取り巻く社会の変遷と現状を記述できる			1. 中間試験		4	
8				2. 母性看護の歴史的変遷と現状 3. 母性看護の対象を取り巻く環境			
9	女性のライフサイクル各期における健康と健康問題の予防について記述できる			女性のライフサイクルに伴う形態及び機能の変化と看護の必要性		2	
10				1. 思春期の女性の身体的、心理的、社会的特徴 2. 成熟期の女性の身体的・心理的・社会的特徴		2	
11				1. 更年期女性の健康と看護 2. 高齢化が女性の健康に及ぼす影響 3. 老年期女性の健康問題と看護		4	
12							
13							
14				健康教育		6	
15				グループワーク発表			
16	試験					1	
合計時間数							31
講義形式	講義	グループワーク	レポート				
成績評価	筆記試験(40 点×2) グループ発表(20 点)						
テキスト					参考図書		
系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院					厚生統計協会 国民衛生の動向		

秋田市医師会立秋田看護学校

科目名		母性看護学対象論	担当講師	軽部裕子	単位・時間数	1単位 (15 時間)	履修時期	2 年次前期
関連科目		既習科目すべて						
学 習 目 標	1. 正常な妊娠期の身体的・心理・社会的変化と、特徴を記述できる 2. 妊娠中に起こりやすい異常の病態、検査、治療について理解する 3. 正常な分娩期の身体的・心理・社会的変化と特徴を説明できる 4. 分娩経過中に起こりやすい異常の病態と検査、治療について理解する 5. 正常な産褥期の身体的・心理・社会的変化と、特徴を記述できる 6. 産褥期に起こりやすい異常の病態、検査、治療について記述できる							
回	学習目標			学習内容			時間	
1	正常な妊娠期の身体的・心理・社会的変化と、特徴を記述できる			正常妊娠			2	
2 3	妊娠中に起こりやすい異常の病態、検査、治療について理解する			1. 妊娠合併症 2. 流産 3. 早産 4. 常位胎盤早期剥離 5. 前置胎盤 6. 妊娠高血圧症候群			4	
4	正常な分娩期の身体的・心理・社会的変化と特徴を説明できる			正常分娩			2	
5	分娩経過中に起こりやすい異常の病態と検査、治療について理解する			1. 骨産道の異常 2. 胎位の異常 3. 胎児機能不全 4. 産科手術			2	
6	正常な産褥期の身体的・心理・社会的変化と、特徴を記述できる			正常な産褥			2	
7	産褥期に起こりやすい異常の病態、検査、治療について記述できる			1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 産褥血栓症 4. 精神障害			2	
8	試験			まとめ・試験			2	
合計時間数							16	
講義形式 講義								
成績評価 筆記試験(10 割)								
テキスト								
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院								

科目名	母性看護学方法論Ⅰ	担当講師	佐々木寿美礼	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次後
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 周産期の考え方と看護の基礎を理解する 2. 正常な妊娠期の身体的・心理的变化と特徴、及び看護を記述できる 3. 妊婦と胎児の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる 4. 正常な分娩期の身体的・心理的变化と特徴、及び看護を記述できる 5. 胎児から新生児への生理的变化、新生児の身体的特徴を記述できる 6. 新生児の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる 7. 正常な産褥期の身体的・心理・社会的変化と特徴、及び看護を記述できる 8. 産褥期の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる						
回	学習目標	学習内容					時間
1	周産期の考え方と看護の基礎を理解する	周産期とセルフケアと看護の役割 周産期における生殖器の構造、生理					2
2 3	正常な妊娠期の身体的・心理的变化と特徴、 及び看護を記述できる	妊娠期の身体的変化 妊娠期の心理・社会的特性					4
4	妊婦と胎児の健康状態の判断に必要な観察 点を記述できる	妊婦と胎児の健康状態および心理・社会面のアセスメン ト					2
5	正常な分娩期の身体的・心理的变化と特徴、	前半試験 分娩の経過					2
6 7	及び看護を記述できる	産婦と胎児の健康状態 分娩期を順調に経過するための援助 基本的欲求の充実の対する援助					4
8	胎児から新生児への生理的变化、新生児の 身体的特徴を記述できる	新生児の胎外生活への適応過程					2
9 10	新生児の健康状態の判断に必要な観察点を 記述できる	新生児看護の原則 新生児のアセスメントと評価					4
11 12	正常な産褥期の身体的・心理・社会的変化 と特徴、及び看護を記述できる	産褥期の順調な経過 褥婦と児の健康状態のアセスメント 家族の心理・社会面のアセスメント 産褥期の健康を促進させる援助					4
13	正常な産褥期の身体的・心理・社会的変化 と特徴、及び看護を記述できる	母乳育児を支援する援助					2
14 15	母性看護学で必要な技術を実施し、理解で きる	妊産婦への援助・演習 (妊婦の腹部触診・褥婦の観察・胎盤観察)					4
16	試験						1
合計時間数							31
講義形式 講義							
成績評価 筆記試験(40 点×2) レポート(10 点) グループワーク(10 点)							
テキスト							
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学 2				医学書院			
写真でわかる 母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子				インターメディカ			

科目名	母性看護学方法論Ⅱ	担当講師	佐々木寿美礼	単位 時間数	1単位 (30 時間)	履修時期	2 年次後期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 妊娠中の起こりやすい正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 2. 分娩期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 3. 産褥期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 4. 新生児の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 5. 新生児の全身状態を観察しながら、身体計測、及び沐浴ができる 6. 褥婦と新生児の看護計画を立案できる						
回	学習目標		学習内容			時間	
1 2 3	妊娠中の起こりやすい正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる		妊娠中の健康逸脱と看護			6	
4 5	分娩期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる		分娩経過の健康逸脱と看護			4	
6 7	産褥期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる		産褥経過の健康逸脱と看護			4	
8 9	新生児の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる		1. 新生児の健康逸脱と看護 2. 低出生体重児の看護 3. 先天異常、障害を持つ新生児と家族の看護			4	
10 11 12	新生児の全身状態を観察しながら、身体計測、及び沐浴ができる		1. 新生児のアセスメント 2. 沐浴演習 3. 沐浴指導案作成			6	
13 14 15	褥婦と新生児の看護計画を立案できる		看護過程演習			6	
16	試験		試験			1	
合計時間数						31	
講義形式 講義 演習 レポート							
成績評価 筆記試験(8割) 演習・レポート(2割)							
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 写真でわかる 母性看護技術アドバンス 平澤美恵子・村上睦子 インターメディカ							

母性看護学実習

I・目的

妊娠、分娩、産褥における母性の特徴を理解し、妊産褥婦及び新生児に必要な看護と、保健指導が行える基礎能力を養う。

II・実習目標及び行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 妊産褥婦の特徴を理解し、身体的、精神的、社会的側面から健康状態を捉える。	1. 対象の妊娠経過を説明する 2. 対象の分娩経過を説明する 3. 対象の産褥の経過を説明する 4. 対象の新生児の健康状態を説明する 5. 家族のサポート状況を記述できる。 6. 新生児・褥婦双方からの状態をアセスメントできる。
2. 科学的根拠に基づき、褥婦、新生児の経過に応じた看護を実践する。	1. 妊娠期の観察技術をおこなう。 2. 妊娠期の対象に応じた保健指導を記述できる。 3 褥婦、新生児の経過や特徴を考慮し看護目標を記述できる。 4. 褥婦、新生児が順調な経過をたどるための援助の計画ができる。 5. 産褥期の復古現象を促す援助をおこなう。 6. 母乳保育を促進する援助を行う。 7. 母子相互作用を促す援助を行う。 8. 新生児の観察技術を行う。 9. 新生児の日常の援助を行う。 10. 実践した結果から目標の達成度を評価できる。 11. 褥婦・新生児の安全、安楽を考慮して実施できる。
3. 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。	1. 出産、子育てを支援するための社会資源が述べられる。 2. 出産、子育てを支援する各職種と役割が述べられる。
4. 看護実践を通して自己の母性、父性意識を発達させることができる。	1. 看護実践を通して生命誕生と出産について自己の考えを述べることができる。 2. 看護実践での体験を振り返り母性看護についての自己の考えを述べられる。
5. 対象を尊重する姿勢を持ち看護師としての基本的態度を養う。	1. 対象および家族を尊重し、対象の自己決定権を守る。 2. 対象プライバシーを守る。 3. 指導・助言を受けた内容について取り組むことができる。 6. 記録物の提出期限を守ることができる

III・実習方法

1. 実習時期：3年次（前期・後期）
2. 実習単位・実習時間：2単位90時間
3. 実習場所：市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター
4. 実習配置：配置表を参照
5. 受け持ちケースについて：産婦または褥婦、新生児の母子を受け持ち、援助する。
6. 実習記録：規定の実習記録用紙を使用
7. 実習評価：実習評価表に基づいて評価する

精神看護学

目的 すべてのライフサイクルにある精神看護の対象を理解し、精神の健康の保持・増進および精神に障害をもつ人とその家族を援助するための基礎的能力を養う。

目標

1. 精神の健康概念とその保持・増進のための看護の基本概念を理解する。
2. 精神保健医療福祉の歴史と法制度について理解できる。
3. 精神症状と精神疾患の特徴、検査および治療方法、看護について理解する。
4. 人間関係を成立していくうえで自己活用と自分を知ることの重要性を理解し、自己洞察をする態度を養う。
5. 精神状態をアセスメントする技術について理解する。
6. 患者の人権と安全を守り、精神科看護におけるケアの方法を理解する。
7. 精神に障害をもつ人の生活の特徴と看護を理解し、それを基に必要な看護過程を展開できる。
8. 精神障害者の地域生活を支えていくための援助について理解する。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
精神看護学 概論	1. 精神看護の目的と意義を理解する。 2. 精神のしくみと働きを知り、精神の健康がどのように保たれているのかを理解する。 3. 人格の発達と情緒体験のプロセスについて理解する。 4. 精神の健康が傷害されやすい状況を理解する。 5. 精神の健康を保つための予防について理解する。 6. 現代社会における家族のありようや精神障害者を身内にもつ家族が置かれている現状を知り、必要な支援を行うことの重要性を理解する。 7. 精神医療と看護の歴史的変遷とそれぞれの時代における特色を理解する。 8. 精神医療に関する法の変遷と法の改正に伴う患者の変化を理解し、現在の精神医療の問題点を考える。
精神看護学 対象論	1. 精神症状と精神疾患、医学的検査とその必要性、脳の変化と障害との関係についての基礎知識を習得する。 2. 精神医療における治療の考え方、療法の特徴と各障害への適応について理解する。 3. 状態によってもたらされる生活の変化の把握と治療、看護について理解する。
精神看護学 方法論Ⅰ	1. 患者—看護師関係成立発展について理解できる。 2. 治療的コミュニケーション技術について理解できる。 3. 自己洞察の意義を理解し、再構成が実施できる。 4. セルフケア理論を理解し、生活に焦点をあてて情報収集しアセスメントすることができる。
精神看護学 方法論Ⅱ	1. 精神科看護におけるケアの方法について理解する。 2. 医療における患者の権利や処遇をめぐる問題を理解し、精神障害者をめぐるアドボカシーの考え方を学ぶ。 3. 精神医療におけるリハビリテーションの意味とサポートシステムを理解し、現状の課題を考える。
精神看護学 実習	1. 精神に障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病棟の構造と特徴について理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の特性を理解できる。 3. 精神に障害をもつ人の生活技能獲得への援助ができる。 4. 精神に障害をもつ人との関係を築き、発展させていくことができる。 5. 対象者とのかわりを通して、自己の傾向に気づき、自己洞察できる。 6. 薬物療法、レクリエーション・作業療法、その他の療法について理解できる。 7. 精神に障害をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて理解できる。

科目名	精神看護学概論	担当講師	京野順子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 精神看護の目的と意義を理解する。 2. 精神のしくみと働きを知り、精神の健康がどのように保たれているのを理解する。 3. 人格の発達と情緒体験のプロセスについて理解する。 4. 精神の健康が障害されやすい状況を理解する。 5. 精神の健康を保つための予防について理解する。 6. 現代社会における家族のありようや精神障害者を身内にもつ家族が置かれている現状を知り、必要な支援を行うことの重要性を理解する。 7. 精神医療と看護の歴史的変遷とそれぞれの時代における特色を理解する。 8. 精神医療に関する法の変遷と法の改正に伴う患者の変化を理解し、現在の精神医療の問題点を考える。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2	1. 精神看護の目的と意義を理解する。	1. 精神看護学の考え方 2. 精神障害の基本的な考え方 1) こころの健康とは 2) 障害の捉え方 3) 社会の変化とメンタルヘルス 4) 精神障害のきっかけとプロセス 5) 対象理解の難しさ 6) 精神障害とともに生きるということ					4
3	2. 精神のしくみと働きを知り、精神の健康がどのように保たれているのを理解する。	1. 人間のこころと行動 1) 人のこころのさまざまな理解 2) こころと環境					2
4	3. 人格の発達と情緒体験のプロセスについて理解する。	1. 人格の発達と情緒体験 1) 対人関係論の立場から 2) 対象との出会い 3) 母子関係の発展					2
5		映画から学ぶ精神看護					4
6	4. 精神の健康が障害されやすい状況状態を理解できる。	1. 人生各期の発達課題 1) ライフサイクルとストレス 2) ライフサイクル各期における特徴と危機					4
7		2. 現代社会とこころ 3. 人間の性格傾向と生活様態、行動パターンの関連					2
8	前期試験・まとめ						2
8	5. 精神の健康を保つための予防について理解する。	4. 精神的不健康の予防 1) 第1次予防 2) 第2次予防 3) 第3次予防					4
9	6. 現代社会における家族のありようや精神障害者を身内にもつ家族が置かれている現状を知り、必要な支援を行うことの重要性を理解する。	1. 家族とその支援 1) 家族とは何か 2) 家族をみる視点 3) 家族の課題 4) 精神疾患と家族					
10	7. 精神医療と看護の歴史的変遷とそれぞれの時代における特色を理解する。	1. 精神医療と看護の歴史的変遷					2
11 12	8. 精神医療に関する法の変遷と法の改正に伴う患者の変化を理解し、現在の精神医療の問題点を考える。	1. 精神保健医をめぐる法律 1) 精神保健医療に関する法制度の変遷 2) 精神保健福祉法の基本的な考え方 3) 精神保健福祉法による入院形態					4
13	後半試験・まとめ						1
合計時間数							31
講義形式 講義、DVD、グループワーク							
成績評価 出席状況 課題提出2割 筆記試験8割							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版				参考図書 中井久夫・山口直彦 看護のための精神医学 医学書院		

科目名	精神看護学 対象論	担当講師	水俣 健一 備前由紀子	内藤 信吾 齋藤 武彦	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・前期
関連科目	既習科目すべて							
学習目標	1. 精神症状と精神疾患、医学的検査とその必要性、脳の変化と障害との関係についての基礎知識を習得する。 2. 精神医療における治療の考え方、療法の特徴と各障害への適応について理解する。 3. 状態によってもたらされる生活の変化の把握と治療、看護について理解する。							
回	学習目標	学習内容						時間
1 2 3 4 5 6 7 8	1. 精神症状と精神疾患、医学的検査とその必要性、脳の変化と障害との関係についての基礎知識を習得する。	1. 精神の機能と障害 1) 精神症状 (1)意識の障害 (2) 注意の障害 (3) 知覚の障害 (4) 記憶の障害 (5) 知能 (知的能力) の障害 (6) 思考の生涯 (7) 感情の障害 (8) 意思や意欲の障害 (9) 自我意識の障害 (10) 行動面に現れる障害 (11) 身体機能に現れる症状 2. 外因性精神障害 1) 器質製性・症状性精神障害 2) 精神作用物質 3) てんかん 3. 内因性精神障害 1) 統合失調症 2) 気分障害 4. 心因性精神障害 1) 神経症性障害 2) 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) 5. 児童・青年期精神医学 1) 人格障害 2) 発達障害						16
9 10	2. 精神医療における治療の考え方、療法の特徴と各障害への適応について理解する。	1. 精神科治療論 1) 薬物療法 (1) 抗精神病薬 (2) 抗うつ薬 (3) 抗不安薬 (4) 睡眠薬 2) 電気けいれん療法 3) 精神療法 (1) 精神療法に用いる用語 (2) 個人精神療法 (3) 集団精神療法 (4) 精神分析療法 (5) 行動療法 (6) その他 4) 社会療法						4
11 12 13 14 15	3. 状態によってもたらされる生活の変化の把握と看護について理解する。	1. 生活障害と看護の実践 1) 嗜癖、依存と反社会的行動との関連 2) 統合失調症のケース 3) 人格 (パーソナリティ) 障害のケース 4) うつ病のケース 5) 神経症のケース 6) 若年性障害：摂食障害のケース 7) 認知症のケース						10
16	試験						1	
合計時間数							31	
講義形式 講義 グループワーク								
成績評価 出席状況 課題提出 筆記試験 担当講師両方の成績で単位認定とする (水俣健一先生：7割、 備前由紀子先生：3割)								
テキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版								

科目名	精神看護学方法論Ⅰ	担当講師	京野 順子	単位・時間数	1 単位 (15 時間)	履修時期	2 年次・後期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 患者―看護師関係成立発展について理解できる。 2. 治療的コミュニケーション技術について理解できる。 3. 自己洞察の意義を理解し、再構成が実施できる。 4. セルフケア理論を理解し、生活に焦点をあてて情報収集しアセスメントすることができる。						
回	学習目標	学習内容					時間
1	1. 患者―看護師関係成立発展について理解できる。	1. ペプロウの人間関係論 1) 看護とは 2) 患者―看護師関係の 4 つの局面 3) 看護の役割					2
2 3	2. 治療的コミュニケーション技術について理解できる。	1. 治療的コミュニケーション技術 1) 治療的コミュニケーションの定義 2) 介入が必要な状況や現象 3) 介入方法 4) 介入の留意点 5) 患者―看護師のコミュニケーションの実際 (演習)					4
4 5	3. 自己洞察の意義を理解し、再構成が実施できる。	1. プロセレコードと再構成 1) プロセスレコードとは 2) プロセスレコードの活用目的 3) プロセスレコードの記述方法 4) 事例を通して (ペプロウの看護理論を用いて) (1) プロセスレコードの記録用紙の記入 (2) 発表と意見交換					4
6 7	4. セルフケア理論を理解し、生活に焦点をあて、情報収集しアセスメントすることができる。	1. セルフケア理論の理解 1) オレムによるセルフケアの定義 2) アンダーウッドによるオレム看護論の修正・操作化 3) ケアレベルとセルフケア評価 6) 事例を通して (1) セルフケア行動の観察のポイントと具体的援助方法					4
8	試験	精神看護学における看護の視点と方法についてのまとめ試験					2
合計時間数							16
講義形式 講義 グループワーク							
成績評価 出席状況 課題提出 2 割 筆記試験 8 割							
テキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際 メディカ出版				参考図書 田中美恵子編著 精神看護学 学生―患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版株式会社 中井久夫・山口直彦看護のための精神医学 医学書院			

科目名	精神看護学方法論Ⅱ	担当講師	中川まゆ子	単位・時間数	1 単位 (30 時間)	履修時期	2 年次・後期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 精神科看護におけるケアの方法について理解する。 2. 医療における患者の権利や処遇をめぐる問題を理解し、精神障害者をめぐるアドボカシーの考え方を学ぶ。 3. 精神医療におけるリハビリテーションの意味とサポートシステムを理解し、現状の課題を考える。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2 3 4 5 6	1. 精神科看護におけるケアの方法について理解する。	1. 精神科看護におけるケアの方法 1) 「治療的かわり」の考え方 2) 日常生活行動の援助 3) 服薬治療に関わる援助 4) ストレスマネジメント					12
7 8		映画から学ぶ精神看護					4
9	前期試験・まとめ						2
10		2. 入院環境と治療的アプローチ 1) 治療の場としての精神科病棟 2) 治療的環境 3) 精神科病棟でのミーティング —事例から考える—					4
11 12	2. 医療における患者の権利や処遇をめぐる問題を理解し、精神障害者をめぐるアドボカシーの考え方を学ぶ。	1. 看護の倫理と人権擁護 1) 精神医療におけるアドボカシーの必要性 2) 生活の場としての治療環境 3) さまざまな拘束の形 4) 支援者・被支援者のあるべき関係 5) 地域生活における権利擁護					4
13 14	3. 精神医療におけるリハビリテーションの意味とサポートシステムを理解し、現状の課題を考える。	1. 精神保健活動とリハビリテーション 1) リハビリテーションの考え方 2) 地域精神保健活動における社会資源の活用					4
15	後半試験・まとめ						1
合計時間数							31
講義形式 講義 DVD グループワーク							
成績評価 出席状況 課題提出 2 割 筆記試験 8 割							
テキスト ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版				参考図書 田中美恵子編著 精神看護学 学生—患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版株式会社 中井久夫・山口直彦看護のための精神医学 医学書院			

精神看護学実習

実習目的	精神に障害をもつ人を総合的に理解し、対象者とのかかわりを通して看護者の役割を学ぶ。
------	---

I. 実習目標および行動目標

実習目標	行動目標
1. 精神に障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病棟の構造と特徴について理解できる。	1) 病棟の構造や特徴について記述できる 2) 看護の役割・機能を記述できる。
2. 精神に障害をもつ人の特性を理解できる。	1) 生活背景・生育歴について理解できる。 2) 精神状態やその日常生活に及ぼす影響を記述できる。 3) 生活行動を把握し、その行動の意味を記述できる。 4) 健康的な側面を記述できる。
3. 精神に障害をもつ人の生活技能獲得への援助ができる。	1) 日常生活自立の程度を把握し、どのような援助が必要か記述できる。 2) 対象の健康的な側面を助長しながら、日常生活自立に向けての援助ができる。
4. 精神に障害をもつ人との関係を築き、発展させていくことができる。	1) 対象の表情・態度・会話・行動を拒否したり、評価しないであるがまを受け入れ関係を築くことができる。 2) 訴えの少ない場合には声がけ、コミュニケーションをとり関係を発展させることができる。
5. 対象者とのかかわりを通して、自己の傾向に気づき、自己洞察できる。	1) 自分自身に生じている感情や気持ちを記述することができる。 2) 対人関係における自己の傾向に気づくことができる。
6. 薬物療法、その他の療法について理解できる。	1) 薬物療法の意義、看護の役割を記述できる。 2) 服薬が患者に与える影響を記述できる。 3) レクリエーション・作業療法に参加し、対象者の表情や態度などの変化を観察し、どのような援助が必要か記述できる。
7. 精神に障害をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて理解できる。	1) 精神に障害をもち地域で生活している人との交流ができる。 2) 生活者としての自立に向けて支援するための社会資源について記述できる。 3) 支援する各職種と役割が延べられる。 4) 精神看護についての自分の考えを述べることができる。

II. 実習方法

1. 実習期間: 3年次 前期・後期
2. 実習単位・実習時間: 2単位 90時間
3. 実習場所:

病棟実習	市立秋田総合病院 4階病棟 精神科 (7日間) 秋田緑ヶ丘病院 北1病棟、北2病棟 西3病棟 西4病棟 (3日間)
精神科デイケア	秋田緑ヶ丘病院 精神科デイケア(1日)
指定障害福祉サービス事業所実習	地域生活支援事業 クローバー就労継続支援事業所 グループホーム事業 すずらん短期入所事業所(1日)

4. 実習配置: 配置表を参照
5. 受け持ちケースについて
 - 1) 市立秋田総合病院: 精神症状が比較的捉えやすく、日常生活に影響している患者とする。
 - 2) 秋田緑ヶ丘病院: レクリエーション・作業療法に参加している慢性期にある患者とする。
6. 実習記録: 規定の実習記録用紙を使用
7. 実習評価: 実習評価表に基づいて評価する。
8. 評価対象: 実習内容および記録・レポート、実習・カンファレンスに臨む姿勢、出席状況、技術到達度など

統合分野

在宅看護論

目的

地域で療養する人々、及び障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、在宅における看護活動に必要な知識・技術・態度を習得する。

目標

1. 在宅看護が必要とされる社会的背景を踏まえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動の特徴など、役割と重要性を理解する。
2. 保健・医療・福祉活動の中での在宅看護の役割を理解し、関係職種との連携・チームケアの重要性を理解する。
3. 地域で生活しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族への理解を深める。
4. 在宅看護活動に必要な基本的生活援助技術について理解できる。
5. 在宅療養生活を支える看護技術（医療ケア）が理解できる
6. 在宅療養における看護過程の展開を理解できる。
7. 地域の人を支える看護につながる保健活動と、様々な法律、制度、政策などを結び付け理解することができる。

科目構成と学習目標

教科目	学習目標
在宅看護概論	1. 日本の在宅看護が推進される社会的背景と在宅看護の変遷理解できる。 2. 在宅ケアにおける在宅看護の特徴・役割や機能を理解できる。 3. 在宅看護における個人・家族と集団を対象とした目的や活動の特徴を理解できる。 4. 在宅看護の基盤となる基本理念とその概要を理解できる。 5. 在宅看護の対象者の特徴について理解できる。 6. 在宅療養の成立要件を理解し、在宅療養者開始時に必要な支援について理解できる。 7. 在宅療養の場における家族の特徴について理解できる。 8. 家族に関するアセスメントを理解できる。 9. 療養者・家族双方に安全な在宅ケアを継続できるための支援について理解できる。
在宅看護環境論	1. 地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、チームケアの連携について理解できる。 2. 社会資源活用における看護師の役割を理解できる。 3. 医療保険制度の概要、給付の仕組みが理解できる。 4. 介護保険制度の概要が理解できる。 5. 生活保護制度の概要について理解できる。 6. ケアマネジメントの定義・概念、看護師が担う必要性を理解できる。 7. 介護保険制度におけるケアマネジメントの過程を理解できる。 8. 訪問看護の目的、制度、実施機関、法的責任および訪問看護師の役割を理解できる。 9. 訪問看護における看護過程と記録の意義や留意点について理解できる。 10. 在宅看護における危機管理の原則と基本を理解できる。 11. 在宅療養の場におけるリスクの特徴と日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を理解できる。 12. 障害者を支援する制度について理解できる。 13. 対象別在宅療養者とその家族を支える制度と社会資源について理解できる。 14. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源が理解できる。 15. 障害者の地域での暮らしを支える制度と、実践の場での支援を理解できる。
在宅看護ケア論Ⅰ	1. 在宅療養支援が必要である、生活ケア援助技術と医療的援助技術の概要を理解できる。 2. 訪問看護の特徴と対象者について理解できる。 3. 在宅療養生活を支える基本的な技術が理解できる。 4. 日常生活を支える看護技術が理解できる。 5. 療養を支える看護技術（医療ケア）が理解できる。

在宅看護ケア論Ⅱ	1. 在宅での看取り（医療ケア）が理解できる。 2. 災害準備期への支援と多職種連携について理解できる。 3. 在宅における看護過程の特質を理解する。 4. 在宅における事例から在宅療養者とその家族に対する看護過程の展開ができる。 5. 在宅看護における看護過程のプロセスを、演習を通して理解できる。 6. 地域の人を支える看護につながる保健活動と、様々な法律、制度、政策などを結び付け理解することができる。
在宅看護論実習	1. 地域で生活しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族の特性が理解できる。 2. 対象とその家族の自己決定を尊重しながら、生活を支援するための看護を実践する。 3. 地域における保健・医療・福祉活動の実際を知り、関係職種の連携と看護の役割について理解できる。 4. 在宅におけるマナー、態度を習得する。

科目名	在宅看護概論	担当講師名	井上千鶴子	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2 年次前期
関連科目	既習科目すべて						
科目の 目標	1. 在宅看護が必要とされる社会的背景を踏まえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動の特徴など、役割と重要性を理解する。						
回	学習目標		学習内容			時間数	
1	1. 日本の在宅看護が推進される社会的背景と在宅看護の変遷理解できる。		1) 在宅看護の背景 ①社会的背景と国民の価値観の変容 ②日本の在宅看護の変遷と今後の課題			2	
2	2. 在宅ケアにおける在宅看護の特徴・役割や機能を理解できる。 3. 在宅看護における個人・家族と集団を対象とした目的や活動の特徴を理解できる。		1) 在宅看護の基盤 ①在宅ケア ②在宅看護と訪問看護 ③在宅看護の役割・機能 2) 地域療養を在宅看護の役割・機能			2	
3	4. 在宅看護の基盤となる基本理念とその概要を理解できる。		1) 在宅看護を展開するための基本理念 2) 在宅看護における倫理			2	
4	5. 在宅看護の対象者の特徴について理解できる。		1) 在宅看護の対象者 ①在宅看護の対象と背景 ②法制度からみた対象者 ③ライフサイクルからみた対象者 ④健康レベルからみた対象者 ⑤疾患からみた対象者 ⑥障害レベルからみた対象者 ⑦生活の場からみた対象者 ⑧状態別・状況別対象者 ⑨地域社会における生活者としての対象者			2	
5						2	
6	6. 在宅療養の成立要件を理解し、在宅療養者開始時に必要な支援について理解できる。		1) 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 2) 在宅療養者への看護活動			2	
7	7. 在宅療養の場における家族の特徴について理解できる。 8. 家族に関するアセスメントを理解できる。 9. 療養者・家族双方に安全な在宅ケアを継続できるための支援について理解できる。		1) 在宅療養の場における家族のとらえ方 ①家族とは ②家族形態に応じた看護 2) 在宅療養者の看護への家族 ①家族の介護力のアセスメントと調整 ②家族関係の調整 ③ケア方法の指導 ④家族介護者の健康 ⑤レスパイトケア			2	
8			試験とまとめ			2	
合計						16	
講義形式		講義					
成績評価の方法		1. 筆記試験100点					
テキスト		ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版					

科目名	在宅看護環境論	担当講師名	井上千鶴子 八代雄市	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2 年次前期
関連科目	既習科目すべて						
科目の 目標	1. 保健・医療・福祉活動の中での在宅看護の役割を理解し、関係職種との連携・チームケアの重要性を理解する。 2. 地域で療養しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族への理解を深める。						
回	学習目標		学習内容			時間数	
1	1. 地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、チームケアの連携について理解できる。		1) 地域包括ケアシステム			2	
2) 療養の場の移行に伴う看護 3) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携			2				
3	2. 社会資源活用における看護師の役割を理解できる。 3. 医療保険制度の概要、給付の仕組みが理解できる。		1) 社会資源の活用 2) 医療保険制度 3) 後期高齢者医療制度			2	
4	4. 介護保険制度の概要が理解できる。 5. 生活保護制度の概要について理解できる。		1) 介護保険制度 2) 生活保護制度			2	
5						2	
6	6. ケアマネジメントの定義・概念 看護師が担う必要性を理解できる。 7. 介護保険制度におけるケアマネジメントの過程を理解できる。		1) 在宅看護における ケースマネジメント/ケアマネジメント			2	
7	8. 訪問看護の目的、制度、実施機関、法的責任および訪問看護師の役割を理解できる。 9. 訪問看護における看護過程と記録の意義や留意点について理解できる。		1) 訪問看護の特徴 2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション			2	
8			3) 訪問看護サービスの展開 4) 訪問看護の記録			2	
9	10. 在宅看護における危機管理の原則と基本を理解できる。 11. 在宅療養の場におけるリスクの特徴と日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を理解できる。		1) 在宅看護における危機管理 ①在宅療養の場で起こりうる事故の予防と対応 ②在宅医療におけるリスクの特徴 2) 日常生活における安全管理 ①家屋環境の整備 ②転倒転落の防止				

科目名	在宅看護ケア論Ⅰ	担当講師名	井上千鶴子	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2 年次 後期
関連科目	既習科目すべて						
科目の 目標	1. 在宅看護活動に必要な基本的な生活援助技術について理解できる。 2. 在宅療養生活を支える看護技術（医療ケア）が理解できる						
回	学習目標			学習内容			時間数
1	1. 在宅療養支援が必要である、生活ケア援助技術と医療的援助技術の概要を理解できる。			生活ケアと医療的ケア			2
2	2. 訪問看護の特徴と対象者について理解できる。			家庭訪問・初回訪問			2
3	3. 在宅療養生活を支える基本的な技術が理解できる。			1) コミュニケーション 2) フィジカルアセスメント			2
4				3) 環境整備 4) 生活リハビリテーション 5) 感染予防			2
5	4. 日常生活を支える看護技術が理解できる。			1) 食生活 2) 呼吸 3) 排泄			2
6				4) 睡眠 5) 清潔と更衣 6) 肢位の保持と移動			2
7	5. 療養を支える看護技術（医療ケア）が理解できる			1) 医療ケアの原理原則 2) 薬物療法			2
8				3) 排痰ケア 4) 気管カニューレ管理			2
9				5) 在宅酸素療法（HOT）			2
10				6) 在宅人工呼吸療法／非侵襲的陽圧換気療法			2
11				7) 在宅人工呼吸療養／ 気管切開下間欠的陽圧換気療法			2
12				8) 経管栄養 9) 中心静脈栄養			2
13				10) 排尿ケア 11) ストーマ管理			2
14				12) インスリン自己注射管理			2
15				13) 褥瘡 14) 足病変のケア			2
16				試験			1
合計							31
講義形式		講義・グループワーク・レポート					
成績評価の方法		1. 筆記試験100点					
テキスト		ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② メディカ出版					

科目名	在宅看護ケア論Ⅱ	担当講師名	井上千鶴子	単位数 時間数	1 単位 30 時間	履修時期	2 年次 後期
関連科目	既習科目すべて						
科目の 目標	1. 在宅療養における看護過程の展開を理解できる。 2. 地域の人を支える看護につながる保健活動と、様々な法律、制度、政策などを結び付け理解することができる。						
回	学習目標		学習内容			時間数	
1	1. 在宅での看取り（医療ケア）が理解できる。		1) ターミナルケア・在宅における看取り 2) 疼痛管理			2	
2	2. 災害準備期への支援と多職種連携について理解できる。		1) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 2) 在宅療養における災害対策 3) 地域包括ケアシステムにおける災害対策 4) 訪問看護師による災害時対応			2	
3	3. 在宅における看護過程の特質を理解する		1) 在宅看護過程 2) 在宅看護過程の特質 3) 在宅看護過程展開の視点 4) I C F			2	
4	4. 在宅における事例から在宅療養者とその家族に対する看護過程の展開ができる		在宅看護過程 事例と看護過程記録用紙を用いて （グループワーク）			2	
5						2	
6						2	
7						2	
8						2	
9						2	
10			2) 事例をもとにしたグループ発表、討議			2	
11						2	
12	5. 在宅看護における看護過程のプロセスを、演習を通して理解できる		ロールプレイ			2	
13						2	
14 15	6. 地域の人を支える看護につながる保健活動と、様々な法律、制度、政策などを結び付け、理解することができる		秋田市保健所での講義 保健所の概要や役割について 秋田市における地域保健活動について （ノート提出）			4	
16	試験		試験			1	
合計							31
講義形式		講義地域のト・グループワーク・演習					
成績評価の方法		後半試験 1. 筆記試験60点 2. グループワーク30点 3. ノート10点					
テキスト		ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版					

在宅看護論実習

実習目的

地域で生活しながら療養する人、及びその家族を対象として、看護実践が行える基礎能力を養う

実習目標及び行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 地域で生活しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族の特性が理解できる。	1. 療養者とその家族の健康状態や心身機能を記述できる。 2. 療養者とその家族の活動や参加（療養生活での希望、人生場面での関わりなど）を記述できる。 3. 療養者とその家族を取り巻く環境因子（物的、人的、社会的）を記述できる。 4. 療養者とその家族の個人因子（価値観やライフスタイルなど）を記述できる。 5. 家族や介護者による介護の状況について記述できる。
2. 対象とその家族の自己決定を尊重しながら、生活を支援するための看護を実践する。	1. 療養者と家族の状態や取り巻く状況をアセスメントできる。 2. 生活上の望みを明確にしたうえで、療養上の課題を抽出できる。 3. 療養者と家族の状況について関連図が作成できる。 4. 課題に対応した個別的な計画立案ができ、必要に応じて計画を評価修正できる。 5. 療養者・家族と共に考え、状況に合わせた援助方法を選択し、実践していくことの必要性を考察し、記述できる。 6. 療養者と家族を含めたチーム内で情報が共有されることにより、統一されたケアが行われている頃が理解できる。 7. 療養者とその家族の生活を尊重した支援の実践を記述できる。
3. 地域における保健・医療・福祉活動の実際を知り、関係職種との連携と看護の役割について理解できる。	1. 保健所および保健センターの機能と役割、活動内容を述べることができる。 2. 地域での看護活動に参加して、公衆衛生看護活動の実際を述べることができる。 3. 地域包括支援センターの役割と活動内容を述べることができる。 4. 相談や訪問、介護予防ケアマネジメントなどの実際を見学、体験し、多職種がどのように連携して活動を行っているかを考察し、述べることができる。 5. 介護保険法の概要を知り、介護サービスの仕組みについて述べることができる。 6. 介護支援専門員の役割を知り、在宅におけるケアマネジメントの実際を見学、考察し述べることができる。 7. 通所介護施設の役割と、通所介護施設における看護師の役割を述べることができる。 8. 介護保険サービスを利用している療養者への援助の実際を見学、体験し、対象、家族がサービスに期待することを考察し、述べることができる。
4. 在宅におけるマナー、態度を習得する。	1. 自己学習をして実習に臨むことができ、それぞれの施設において日々の具体的な行動目標を立てることができる。 2. 指導者に支援を求めることができ、指導の下で行動を修正できる。 3. 訪問時や実習施設において、マナーを意識した行動ができる。 4. 実習を通して、在宅看護においての看護観を述べるができる。 5. 記録物の提出期限を守ることができる。

在宅看護論の実習方法

1. 実習時期：3年次（前期・後期）
2. 実習単位・実習時間：2単位90時間
3. 実習施設：実習要項参照
4. 実習配置：配置表を参照
5. 受け持ちケースについて：訪問看護ステーションにて1例を受け持ち、看護過程を展開する。
6. 規定の実習記録用紙を使用
7. 実習評価：実習評価表に基づいて評価する。
8. 評価対象：実習要項に沿って評価する。

看護の統合と実践

目的

チーム医療及び他職種との協働の中で、看護をマネジメントできる基礎能力を養う

目標

1. 看護活動に伴う危険を認知したうえで、看護ケアの質的保障における安全管理の重要性を理解しあらゆる状況下のある患者の安全を守り、事故を未然に防止するための知識を学習する。
2. 広い視野に立った保健、医療、福祉を考えられる。
3. 災害及び災害看護に関する基礎的知識を習得し、看護が果たす役割を理解する
4. 新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動と看護管理をとらえることができる。
5. 臨床に近い状況下で総合的な判断、対応を体験することにより、多重課題を解決する能力を習得する。
6. 既習知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として、看護実践する能力を養う。

科目構成と学習目標

教科目	学 習 目 標
医療安全	1. 医療における患者の安全について理解する 2. 患者を取り巻く環境の危険因子が分かる 3. 看護ケアに伴う危険性が予測される 4. リスクマネジメントについて理解する
国際看護	1. 国際社会の現状と国際看護活動について理解できる 2. 世界の人々の健康問題について学び、異文化の価値観を尊重した看護について考えることができる 3. 国際看護活動の課題について考えことができる
災害看護	1. 災害及び災害看護に関する基礎的知識を理解する 2. 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備えについて理解する 3. 災害各期に送る看護師支援活動を通じ、看護が果たす役割を理解する
看護マネジメント	1. 看護マネジメントの本質と特徴を理解する 2. 看護実践の場におけるマネジメントの実際や課題を理解する 3. 看護に関連する管理諸理論や制度を理解し探求する 4. 看護の質向上に寄与する経営経済的視点から看護マネジメントを探求する
臨床看護の実践	1. 複数患者の疾患を理解し優先順位を考えた看護計画を立案し、実践できる 2. 看護実践中に起こりうる突発的事象に対して、対処方法を検討できる 3. チームメンバーと連携しながら状況に応じた看護を試みることができる 4. 積極的に演習に取り組み、自己の課題を見出せる
看護の統合と実践	1. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護援助を実践する 2. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる 3. 病院組織における看護管理について理解できる。 4. 療養者が安心して地域で生活するための病院の取り組みを理解できる。 5. 医療チームの一員としての役割と連携が理解し、自己の課題を明確にできる

科目名	医療安全	担当講師名	櫻 田 明 子	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2年次 後期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	看護活動に伴う危険を認知した上で、看護ケアの質的保証における安全管理の重要性を理解し、あらゆる状況下にある患者の安全を守り、事故を未然に防止するために、次の項目に関する内容を習得する。 1. 医療における患者の安全について理解する。 2. 患者を取り巻く環境の危険因子が分かる。 3. 看護ケアに伴う危険性が予測される。 4. 患者の安全を守るために必要な知識・技術を身につける。 5. リスクマネジメントについて理解する。						
講義計画 と 進め方	1. 看護のための安全管理 1 1) 看護における安全とは 2) 安全に影響を及ぼす要因 3) 事故発生のメカニズム ① ヒューマンエラーとは ② 人間の特性 2. 看護のための安全管理 2 1) 事故の原因と対策 ① 医療安全の対策 ② 報告事項 2) 医療事故の発生原因 3) 医療事故防止対策 リスクマネジメントの基本 4) 安全報告制度 5) 病院安全管理 3. 看護のための安全管理 3 1) リスク低減 4. 医療事故と法的責任 5. 事故防止のための看護技術1 6. 事故防止のための看護技術2 7. 事故防止のための看護技術3						
講義形式	講義						
成績評価の 方法	講義終了後、筆記試験を行い単位取得とする。						
テキスト・ 参考図書等	テキスト: ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 MCメディカ出版						
履修上の 注意・ 受講条件							

科目名	国際看護	担当講師名	新沼 剛	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	1 年次 後期
関連科目	人間関係論・社会学・社会福祉・ボランティア論・専門分野全体						
学習目標	広い視野に立った保健・医療・福祉を考えられる人材を育成する。 1. 国際社会の現状と国際看護活動について理解できる。 2. 世界の人々の健康問題について学び、異文化の価値観を尊重した看護について考えることができる。 3. 国際看護活動の課題について考えることができる。						
講義計画 と 進め方		授業展開		授業内容			
	第 1 回	ガイダンス		・国際看護の定義・目的・対象 ・世界の人々はどのような環境のもと どのような生活をしているのか			
	第 2 回	接続可能な開発目標 (SDGs) ①		・SDGs の定義 ・SDGs の保健分野の目標 (妊産婦の健康 こどもの健康)			
	第 3 回	接続可能な開発目標 (SDGs) ②		・SDGs の保健分野の目標 (感染性疾患、 非感染性疾患)			
	第 4 回	国際協力における保健医療専門 機関の役割・活動の実際①		・国連機関の役割と活動			
	第 5 回	国際協力における保健医療専門 機関の役割・活動の実際②		・政府系援助機関の役割と活動 ・赤十字、非政府組織 (NGOs) の役割と 活動			
	第 6 回	プライマリーヘルスケア (PHC)		・PHC の概念 ・ラクの物語の考察			
	第 7 回	社会的マイノリティ		・在留外国人の健康問題と看護 ・性的マイノリティの方々への健康問題と 看護			
	第 8 回	試験とまとめ		・既習内容の確認			
講義形式	講義						
成績評価の 方法	筆記試験 (100%)						
テキスト・ 参考図書等	テキストは特に定めず、プリントを配布する。						
履修上の 注意・ 受講条件	普段から新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で人間の健康や環境に影響を与える出来事 に関心を持ち、情報を収集しておく。						

科目名	災害看護論	担当講師名	藤田 正子	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2年次 前期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 災害及び災害看護に関する基礎的知識を理解する。 2. 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備えについて理解する。 3. 災害各期における看護師支援活動を通じ、看護が果たす役割を理解する。						
講義計画 と 進め方				学習内容			
	第1回	1. 災害看護の基礎		①災害とは ②災害救助法と関連法規 ③災害による疾病構造 ④災害看護の定義と役割 ⑤災害サイクル ⑥日常の個人装備			
	第2回	2. 災害サイクル急性期の看護		①トリアージ トリアージタグ使用 ②災害時にも逃してはいけない疾患			
	第3回			③災害現場の応急救護所での、トリアージ・ 応急処置・搬送			
	第4回・第5回			④被災地病院での活動 ⑤被災地の病院での、患者受け入れの 机上シュミレーション			
	第6回	3. 災害サイクル亜急性期の看護		①避難所で行う看護活動 ②巡回診療での看護活動			
	第7回	4. 災害サイクル長期、静穏期の 看護		①医療現場 ②生活支援(避難所・仮設住宅) ③医療施設における防災と減災 ④災害拠点病院			
	第8回	5. 試験・まとめ					
	講義形式	講義・グループワーク					
成績評価の 方法	出席状況・レポート・筆記試験						
テキスト・ 参考図書等	資料を講義ごとに配布予定						
履修上の 注意・ 受講条件	グループワークには積極的に参加すること シュミレーションなど動きやすい服装で参加すること						

科目名	看護マネジメント	担当講師名	吹谷 由美子	単位数 時間数	1 単位 15 時間	履修時期	2 年次 後期
関連科目	人間関係論・社会学・社会福祉・関係法規・看護概論・看護倫理・医療安全						
学習目標	目標 1. 新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かして行く活動として看護管理(看護マネジメント)をとらえることが出来る 2. 限りある資源を有効利用でき、それを維持し、活用して行くための仕組みを理解できる 学習目標 1. 看護マネジメントの本質と特徴を理解する 2. 看護実践の場におけるマネジメントの実際や課題を理解する 3. 看護に関連する管理諸理論や制度を理解し探求する 4. 看護の質向上に寄与する経営経済的視点から看護マネジメントを探求する						
講義計画 と 進め方	1. 看護とマネジメント ・看護管理の概略がわかる ・マネジメントプロセスとマネジメントサイクルがわかる ・看護のマネジメントが必要とされている場がわかる 2. ケアのマネジメント ・患者の権利を守るための概念について理解できる ・看護ケアシステムの種類と特徴について理解し、また他職種との連携・職務を理解することが出来る 3. 看護サービスのマネジメント ・医療サービスの概念がわかり、評価の必要性を理解できる ・組織をマネジメントするに当たり、理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化とのかかわりを理解することが出来る ・人的資源のマネジメントについて、看護システムの種類・看護単位・労働管理について理解することが出来る。 ・情報・物品のマネジメントを理解することができる 4. 看護をとりまく諸制度 ・看護の定義や看護を取り巻く環境要因としての諸制度を理解できる ・看護教育について理解することができる 5. マネジメントに必要な知識と技術 ・組織の構造とその原理について理解し、マネジメントの関連について理解できる ・組織における人間及び人間関係についての諸理論について理解できる ・組織の中での意思決定など個人の能力を広げるための要素について理解できる						
講義形式	講義						
成績評価の方法	筆記試験						
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院						
履修上の注意・受講条件							

科目名	臨床看護の実践	担当講師名	皆川千年	単位数 時間数	1単位 15 時間	履修時期	3 年次 前・後期
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1.複数の事例を理解し優先順位を考えた看護計画を立案し、グループで実践できる 2.看護実践中に起こった突発事象に対して根拠に基づいた判断、実施、評価ができる 3.時間管理、看護チームにおける連絡、報告、相談の重要性がわかる 4.状況判断が必要とされる場面における自己の課題を明確にできる						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2	複数の事例を理解し優先順位を考えた看護計画が立案できる	1.授業計画ガイダンス 2.事例提示 3.複数事例のアセスメント、看護計画立案					4
3 4	時間管理、看護チームにおける連絡、報告、相談の重要性がわかる	1.多重課題への対処 2.優先度に合わせた援助計画 3.優先度に合わせた援助内容の修正					4
5	状況判断が必要とされる場面における自己の課題を明確にできる	1.自己の課題を見出す 2.まとめ					2
6 7 8	チームメンバーと連携しながら、看護実践中に起こった突発事象に対して根拠に基づいた判断、実施、評価ができる	演習 1.複数の受け持ち患者に対する看護実践 2.突発的な事象への対処 3.グループ討議を通して看護の優先度について振り返る					6
合計時間数							16
講義形式	講義、グループワーク、演習						
成績評価の方法	出席状況、演習状況、レポート						
テキスト及び資料	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践①看護管理【医学書院】、 必要時資料配布						
参考図書	新体系看護学全書 統合分野 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全【メヂカルフレンド社】						

秋田市医師会立秋田看護学校

看護の統合と実践

I・実習目的

既習知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として、看護実践する能力を養う。

II・実習目標および行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護援助を実践する	1. 複数患者の身体的、精神的、社会的側面から総合的に情報収集できる 2. 複数患者をアセスメントし、それぞれの関連図から看護診断を記述できる 3. 複数患者の優先順位を判断し、1日の目標の設定ができる 4. 複数患者の指示書の確認や状況から、その日の援助計画を立案できる 5. 複数患者へ安全・安楽に配慮した援助を実践できる 6. 患者の反応を確認しながら援助を実践できる 7. 複数患者へ行った援助を正確に報告・記録することができる 8. 複数患者へ行った援助を評価し、必要に応じ修正できる
2. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる	1. 夜間特有の患者の安全・安楽を考えた看護援助について記述できる 2. 指導者と行動を共にし、24時間の継続した看護の実践について理解できる
3. 病院組織における看護管理について理解できる。	1. 病棟管理者の役割が記述できる 2. 病棟の安全管理の視点・方法が理解できる 3. 看護部組織の中で報告・連絡・相談・調整が理解できる 4. 事故発生時の対策を理解し、患者の安全を優先した援助について記述できる
4. 療養者が安心して地域で生活するための病院の取り組みを理解できる。	1. 地域連携室の機能と実際を記述できる 2. 地域包括ケアシステムにおける病院・看護師の役割について記述できる
5. 医療チームの一員としての役割と連携が理解し、自己の課題を明確にできる	1. 指導者と共に行動し、看護チームの一員としてどのような役割をはたしているのか記述できる 2. 指導者と共に行動し、他の職種とどのように連携しているのか記述できる 3. カンファレンスの運営に積極的に参加し討議することができる 4. 自己学習をして、実習に臨むことができる 5. 相手の立場を理解し進んで協力し良い人間関係を持てる 6. 指導・助言を受けた内容について取り組むことができる 7. 相手を尊重した言葉使い、態度、身だしなみに気を付けることができる 8. 看護実践を通して自己の課題を明確にできる 9. 記録物の提出期限を守ることができる

III. 看護の統合と実践の実習方法

1. 実習時期：3年次（後期）
2. 実習単位・実習時間：2単位 90時間
3. 実習場所及び実習配置：市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター 配置表を参照
4. 受け持ちケースについて：複数の患者を同時に受け持ち、看護実践する。
5. 実習記録：規定の実習記録用紙を使用
6. 実習評価：実習評価表に基づいて評価する。
7. 評価対象：実習記録、実習態度、自己学習、出席状況

資料

看護技術の学習内容および卒業時の到達レベル

☆＜演習＞Ⅰ：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる Ⅱ：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる
 ☆＜実習＞Ⅰ：単独で実施 Ⅱ：指導の下で実施できる Ⅲ：実施が困難な場合は見学する

項 目	技術の種類	到達レベル	
		演習	実習
環境調整技術	1 快適な療養環境を整備	Ⅰ	Ⅰ
	2 臥床患者のリネン交換	Ⅰ	Ⅱ
食事の援助技術	3 食事介助(嚥下障害のある患者を除く)	Ⅰ	Ⅰ
	4 食事指導	Ⅱ	Ⅱ
	5 経鼻胃カテーテルによる流動食の注入	Ⅰ	Ⅱ
	6 経鼻胃チューブの挿入	Ⅰ	Ⅲ
排泄援助技術	7 排泄援助(床上・ポータブル・おむつ等)	Ⅰ	Ⅱ
	8 膀胱留置カテーテルの管理	Ⅰ	Ⅲ
	9 導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	Ⅱ	Ⅲ
	10 浣腸	Ⅰ	Ⅲ
	11 摘便	Ⅰ	Ⅲ
	12 ストーマ管理	Ⅱ	Ⅲ
活動休息援助技術	13 車椅子での移送	Ⅰ	Ⅰ
	14 歩行・移動介助	Ⅰ	Ⅰ
	15 体位変換・保持	Ⅰ	Ⅰ
	16 自動・他動運動の援助	Ⅰ	Ⅱ
	17 移乗介助ができる	Ⅰ	Ⅱ
	18 ストレッチャー移送	Ⅰ	Ⅱ
清潔衣生活援助技術	19 足浴・手浴	Ⅰ	Ⅰ
	20 整容	Ⅰ	Ⅰ
	21 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅰ
	22 入浴・シャワー浴の介助	Ⅰ	Ⅱ
	23 陰部の保清	Ⅰ	Ⅱ
	24 清拭	Ⅰ	Ⅱ
	25 洗髪	Ⅰ	Ⅱ
	26 口腔ケア	Ⅰ	Ⅱ
	27 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅱ
	28 新生児の沐浴・清拭	Ⅰ	Ⅲ
呼吸循環を整える技術	29 体温調節の援助	Ⅰ	Ⅰ
	30 酸素吸入療法の実施	Ⅰ	Ⅱ
	31 ネブライザーを用いた気道内加湿	Ⅰ	Ⅱ
	32 口腔内・鼻腔内吸引	Ⅱ	Ⅲ
	33 気管内吸引	Ⅱ	Ⅲ
	34 体位ドレナージ	Ⅰ	Ⅲ
創傷管理技術	35 褥瘡予防ケア	Ⅱ	Ⅱ
	36 創傷処置(創洗浄・創保護・包帯法)	Ⅱ	Ⅱ
	37 ドレーン類の挿入部の処置	Ⅱ	Ⅲ
与薬の技術	38 経口薬(パッカル錠・内服薬・舌下錠)の投与	Ⅱ	Ⅱ
	39 経皮・外用薬の投与	Ⅰ	Ⅱ
	40 座薬の投与	Ⅱ	Ⅱ
	41 点滴静脈内注射の管理	Ⅱ	Ⅱ
	42 皮下注射	Ⅱ	Ⅲ
	43 筋肉内注射	Ⅱ	Ⅲ
	44 静脈路確保・点滴静脈内注射	Ⅱ	Ⅲ
	45 薬剤等の管理ができる(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む)	Ⅱ	Ⅲ
救命救急処置技術	46 輸血の管理	Ⅱ	Ⅲ
	47 緊急時の応援要請	Ⅰ	Ⅰ
	48 一次救命ができる(BLS)	Ⅰ	Ⅰ
症状生体機能管理技術	49 止血法の実施	Ⅰ	Ⅲ
	50 バイタルサインの測定	Ⅰ	Ⅰ
	51 身体計測	Ⅰ	Ⅰ
	52 フィジカルアセスメント	Ⅰ	Ⅱ
	53 検体(尿・血液等)の取扱い	Ⅰ	Ⅱ
	54 簡易血糖測定	Ⅱ	Ⅱ
	55 検査の介助	Ⅰ	Ⅱ
	56 静脈血採血	Ⅱ	Ⅲ
感染予防の技術	57 スタンダードプリコーションに基づく手洗い	Ⅰ	Ⅰ
	58 必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の選択・着脱	Ⅰ	Ⅰ
	59 使用した器具の感染防止の取り扱い	Ⅰ	Ⅱ
	60 感染性廃棄物の取り扱い	Ⅰ	Ⅱ
	61 無菌操作	Ⅰ	Ⅱ
	62 針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅰ	Ⅱ
安全管理の技術	63 インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告	Ⅰ	Ⅰ
	64 患者の誤認防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ
	65 放射線の被ばく防止策の実施	Ⅰ	Ⅰ
	66 安全な療養環境(転倒・転落・外傷予防)	Ⅰ	Ⅱ
	67 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	Ⅱ	Ⅲ
	68 医療機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・酸素ボンベ・人工呼吸器等)の操作・管理ができる	Ⅱ	Ⅲ
安楽確保の技術	69 安楽な体位の調整	Ⅰ	Ⅱ
	70 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	Ⅰ	Ⅱ
	71 精神的安寧を保つためのケアができる	Ⅰ	Ⅱ
健康保持増進	72 健康相談・健康教育・退院指導	Ⅰ	Ⅱ

